大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

7

２００４年3月

大阪府教育委員会

平成14年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

平成14年４月16日

課長
参事

- 保存管理グループ
- 指定文化財グループ

文化財調査事務所　文化財保護課分室

- 調査管理グループ　調査管理補佐 堀江門也
  - 資料総括主査　大野　薫
    - 森井貞雄　主査　泉北資料館協力　事務所維持管理等
    - 兼　泰通　主査　積算及び竣工等
    - 松岡良憲　主査　（財）文調センター指導・調整・事業量調査
    - 竹原伸次　技師　年報・調査報告書　写真・保存処理等
    - 山田隆一　技師　遺物整理　資料管理・貸出等
    - 小浜　成　技師　遺物整理　非常勤職員賃金等
- 調査第一グループ　調査第一補佐 中井貞夫
  - 調査第一総括主査　岩崎二郎
    - 泉本知秀　主査　発掘調査・調整・指導（北河内）
    - 小林義孝　主査　発掘調査・調整・指導（中河内）
    - 阪田育功　主査　発掘調査・調整・指導（豊能　三島）
    - 宮崎泰史　技師　発掘調査
    - 奥　和之　技師　発掘調査
    - 山上　弘　技師　発掘調査
    - 横田　明　技師　発掘調査
    - 井西貴子　技師　発掘調査
    - 藤田道子　技師　発掘調査
- 調査第二グループ　調査第二補佐 高島　徹
  - 調査第二総括主査　広瀬雅信
    - 西口陽一　主査　発掘調査・調整・指導（南河内）
    - 藤沢眞依　主査　発掘調査・調整・指導（泉州）
    - 今村道雄　技師　発掘調査
    - 亀島重則　技師　発掘調査
    - 枡本　哲　技師　発掘調査
    - 大楽康宏　技師　発掘調査
    - 阿部幸一　技師　発掘調査
    - 西川寿勝　技師　発掘調査
    - 杉本清美　技師　発掘調査

（組織図に誤りがありましたので、差し替えてください）

はじめに

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報は、前年度に大阪府教育委員会が実施した埋蔵文化財の発掘調査や普及啓発活動をまとめ、広く府民の皆様に公開するものとして、平成９年４月に調査事務所が開所して以来発刊してきました。本書はその７として平成14年度における調査等の成果をまとめたものです。

この間における埋蔵文化財の発掘調査は、バブルの崩壊による景気低迷の中、景気浮揚策としての公共事業の前倒し事業などで毎年平均約50,000㎡の調査を実施してきました。平成14年度の調査面積は約38,000㎡と例年に比べて減少しましたが、四條畷市蔀屋北遺跡では、古墳時代中期の集落から馬の全身骨格、船を転用した井戸などが発見され、考古学史上有意義な成果をもたらした年でもあります。平成15年度以降は、埋蔵文化財の調査は増加の傾向にあり、新たな多くの考古学上の発見が期待されます。

大阪府は財政危機のなか、現在行財政改革に取り組み、諸事業の見直し等が検討されています。本府教育委員会としても、行財政改革に取り組みつつ、文化財の保護、普及啓発等に努めていく所存であります。

今後とも文化財保護行政に対しまして、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成16年３月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　向　井　正　博

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第７冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成14年度発掘調査及び普及啓発活動等を記載している。

3．本書の３・４表には平成14年度に本府教育委員会が実施した全ての埋蔵文化財調査を記載している。

4．埋蔵文化財調査のなかの主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。

なお、概要報告表題の調査番号は第３・４表の調査番号と一致する。

遺跡名（平成14年度調査番号）

（１）所在地

（２）調査の原因となった事業

（３）調査担当者

5．概要報告は各調査担当者が、「平成14年度における埋蔵文化財調査の概況」は、調査第二グループ課長補佐中井貞夫が執筆した。

6．巻末の普及啓発活動、貸出・掲載許可依頼等の資料一覧は、調査管理グループで作成した。

7．本書の編集は、調査管理グループが行った。

8．本年報は500部作成し、一部あたりの単価は536円です。

目　　次

はじめに
例言
目次
挿図目次・表目次
平成14年度における埋蔵文化財調査の概況 …… 1
発掘調査概要報告
崇禅寺遺跡（０１０４６・０２００１）…… 7
大和川今池遺跡（０２００３・０２０６２）…… 9
堺環濠都市遺跡（０１０６２・０２００４）…… 10
豊川遺跡（０２００５）…… 11
中田遺跡他（02006・02008・02036・02037・02041・02043・02051）…… 12
蔀屋北遺跡（０１００７・０２００７）…… 13
中畑遺跡（０２０１０）…… 14
馬場ノ下遺跡（０２０１１）…… 15
平石古墳群（０２０１４）…… 16
田井中遺跡（０２０１５）…… 18
陶器南遺跡（０２０１７）…… 19
堺環濠都市遺跡（０２０１９）…… 20
府中遺跡（０２０２０）…… 21
百済寺遺跡（０２０２１）…… 22
はざみ山遺跡（０２０２２）…… 23
国道３０９号線試掘（０２０２３）…… 24
陶器遺跡・陶器千塚（０２０２４）…… 25
陶邑窯跡群（０２０２５）…… 26
招提中町遺跡（０２０２６）…… 27
高安古墳群８７号墳（０２０２７）…… 28
寺田遺跡（０２０２９）…… 29
平尾遺跡（０２０３１・０２０５３）…… 30
深井清水町Ｃ遺跡（０２０３２）…… 31
福井遺跡（０２０３４）…… 32
寛弘寺古墳群（０２０４２）…… 33
新井ノ池遺跡（０２０４６）…… 34
余部遺跡（０２０４７・０２０５９）…… 35
田能北遺跡（０２０４８）…… 36
宇保遺跡（０２０５０）…… 37
太井遺跡・大保遺跡（０２０５４）…… 38
安威遺跡（０２０５７）…… 39
男里遺跡（０２０６１）…… 40
普及啓発・広報事業 …… 41
資料の貸出・掲載・閲覧 …… 44
文化財保護課・文化財調査事務所組織図 …… 48

挿　図　目　次

第１図　調査位置図 …… 6
第２図　周辺遺跡分布図 …… 7
第３図　出土須恵器 …… 7
第４図　平面図 …… 8
第５図　出土埴輪 …… 8
第６図　水処理施設北地区遺構図 …… 9
第７図　調査地位置図 …… 10
第８図　塼磚列建物 …… 10
第９図　埋葬骨出土状況 …… 10
第10図　土坑墓群 …… 10
第11図　№２トレンチ断面 …… 11
第12図　試掘調査及び遺跡範囲図 …… 11
第13図　№２トレンチ断面図 …… 11
第14図　調査地位置図 …… 12
第15図　井戸枠転用準構造船 …… 13
第16図　馬埋葬土坑 …… 13
第17図　試掘トレンチ及び遺跡範囲図 …… 14
第18図　平面図 …… 15
第19図　調査区位置図 …… 16
第20図　上　駕田古墳前面（東南より）・下石組溝（南より）…… 17
第21図　Ａ区弥生時代中期遺構面（北西から）…… 18
第22図　Ｂ区弥生時代中期土坑401（南西から）…… 18
第23図　陶器南遺跡と周辺の遺跡 …… 19
第24図　調査区位置図 …… 19
第25図　遺物出土状況 …… 19
第26図　調査地位置図 …… 20
第27図　調査坑断面図（１／50）…… 20
第28図　調査地位置図 …… 21
第29図　第３調査区　西部 …… 21
第30図　方形周溝墓土器出土状況 …… 21
第31図　百済寺遺跡位置図（79：百済寺遺跡・151：百済寺跡）…… 22
第32図　本調査01区（大阪府文化財センター調査）…… 23
第33図　立会地点位置図 …… 23
第34図　試掘調査区位置図 …… 24
第35図　試４区遺構検出状況 …… 25
第36図　１区調査状況 …… 26
第37図　調査区位置図 …… 27
第38図　調査区位置図及び平面図 …… 28
第39図　横穴式石室略測図 …… 28
第40図　調査区位置図 …… 29
第41図　寺田遺跡とその周辺 …… 29
第42図　調査区位置図 …… 30
第43図　本調査区全景及び平面図 …… 30
第44図　遺跡位置図 …… 31
第45図　土層柱状図 …… 31
第46図　周辺遺跡分布図（①～④は試掘位置）…… 32
第47図　調査区位置図 …… 32
第48図　土層柱状図 …… 32
第49図　ツギノキ山支群Ｓ＝１／10,000 …… 33
第50図　調査位置図 …… 33
第51図　遺跡位置図 …… 34
第52図　調査区配置図 …… 34
第53図　№７トレンチ調査状況 …… 35
第54図　５区轍検出状況 …… 35
第55図　Ｌ区平面図 …… 36
第56図　土壙墓遺物出土状況 …… 36
第57図　調査地位置図 …… 37
第58図　02－１区地山上面遺構面 …… 37
第59図　調査区位置図 …… 37
第60図　宇保遺跡出土旧石器１、２土坑出土３遺物包含層出土 …… 37
第61図　大保遺跡・太井遺跡位置図 …… 38
第62図　調査地位置図 …… 38
第63図　出土遺物 …… 38
第64図　調査区基本断面図 …… 39
第65図　住居３遺物出土状況 …… 39
第66図　男里遺跡位置図 …… 40
第67図　発掘調査範囲 …… 40

表　目　次

第１表　平成14年度調査件数・面積 …… 1
第２表　事業別・地域別調査面積 …… 2
第３表　平成14年度調査箇所一覧（１）…… 4
第４表　平成14年度調査箇所一覧（２）…… 5

平成14年度における埋蔵文化財調査の概要

中　井　貞　夫

1．はじめに

平成14年度において、大阪府教育委員会が実施した発掘調査・確認調査・試掘調査・立会は総数65件、面積38,507㎡である。遺物整理事業は７件でそのうち４件（福井遺跡・西大井遺跡・余部遺跡・崇禅寺遺跡）について報告書を刊行した。

平成14年度の調査面積は、平成13年度と比較すると約39%である。これは、平成13年度において立会の面積約45,000㎡を調査面積に入れたために起きた現象である。それを除くと約70%となる。調査件数の減に比較して、調査面積の減が大きいのは、大規模な調査が財団法人大阪府文化財センターで対応していることが反映している。また、平成14年度の調査面積の減少は、異例の事であり、平成15年以降、調査件数と面積は、例年通りか、増加していく傾向にある。

豊能地域では、前年試掘調査を実施した馬場ノ下遺跡が本調査となったため調査面積の増加を見た。また、能勢町域において昭和59年から19年間調査を実施してきた府営圃場整備に伴う発掘調査は終了した。

三島地域では、府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」のうち田能北・田能南遺跡の調査を終了したが、中畑で試掘調査を実施したところ新たな遺跡が発見され、平成15年度より、発掘調査を行うことになった。

北河内地域の本年度調査面積は、全体の約46%を占める。これは下水道事業と府営住宅建て替え事業の増加に伴うものである。この地域においては、他の事業も増加の傾向にあり、今後、大幅な調査面積の増加が予測される。

中河内地域では、調査面積の減少がみられるが、例年調査面積の増減変動が激しく、今後の見通しは困難である。

南河内地域の本年度調査面積は、全体の約24%を占めるものの、府営住宅建て替え事業と圃場整備事業の一時的な減少により、大幅な調査面積の減少が見られた。

泉北地域は、前年度、試掘・確認調査をした遺跡の本調査を実施したため調査面積が増加した。

泉南地域は、大幅な調査件数（前年比29%）・調査面積（前年比８%）の減少が見られる。

大阪市域は、平成13年度からの継続事業が中心であり、前年度とあまり変化が見られない。

平成14年度において、発掘調査の起因となった事業のうち、下水道事業が全調査面積の43.8%にあたり、次いで、圃場整備を含む農林事業が21.1%、府営住宅建て替え事業が20.5%となり、この三事業だけで、全体の85.4%もの調査面積となった。この傾向は、今後も多少の増減はあるものの続いて行くであろう。その中でも府営住宅建設事業の伸びが予測される。

大規模な道路建設事業に伴う発掘調査は、財団法人大阪府文化財センターで対応しているが、一般国道165号（南阪奈道路）・第二京阪道路に接続する道路網の整備に伴う調査が本年度から本格的になり、道路建設事業に対応する調査の増加が見込まれる。

		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉北	泉南	大阪市	合計
住宅	件　数	0	0	1	0	5	1	1	2	10
	面積(㎡)	0	0	5,800	0	933	20	20	1,132	7,905
農林	件　数	1	2	0	1	3	3	2	0	12
	面積(㎡)	1,311	1,985	0	250	1,240	2,949	412	0	8,147
道路	件　数	2	3	1	1	7	5	1	0	20
	面積(㎡)	230	40	20	6	1,877	2,074	9	0	4,256
下水	件　数	0	1	1	7	2	0	0	1	12
	面積(㎡)	0	4	10,800	547	5,323	0	0	172	16,846
高校	件　数	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	面積(㎡)	0	0	0	0	8	0	0	0	8
河川	件　数	0	1	0	3	0	0	0	0	4
	面積(㎡)	0	0	0	146	0	0	0	0	146
その他	件　数	0	1	1	2	0	1	1	0	6
	面積(㎡)	0	146	1,044	0	0	0	9	0	1,199
合計	件　数	3	8	4	14	18	10	5	3	65
	面積(㎡)	1,541	2,175	17,664	949	9,381	5,043	450	1,304	38,507

第１表　平成１４年度調査件数・面積

2．各地域の主要な調査

【豊能地域】　能勢町天王おいて、府営中山間地域総合整備事業「天王地区」に先立ち、前年度試掘・確認調査で確認された馬場の下遺跡の調査では、山村の作業小屋をイメージできる小規模な建物と焼土坑が検出された。

池田市宇保遺跡は、道路拡幅工事に先立ち前年に引き続き調査を実施し、谷の埋土から縄文晩期の土器が出土した。また、黄褐色粘土層を切り込んだ土拡から旧石器（ナイフ型石器）も出土している。

【三島地域】　高槻市田能北遺跡では、13世紀前半の溝で囲まれた３棟の掘立柱建物と少し離れた場所から土坑墓が検出された。現田能集落の北に奥まった所に鎮座する樫船神社には『貞応元年（1222）の棟札』が有り、また、東寺百合文書に『正和三年（1314）丹波国田能庄七条院領』の記載があり、考古資料・文献資料・建造物資料等から平安時代から、田能の平安時代からの開発の歴史が明らかになった。

田能北遺跡より、更に奥には入った高槻市中畑において、圃場整備に先立って試掘調査を実施したところ田能北遺跡より少し遅れた時期に開発され人が住み始めたことが明らかになり、平成15年度より、本格的な調査を実施する予定である。

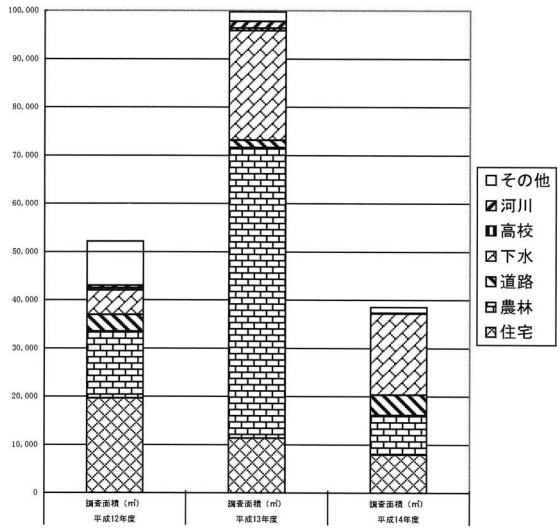
茨木市室山所在する第二警察病院の建て替え計画に伴い試掘調査を実施した。調査を実施した範囲内からは古墳等は、確認出来なかったが敷地の南端部で隣接する福井遺跡と同時期の遺物包含層が存在し福井遺跡が北に約20m程広がることを確認した。

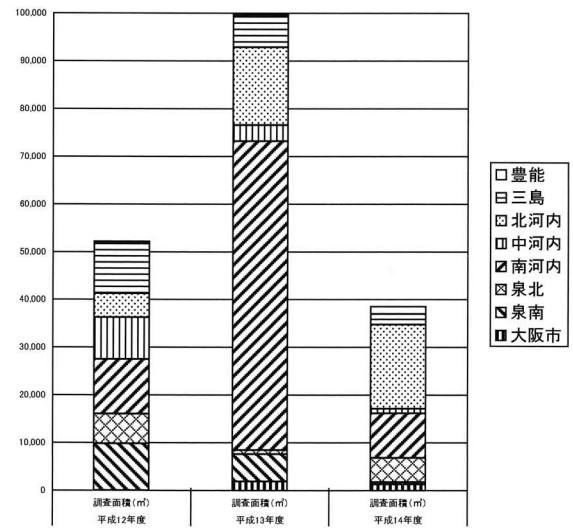
【北河内地域】　枚方市招提中町遺跡は府営住宅建て替えに先立ち平成10年から調査を実施している。本年度の調査では、弥生時代中期の竪穴住居、古墳時代前期の竪穴住居、平安時代の掘立柱建物、中世の掘立柱建物等を検出した。

なわて水環境保全センター水処理施設の建設に先立ち、寝屋川市蔀屋北遺跡では、T.P.１m前後の高さから古墳時代中期の幅20～30mの溝で区画された集落を検出した。区画内には大型竪穴住居、掘立柱建物、準構造船を井戸枠に転用した井戸があった。区画溝の側に馬の全身を納めた土坑があった。出土品の中にU字形土製品、朝鮮半島産の土器、椀形滓、多量の製塩土器等が出土し、馬と共に当遺跡の性格を考える上で重要なポイントとなるであろう。

	平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	調査面積（㎡）	比率（%）	調査面積（㎡）	比率（%）	調査面積（㎡）	比率（%）
住宅	19,623	37.6	11,340	11.4	7,905	20.5
農林	13,817	26.5	60,250	60.4	8,147	21.1
道路	3,504	6.7	1,518	1.5	4,256	11.1
下水	5,066	9.7	22,698	22.8	16,846	43.7
高校	425	0.8	526	0.5	8	0.1
河川	530	1.1	1,389	1.4	146	0.4
その他	9,220	17.6	2,000	2	1,199	3.1
合計	52,185		99,721		38,507	

	平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	調査面積（㎡）	比率（%）	調査面積（㎡）	比率（%）	調査面積（㎡）	比率（%）
豊能	0	0	317	0.3	1,541	4
三島	10,939	21	6,572	6.6	2,175	5.6
北河内	4,978	9.5	16,263	16.3	17,664	45.8
中河内	8,768	16.8	3,385	3.4	949	2.5
南河内	11,450	22	64,747	65	9,381	24.4
泉北	6,240	11.9	834	0.8	5,043	13.1
泉南	9,810	18.8	5,723	5.7	450	1.2
大阪市	0	0	1,880	1.9	1,304	3.4
合計	52,185		99,721		38,507	





第２表　事業別・地域別調査面積

枚方市百済寺遺跡では、特別史跡百済寺跡の南側に位置し遺跡内に所在する府立中宮病院の建て替え計画に伴い遺構の残存状況を確認するための調査を実施した。病院の西端を除いて、現病院建設時に大幅な削平が行われており、百済寺遺跡関連の遺構・遺物は確認できなかった。

第二京阪道路に接続する都市計画道路国守黒原線の試掘調査を一部実施したが、遺構・遺物を確認することはできなかった。順次試掘・確認調査を実施していく予定である。

【中河内地域】　八尾市中田遺跡・東郷遺跡・小阪合遺跡・植松遺跡の発掘調査は、いずれも下水道建設事業のシールド竪孔部分の面積100㎡前後・深さGL－５ｍであり、弥生時代から中世までの遺構・遺物を検出している。

一級河川平野川改修工事に伴う田井中遺跡では、弥生時代前期後半の多量の土器と共に鋤・梯子等の木製品、石器、動物遺体が出土した。弥生時代中期前半の土坑から完成品や未完成の木製広鍬が出土した。

柏原市から八尾市にかけての大県条里遺跡・神宮寺遺跡・山の井遺跡では、恩智川法善寺多目的遊水地建設計画に先立ち、本年度より確認調査を始めた。

【南河内地域】　松原市大和川今池遺跡では、川によって形成された微高地上に古墳時代後期と平安時代前期の掘立柱建物８棟以上、井戸５基、溝を検出した。

河南町平石古墳群では、前年度調査したシシヨツカ古墳の東50ｍの所で、２基の石槨有する一辺40ｍで墳丘を版築盛土した方墳が発見され駕田古墳と名付けた。また、更に東の丘陵先端部では、シシヨツカ古墳で石槨の床に敷かれた磚に使用された流紋岩質溶結凝灰岩（榛原石）片が出土したことにより、シシヨツカ古墳と同時期の古墳が存在する可能性が高まった。

寛弘寺古墳群ツギノキ山支群の一部が農村公園として整備されることとなり、整備工事の一環として調査を行った。

美原町余部遺跡は、近年の調査で多量の鋳型が出土し、河内鋳物師集団の工房であることが確認されている。本年度の調査で、鎌倉時代の轍の跡と牛の足跡が検出され、牛車で鉄の鍋・釜等を運搬していたことが想定さる。

平尾遺跡・大保遺跡いずれも道路建設に先立つ確認調査であり、遺構遺物が確認されたため、本年度と次年度に発掘調査を実施するものである。

【泉北地域】　堺市堺環濠都市遺跡では、共同溝整備に伴う、幅が狭く、延長の長い調査を実施した。元和の焼土層より一石五輪塔・宝篋印塔や石碑等が多量に出土し、元和の大火後の整地層と考えられる。整地層下には人骨が入った土壙の集中する所があり、また、筥に四肢骨を埋納した土坑もあった。元和の大火後の都市再建設を考える上で重要な資料となり、今後の調査が期待される。

和泉市府中遺跡では、縄文時代晩期の土坑から土器・石皿・石棒・サヌカイトが出土した。また、弥生時代中期の方形周溝墓２基が一辺の溝を共有して検出された。

堺市陶器南遺跡・陶器遺跡・陶器千塚・陶邑窯跡群は、府営集落基盤整備事業「陶器北地区」に先立つ発掘調査と確認調査である。

和泉市寺田遺跡は、府営住宅建て替えに先立って試掘調査を実施し、中世の溝・６世紀前半の須恵器が多量に検出され、その存在が明らかになった。

【泉南地域】　泉南市男里遺跡は、平成７年より、双子上池堤体改修工事に先立つ発掘調査を実施している。本年度の調査では、弥生時代中期の溝と弥生時代後期から奈良時代初頭まで機能していた溝、奈良時代初頭の溝を検出した。

貝塚市新井ノ池遺跡において、堤体改修工事に先立つ確認調査を実施した。確認調査の範囲では、現堤築造時に池の内側を削平したため、遺物包含層・遺構を検出できなかった。遺跡は池の南側に広がっていると考えられる。

【大阪市域】　崇禅寺遺跡は、前年度より継続して調査を実施し、５世紀中頃の古墳と崇禅寺の寺域を画する東側と南側の堀が検出された。

城山（長原遺跡）遺跡前年より引き続いて調査を実施し、５世紀代の方墳２基と弥生時代中期後半の方形周溝墓を検出した。

【遺物整理事業】　福井遺跡・崇禅寺遺跡・余部遺跡・総持寺遺跡・西大井遺跡・木の本遺跡・高校出土遺物整理の７件の遺物整理事業を実施した。福井遺跡・崇禅寺遺跡・余部遺跡の３件は府営住宅建て替え、西大井遺跡は下水道関連施設の建設に先立って発掘調査を実施したもので、平成14年度に遺物整理および報告書刊行を行った。

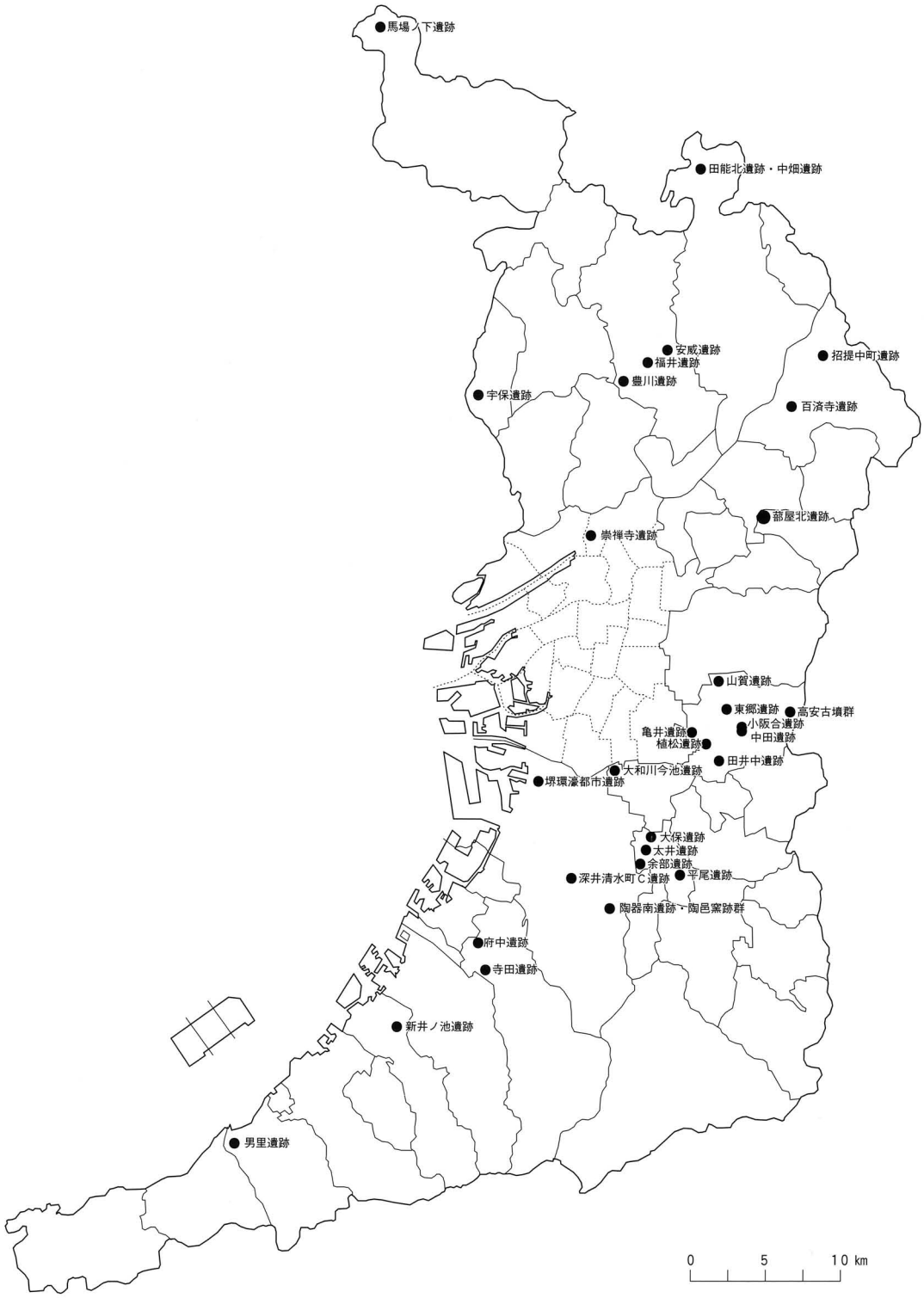
他の４件については、次年度も遺物整理事業を継続して実施し、順次報告書を刊行していく。

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	実施面積（㎡）	担当者	事業名	備考
02001	崇禅寺遺跡	大阪市東淀川区東中島	発掘	13年度から継続	H14.8.23	1,060	阪田　育功	府営崇禅寺鉄筋住宅建て替え	H13・14年度事業
02002	城山遺跡	大阪市平野区長吉出戸４丁目	発掘	13年度から継続	H14.4.25	172	藤田　道子	寝屋川南部流域下水道中央南増補幹線	H13・14年度事業
02003	大和川今池遺跡	松原市天美西	発掘	13年度から継続	H15.3.31	3,340	阿部　幸一	大和川下流域下水道事業今池処理場水処理施設建設工事・雨水ポンプ場建設工事	H13・14年度事業
02004	堺環濠都市遺跡	堺市車之町東・櫛屋町東地先	発掘	13年度から継続	H14.7.6	240	亀島　重則	堺大和高田線電線共同溝整備	H13・14年度事業
02005	遺跡外	茨木市豊川4丁目	試掘	H14.4.11	H14.4.11	12	奥　和之	都市計画道路道祖本摂津北線	豊川遺跡新規発見
02006	中田遺跡	八尾市中田5丁目	発掘	H14.4.19	H14.4.26	12	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道柏原八尾増補幹線	
02007	薔屋北遺跡	四条畷市薔屋・砂	発掘	13年度から継続	15年度に継続	10,800	山上　弘 藤田　道子	寝屋川北部流域下水道なわて水環境保全センター	
02008	東郷遺跡	八尾市光町	発掘	H14.7.17	H14.8.30	120	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道柏原八尾増補幹線	
02009	甘南備遺跡	富田林市竜泉	発掘	H14.5.13	H14.5.13	45	西口　陽一 枡本　哲	府道甘南備川向線	
02010	遺跡外	高槻市大字中畑	試掘	H14.4.24	H14.5.17	92	奥　和之	府営農地還元資源利活用事業樫田地区	中畑遺跡新規発見
02011	馬場ノ下遺跡	能勢町天王	発掘	H14.6.10	H14.8.20	1,311	奥　和之	府営中山間地域総合整備事業天王地区	
02012	余部遺跡	美原町南余部	立会	H14.5.21	H14.5.21	－	西口　陽一	府営美原南余部住宅歩道設置	
02013	余部遺跡	美原町南余部	確認	H14.5.29	H14.5.29	18	枡本　哲	府営美原南余部住宅道路整備	
02014	平石古墳群	河南町平石	発掘	H14.6.8	H14.10.31	1,160	枡本　哲	府営中山間地域総合整備事業南河内こごせ地区	
02015	田井中遺跡	八尾市空港1丁目	発掘	H14.6.10	H14.11.28	110	宮崎　泰史	一級河川平野川改修工事	
02016	中河原北遺跡・三島街道	茨木市中河原町他	確認	H14.6.26	H14.10.2	28	泉本　知秀	一般府道余野茨木線歩道設置	
02017	陶器南遺跡	堺市辻之・陶器北	発掘	H14.6.7	H14.10.31	2,392	杉本　清美	集落基盤整備事業	
02018	中野北遺跡	富田林市中野町3丁目	確認	H14.7.4	H14.7.4	12	大樂　康宏	主要地方道美原太子線	
02019	堺環濠都市遺跡	堺市車之町西１地先	確認	H14.7.3	H14.7.4	12	亀島　重則	堺大和高田線電線共同溝整備	
02020	府中遺跡	和泉市府中町１丁目	発掘	H14.7.15	H15.2.28	1,748	亀島　重則	和泉中央線立体交差	
02021	百済寺遺跡	枚方市宮之阪３丁目	確認	H14.7.1	H14.9.20	1,044	横田　明	中宮病院再編整備事業	
02022	はざみ山遺跡	藤井寺市公団１丁目	立会	H14.6.13	H14.6.29	－	西川　寿勝	水道管切替・ガス管・電柱・植栽	
02023	遺跡外	河南町大字中・千早赤阪村大字森屋	試掘	H14.9.12	H15.2.25	800	西川　寿勝	国道３０９号線建設	顕著な遺構・遺物なし
02024	陶器遺跡・陶器千塚	堺市陶器北	確認	H14.8.1	H14.9.30	112	西川　寿勝	集落基盤整備事業	
02025	陶邑窯跡群	堺市陶器北	発掘	H14.10.21	H15.3.25	445	西川　寿勝	集落基盤整備事業	
02026	招堤中町遺跡	枚方市東牧野町	発掘	H14.7.6	H15.3.28	5,800	井西　貴子	府営枚方牧野東住宅建て替え	
02027	高安古墳群87号墳	八尾市大窪	発掘	H14.7.29	H14.8.12	250	岩﨑　二郎 小林　義孝	府営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業八尾地区	
02028	遺跡外	河内長野市千代田台	試掘	H14.8.27	H14.8.31	40	大樂　康宏	府営千代田住宅建て替え	遺構・遺物なし
02029	遺跡外	和泉市寺田町	試掘	H14.9.9	H14.9.11	20	大樂　康宏	府営和泉寺田住宅建て替え	寺田遺跡新規発見
02030	遺跡外	泉南市岡田7丁目	試掘	H14.9.3	H14.9.5	20	大樂　康宏	府営吉見岡田住宅建て替え	遺構・遺物なし
02031	平尾遺跡	美原町平尾	発掘 確認	H14.9.30	H14.12.27	680	大樂　康宏	府道堺富田林線舟渡バイパス	
02032	遺跡外	堺市深井沢町	試掘	H14.8.6	H14.8.6	24	藤沢　眞依	都市計画道路下石津泉ヶ丘線	深井清水町Ｃ遺跡新規発見
02033	遺跡外	美原町北余部595－1	試掘	H14.8.29	H14.8.29	8	西口　陽一	府立農芸高校武道場改築工事	遺構・遺物なし

第３表　平成１４年度調査箇所一覧（１）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	実施面積（㎡）	担当者	事業名	備考
02034	遺跡外	茨木市室山	試掘	H14.9.9	H14.9.18	146	阪田　育功	第２警察病院建て替え	福井遺跡拡大
02035	植附遺跡	東大阪市西石切町3丁目	立会	H14.9.20	H14.9.20	6	泉本　知秀	国道（旧）170号歩道設置	
02036	小阪合遺跡	八尾市南小阪合町1丁目	発掘	H14.10.10	H14.10.11	30	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道小阪合直送幹線	
02037	植松遺跡	八尾市永畑町2丁目	発掘	H14.10.17	H15.3.17	216	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道飛行場北増補幹線	
02038	坪ノ内･阪尻遺跡	能勢町山内	発掘	H14.10.30	H14.11.25	100	岩﨑　二郎	一般府道亀岡能勢線歩道設置	
02039	遺跡外	泉佐野市日根野	試掘	H14.10.31	H14.10.31	9	藤沢　眞依	府立佐野養護学校作業棟増設	遺構・遺物なし
02040	遺跡外	寝屋川市国守	試掘	H15.2.10	H15.2.20	20	小林　義孝	都市計画道路国守黒原線	遺構・遺物なし
02041	山賀遺跡	八尾市新家町4丁目	発掘	H14.11.12	H15.1.22	104	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道柏原八尾増補幹線	
02042	寛弘寺古墳群	河南町寛弘寺	発掘	H14.11.11	H14.11.11	10	阿部　幸一	ツギノキ山支群保存整備事業	
02043	亀井遺跡	八尾市南亀井町3丁目	発掘	H14.12.2	H14.12.11	45	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道長吉直送幹線	
02044	西福井遺跡	茨木市東福井2丁目	立会	H14.11.29	H14.11.29	－	阪田　育功	佐保川改修工事	
02045	遺跡外	大阪狭山市池尻	試掘	H14.11.26	H14.11.27	70	西口　陽一	ため池等整備事業（太満池整備工事）	遺構・遺物なし
02046	新井ノ池遺跡	貝塚市半田	確認	H14.11.26	H14.11.26	12	藤沢　眞依	ため池等整備事業	
02047	余部遺跡	美原町南余部	発掘	H15.1.8	H15.3.5	875	西口　陽一	府営美原南余部住宅道路整備	
02048	田能北遺跡	高槻市大字田能	発掘	H14.8.8	H14.11.29	1,893	奥　和之	府営農地還元資源利活用事業樫田地区	
02049	堺環濠都市遺跡	堺市車之町西地先	発掘	H15.1.20	H15.1.30	50	藤沢　眞依	堺大和高田線電線共同溝整備	
02050	宇保遺跡	池田市宇保	発掘	H15.2.3	H15.3.6	130	阪田　育功	都市計画道路神田池田線	
02051	小阪合遺跡	八尾市南小阪合町３丁目	発掘	H15.2.6	H15.2.12	20	泉本　知秀	寝屋川南部流域下水道小阪合直送幹線	
02052	大県郡条里・神宮寺・山の井遺跡	柏原市法善寺４丁目他	確認	H15.2.20	H15.2.21	28	泉本　知秀	恩地川法善寺多目的遊水池	
02053	平尾遺跡	美原町平尾地内	確認	H15.2.3	H15.2.6	48	大樂　康宏	府道堺富田林線舟渡バイパス	
02054	太井遺跡他	美原町黒山地内	確認	H15.2.12	H15.2.19	76	杉本　清美	一般府道西藤井寺線他道路改良事業	大保遺跡範囲拡大
02055	熊野街道	泉佐野市樫井西	試掘	H15.2.7	H15.2.7	9	藤沢　眞依	貝塚和歌山線拡幅	
02056	高月寺跡	忠岡町高月南３丁目	立会	H15.2.17	H15.2.17	－	藤沢　眞依	個人住宅	
02057	安威遺跡	茨木市十日市町	立会	H15.2.19	H15.3.12	－	奥　和之	主要地方道茨木亀岡線	
02058	木の本遺跡	八尾市空港1丁目	立会	H15.3.3	H15.3.5	－	横田　明	中部広域防災拠点整備	
02059	余部遺跡	美原町北余部	試掘	H15.2.24	H15.2.28	216	西口　陽一	主要地方道大阪狭山線	
02060	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	立会	H15.2.3	H15.2.18	－	小林　義孝	久宝寺線地北地区下水管整備工事	
02061	男里遺跡	泉南市男里	発掘	H14.10.1	H15.3.31	400	藤沢　眞依	府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）	
02062	大和川今池遺跡（その２）	松原市天美西	発掘	H14.12.1	H15.3.31	1,983	阿部　幸一	大和川下流域下水道事業今池処理場砂ろ過連絡管建設工事	
02063	遺跡外	大阪市旭区太子橋１	試掘	H15.2.24	H15.2.25	72	小林　義孝	府営今市住宅建て替え	遺構・遺物なし
02064	鬼虎川遺跡	東大阪市宝町	確認	H14.12.6	H14.12.6	8	阪田　育功	宝池調節池築造	
02065	遺跡外	茨木市岩倉町	試掘	H14.6.10	H14.6.10	4	横田　明	安威川流域下水道吹田幹線（二）No.３立て坑築造	遺構・遺物なし

第４表　平成１４年度調査箇所一覧（２）


馬場ノ下遺跡
田能北遺跡・中畑遺跡
安威遺跡
福井遺跡
豊川遺跡
招提中町遺跡
宇保遺跡
百済寺遺跡
都屋北遺跡
崇禅寺遺跡
山賀遺跡
東郷遺跡
高安古墳群
小阪合遺跡
中田遺跡
亀井遺跡
植松遺跡
田井中遺跡
大和川今池遺跡
堺環濠都市遺跡
大保遺跡
太井遺跡
余部遺跡
深井清水町C遺跡
平尾遺跡
陶器南遺跡・陶邑窯跡群
府中遺跡
寺田遺跡
新井ノ池遺跡
男里遺跡
0
5
10 km

第１図　調査位置図

崇禅寺遺跡（０１０４６・０２００１）

（１） 大阪市東淀川区東中島
（２） 府営崇禅寺鉄筋住宅建て替え
（３） 辻本　武　　阪田　育功

位置

大阪市北部、現淀川と神崎川にはさまれた河口近くの低地に位置し、梶山・市原の地形復元によれば、上町台地から北にのびる「天満砂堆」の先端近くにあたる。松田他の研究では淀川の三角州とされている。現地表の標高はＴ.Ｐ.３ｍ程度。

遺跡の中央には能勢街道が南北にとおり、大阪中心部から西国街道や山陽道への交通路にあたる。

層序

１ｍ程度の撹乱層・盛土層を除くとＴ.Ｐ.２ｍ付近で明黄褐色の粗砂・細砂の自然堆積層が表れる。遺構はこの面で検出される。遺構埋土も砂であるが、基盤層には葉理（ラミナ）が観察されるのに対し、遺構埋土はこれがみえないことやわずかにシルト質が強いことで識別される。

遺構

①古墳痕跡

過去の調査で埴輪の出土から、古墳の存在が推定されていた。今回調査では調査区の北西部分から、墳丘崩落土と思われる黒色土が検出された。この層には埴輪破片が多く含まれており、古墳築造後間もないころの堆積と考えられる。埴輪はⅣ期前半のものである。古墳の位置は、古墳崩落土の残存状況から現在の崇禅寺南門付近であると推定される。

②須恵器埋納遺構

溝状の遺構から、甕２点・壷１点・瑯１点・有蓋高杯３セット・杯身１点がまとまって出土している。古墳に伴う祭祀に使用したものかと思われるが、埴輪の時期よりやや新しいと考えられる。

③崇禅寺南面の大溝

文献記録によると、崇禅寺は本格的に伽藍が整備されはじめた1442年当時は、方一町の寺域を持っていたとされる。

調査では、現在の崇禅寺の南に幅９ｍ・深さ２ｍの溝が東西・南北方向にそれぞれ二重に掘られていたことが明らかになった。

埋没の時期には時期差があり、外側の溝が近世初頭に、内側の東西方向のみぞは16世紀に、はほぼ埋没していた。

掘削時期は、その企画性・計画性から15世紀に遡ると思われ、同時期の遺物が多量に出土している。

先に埋没した内側の東西方向溝の北側（寺側）には柵状の柱穴列が検出されていることなども考え合わせると、これら大溝は寺と一体となった空堀上の防御施設であったと考えられる。

遺物

① 埴輪

円筒埴輪は口縁部径26cm程度、底径19cm程度と13cm程度のものがある。外面調整は幅広のＢ種横ハケで静止痕跡が大きく傾くものはない。２次調整を省略した縦ハケのものもある。朝顔形埴輪・形象埴輪（家・蓋・人物・馬など）が出土。Ⅳ期前半に位置付けられる。（第５図）

② 須恵器

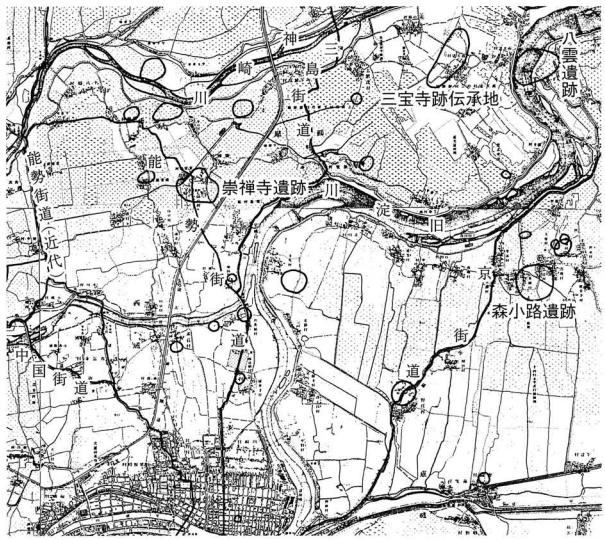
溝状の遺構から一括出土した須恵器はＴＫ208型式であるが、他の遺構や遺物包含層からはＴＫ216型式の須恵器が少量ながら出土しているので溝出土の一括須恵器は古墳築造時期より少し新しいものと考えている。

③ 瓦

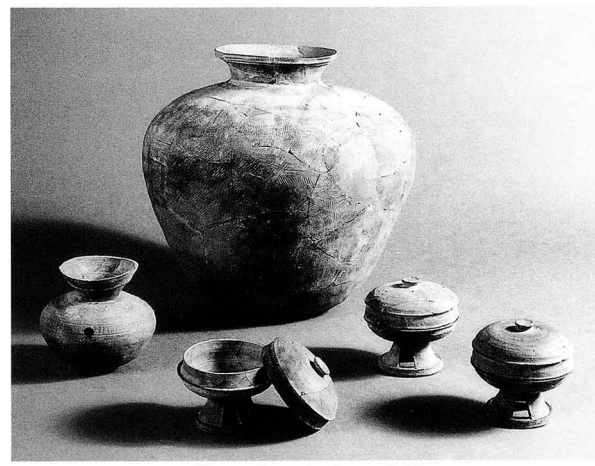
瓦は近世の遺構からも大量に出土した。焼けたものも多く、調査区ほぼ全域から出土している。軒丸瓦はすべて巴文、軒平瓦は波状文・唐草文。

④ 陶磁器等

大溝出土遺物みると、15世紀後半から16世紀末ごろまでの土師器皿類、15世紀代の瓦質羽釜、16



第２図　周辺遺跡分布図



第３図　出土須恵器

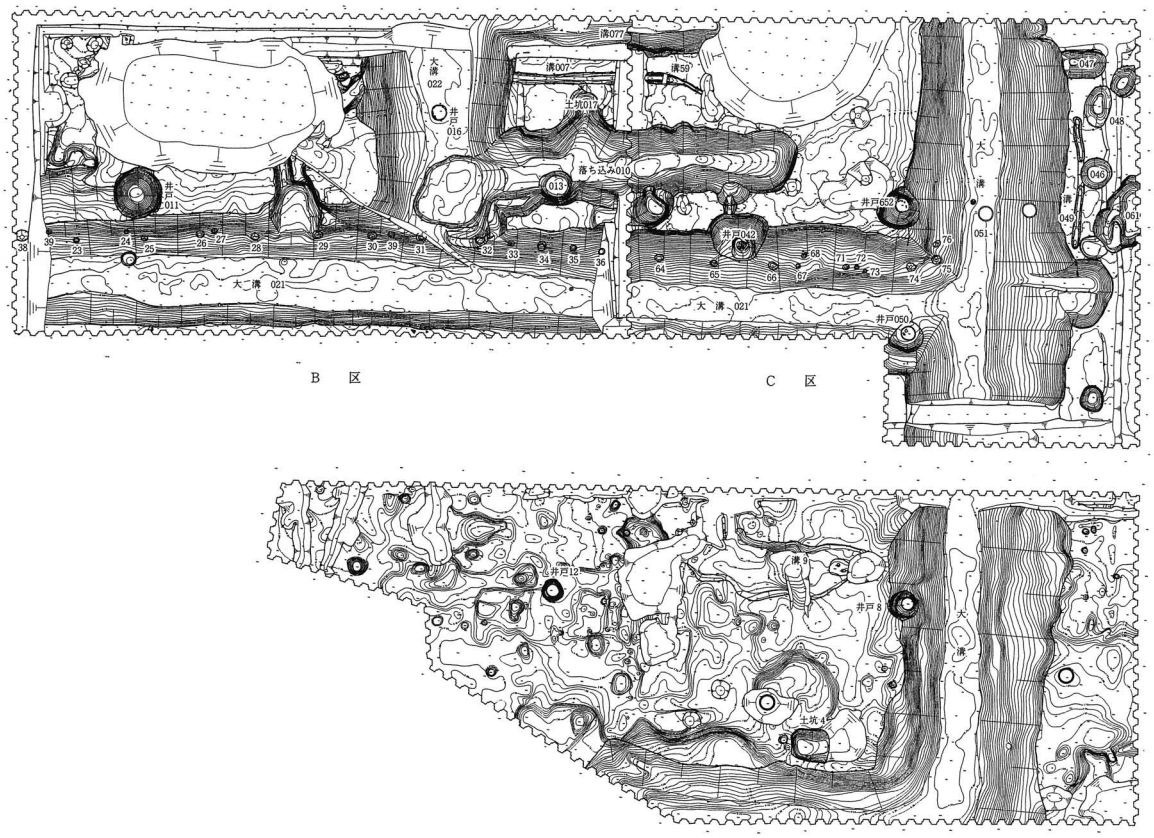
世紀代の土師質羽釜、金属器を模した瓦質釜・風炉、15世紀末頃から16世紀末までの備前焼陶器等が出土している。磁器では、14世紀代に遡る中国製磁器が少数出土している。

⑤ 石製品

花崗岩製・砂岩製の五輪塔・一石五輪塔、宝篋印塔基壇、石仏等が出土している。

⑥ その他

内側の南北方向溝の底などから還元焼成されたすさ入り粘土塊が出土している。方柱状の空間の周囲にすさ入り粘土をまいて焼成したような形状であるが、空間部分には可燃性の芯があったのかもしれない。瓦窯の一部である可能性が考えられるが、用途は不明。



第４図　平面図

第５図　出土埴輪

大和川今池遺跡（０２００３・０２０６２）

（１） 松原市天美西

（２） 大和川下流域下水道事業今池処理場水処理施設・雨水ポンプ場・砂ろ過連絡管建設工事

（３） 阿部　幸一

14年度は水処理施設予定地の今池北堤から北側と、雨水ポンプ場拡張工事予定地の未調査部分（約200㎡）水処理施設から砂濾過施設へ配水する管渠築造予定地（約1,800㎡）で調査を実施した。

水処理施設増設予定地

溜池の北側地区で遺構検出作業を行った。この地区は1987年度の東側、89年度の南側と接している。その時の調査では古墳時代後期から平安時代前期頃までの各時代の掘立柱建物跡30棟、井戸、土坑、溝等が検出されている。今回の調査区は南北80m、東西48mを測る。調査区の北西の約１／４は河道氾濫による砂質土が堆積し、周囲より20～30㎝高い微高地が形成されている。大半の遺構はこの微高地部で検出した。掘立柱建物は８棟以上を想定している。建物は２×３間に復元できるものが多く、時期は古墳時代後期と平安時代前期頃の２時期に纏まると考えている。なかには径1.2m以上を測る大型ピットで構成される建物もある。井戸も古墳時代後期と平安時代前期頃のものがある。古墳時代後期の井戸はいずれも素掘りで、祭祀用に底部を打ち欠いた甕をを置くものを３基確認している。また、ほぼ完形の土師器甕を２個体と高坏、須恵器などが出土したものもある。平安時代の井戸は刳り抜き材を井戸の枠木とするもの（井戸４）と底に径約30㎝の曲げ物を据え、それを囲むように長さ１m、幅20㎝程度の板材を縦に並べて井戸枠としてたもの（井戸５）がある。調査区中央で検出した溝１は87年調査の溝28である。溝１は古墳時代後期に微高地南端に掘られた溝で、遺構が稀薄となる調査区東部で浅くなって終わっている。この溝の南側で建物は検出されない。

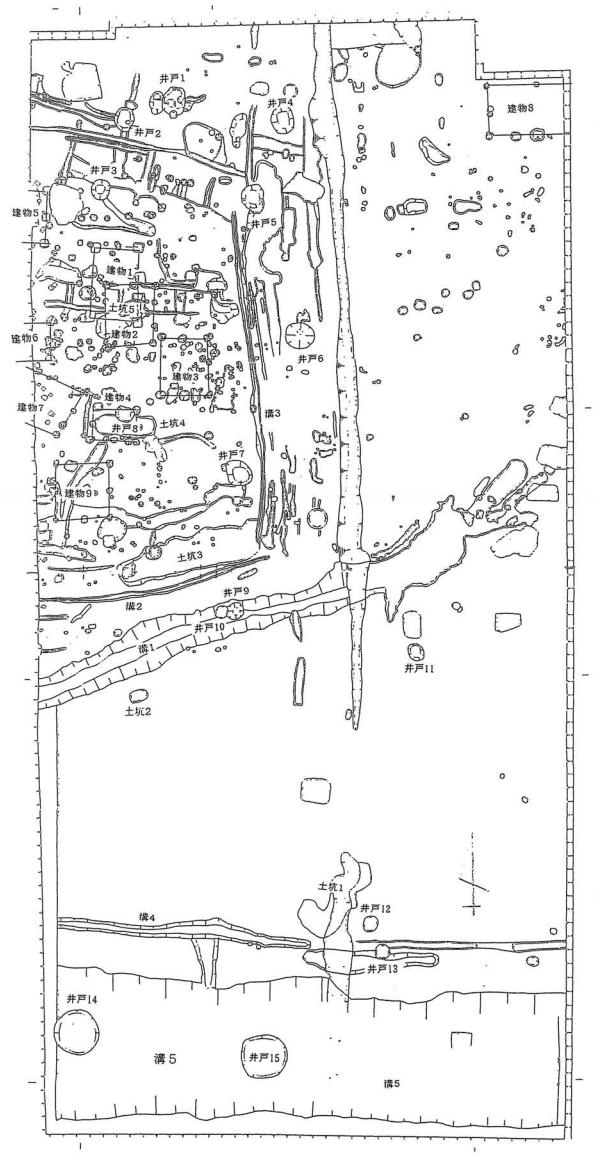
溜池堤の下層は、南地区と同様に溝状に掘り込んだ（溝５）のち、土を積み上げていることが確認された。北側の掘り込みは南より深く、40～50㎝を測る。

雨水薄ポンプ場拡張予定地

雨水ポンプ場周辺は過去に調査が行われているが、試掘で、長さ30m、幅６mで未調査地の残っていることが確認されたため調査を実施した。T.P.９m前後で灰褐色の遺物包含層が約20㎝の厚さで残っていたが、遺物は少なく、遺構は検出されなかった。

砂ろ過連絡管渠

今池処理場南西端近くの調査区である。今池南西部の調査は今回が初めてであった。幅20m、長さ90mの東西に長い調査区である。厚い盛土を除去したところ、調査地は今池の堤の斜面から底面にあたっていた。検出した遺構としては堤の斜面に沿って掘られた幅約10㎝の小溝と溜池底面で検出した楕円形の土坑がある。ともに溜池維持のために掘られたと推測している。



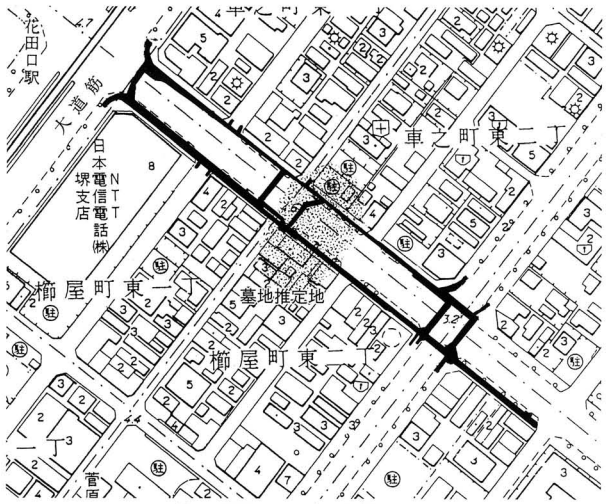
第６図　水処理施設北地区遺構図

堺環濠都市遺跡（０１０６２・０２００４）

（１）堺市車之町東1・2丁、櫛屋町東1・2丁地先
（２）府道堺大和高田線電線共同溝整備工事
（３）亀島　重則

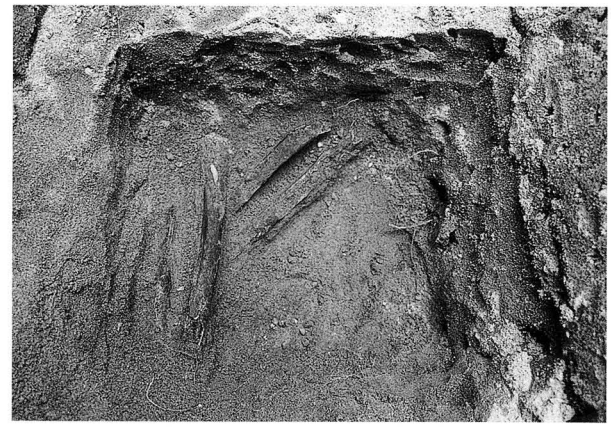
調査は府道の両側歩道部分を中心とし、道路を横断する箇所、さらに大道筋や市道に取りつく部分を実施した。延長約600mに及ぶ。各調査区は幅1.5～２m、長さ３m前後のマス部分と延長15m程度の管路部分に分かれる。いずれも歩道に接して商店や民家が密集しており、調査は各種埋設管の敷設も含めて１～２日程度を単位とする工程で行った。

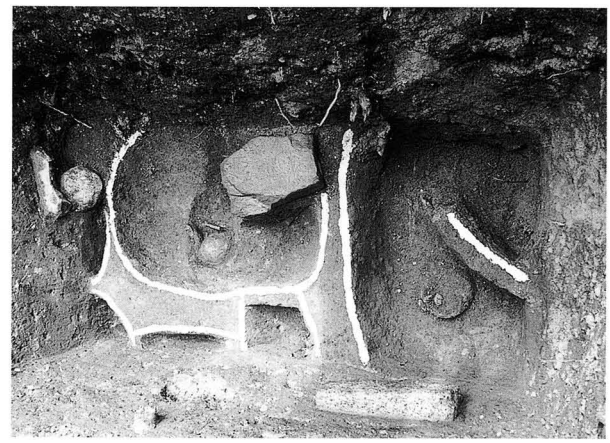
堺環濠都市遺跡での調査対象の基準となっている元和期の焼土層は全地域で確認した。車之町東・櫛屋町東２丁の各地点で元和期焼土層付近から一石五輪塔を中心に宝篋印塔台座や板碑などが点々と出土している。これらの中には、紀年銘を持つものや刻字に金泥や朱や墨痕の残るものもみられる。いずれも原位置を保っているものはなく、かためて置いたと判断される例もあり、元和期大火後の整地により埋没したものとみられる。元和期層の下では、各処で素焼き土器・陶磁器などの容器類をはじめとする遺物を多く包含する幾層もの人為的な堆積土を確認した。また、これらの堆積土をベースとした溝や建物も検出されている。蔵と考えられる塼列建物は5箇所で検出されている。これらの遺構のうち、南北方向を採る溝や建物は近世町割りを概ね留める現行街路と異なっていて、中世都市の町割りを復元する手掛りとなる。調査地の中央付近約40mの範囲で頭骨他の人骨片を含む土坑が集中して検出された。中には、箱状の容器に四肢骨を埋納した例もある。先の石造物と関連づけて、墓地の存在を考えることができる。地形的には、大道筋を頂点とする高台の端に位置している。墓地がこの元和期大火後の整地により破壊されたとすれば、背景に堺奉行所を置いて支配した近世都市の建設と関わりをもつことも充分考えられる。調査の進展が期待される。



第７図　調査地位置図

第８図　塼列建物


第９図　埋葬骨出土状況


第10図　土坑墓群

豊川（とよかわ）遺跡（０２００５）

（１）茨木市豊川４丁目
（２）都市計画道路道祖本摂津北線
（３）奥　和之

はじめに　試掘調査地区周辺の地形は、千里丘陵の北東側に位置し、荒内谷川によって形成された河岸段丘上面および段丘下面にあたる。段丘面中段付近を西国街道が東西に走る。

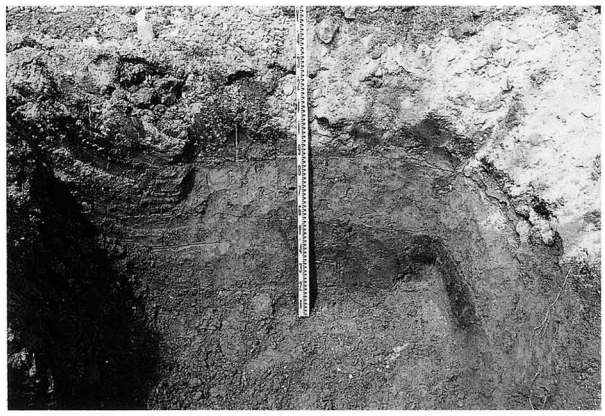
試掘調査は建設予定地内の11ヶ所に約２×２ｍの試掘トレンチを設定して、重機および人力により掘削し、遺構、遺物の有無を確認した。

調査結果　試掘調査を実施したトレンチの内、No.２のトレンチのみ遺構を検出した。他のトレンチは、遺構面が道路建設時に削平を受けているものや遺構・遺物が全く出土しなかったことから、その周辺には、遺跡が存在しないものと判断した。

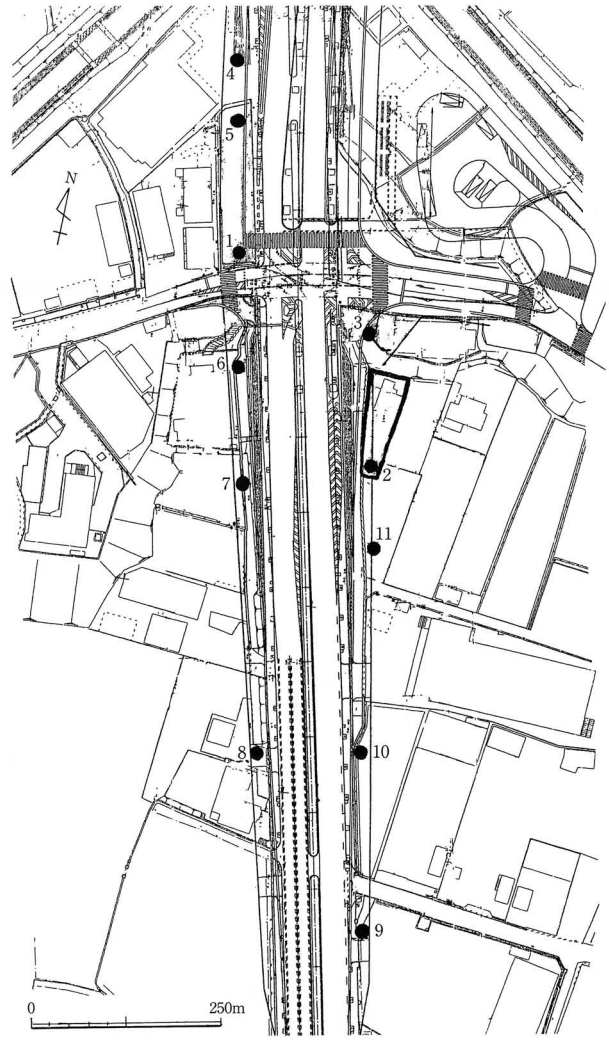
No.２トレンチは、地表面下約0.45ｍ付近に存在する地山相当層上面より、径約0.8ｍ、深さ約0.55ｍの柱穴ないしは土坑と推定される遺構を検出した。遺構の断面の壁面は、高温を受けたものと推定され、赤変している。遺構内および地山相当層上層の遺物包含層と推定される淡褐色砂質土層からは全く遺物が出土しなかったことから時期は不明である。

試掘調査の結果、この周辺に遺跡が存在する可能性が高いものと推定される。しかし、試掘調査の結果、周辺の試掘トレンチからは、遺構・遺物は検出されていないため、現在の所、遺跡の範囲は東西約20ｍ、南北70ｍと小規模である。しかし、周辺の地形から推定すると、河岸断丘面に沿って遺跡が南北に広がる可能性が高い。

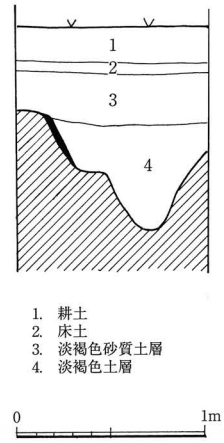
この調査結果に基づき、茨木市教育委員会と協議の上、豊川遺跡とした。



第１１図　No.２トレンチ断面



第１２図　試掘調査及び遺跡範囲図



第１３図　No.２トレンチ断面図

中田（なかだ）遺跡他（02006・02008・02036・02037・02041・02043・02051）

（1）八尾市中田5丁目・光町・南小阪合町1丁目・永畑町2丁目・新家町4丁目・南亀井町3丁目・南小阪合町3丁目
（2）寝屋川南部流域下水道事業
（3）泉本　知秀

大阪府土木部下水道課の依頼で下水用立坑等の予定地6遺跡、7箇所の発掘調査を実施した。

すべて八尾市内に属する。終了順に記す。

中田遺跡

調査区は南北に長い楕円形で18㎡調査した。現地表下1.4m（T.P.8.2m）、調査区南端で東西方向の溝状遺構を検出した。幅1.4m、深さ40㎝、長さ2m以上であった。30数個体の土師器が出土した。庄内Ⅰ～Ⅱ式に属する。その下は砂層であった。

東郷遺跡

120㎡を調査。現地表下1.4m（T.P.6.3m）で東西方向の小溝4本と鋤溝数本を検出した。その直下の第2遺構面で1～3m大の土坑4基検出。弥生中期後半に属する。その下層で2m以上の厚さの砂層から縄文後～晩期、弥生前、中期の土器が出土した。その下は粘土層で遺構・遺物はなかった。

小阪合遺跡

府営小阪合ポンプ場敷地内北西部で30㎡、南東部で20㎡を調査。北西部は現地表下2m（T.P.7.2m）付近で鋤溝を検出。中世に属する。深さ6mまで調査したが遺構・遺物は検出されなかった。

亀井遺跡

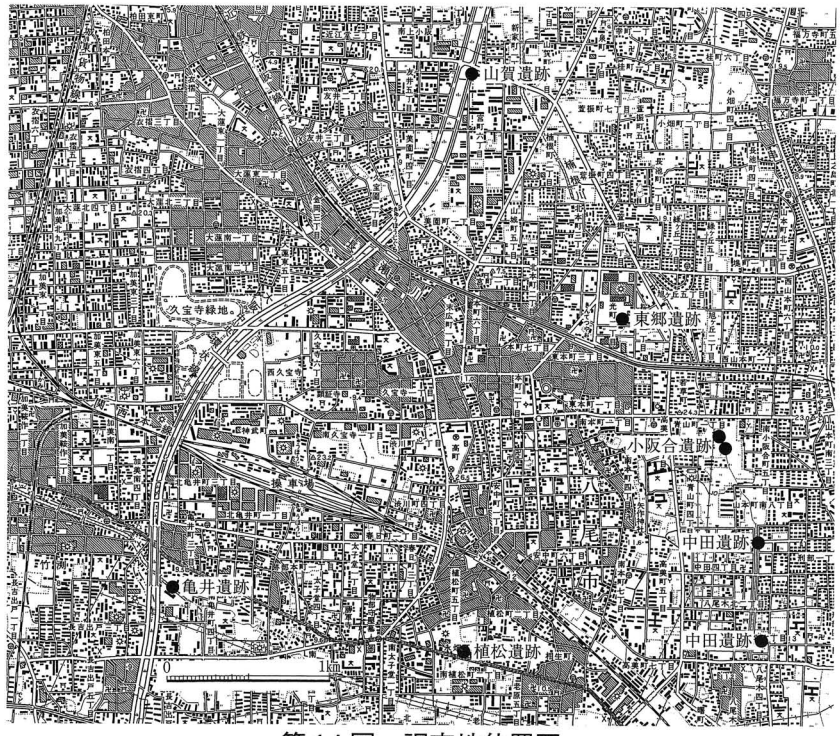
府営亀井ポンプ場敷地内北西部で45㎡を調査。現地表下2.5m（T.P.7.6m）から4mまでの粘土層内から弥生全時期の土器がコンテナに7箱出土。この中にはガラスも混入しており、1960年代の工事に伴う盛土であった。その下は粗砂層で弥生後期の土器が出土。旧大和川の流路と推定される。

山賀遺跡

東大阪市と接する新家交差点、近畿自動車道の東側、円形立坑104㎡を調査。現地表下2.4m（T.P.3m）から4mまでは河川の氾濫痕跡が認められた。地表下4.1mで弥生前期の土器片1点が出土。その直下は縄文晩期と推定される粘土層があったが遺構・遺物は検出されなかった。深さ10～13mでハイガイ等が多量に確認された。

植松遺跡

国道25線沿いで南北に長い長方形立坑216㎡を調査。現地表下1m（T.P.9.8m）で江戸時代初期頃の溝2本を検出。地表下2.8～5.3mは粗砂層で弥生前期から布留式の土器、滑石製勾玉が出土した。これは古墳時代前期の流路で幅は20m以上、東西方向に近い。その下は粘土層であったが遺構・遺物は検出されなかった。



第14図　調査地位置図

蔀屋北遺跡（01007・02007）

（1）四條畷市蔀屋・砂
（2）寝屋川北部流域下水道なわて水環境保全センター
（3）山上　弘・藤田　道子

1．はじめに

蔀屋北遺跡の発掘調査は、なわて水環境保全センター水処理施設の建設に先立ち、平成13年度に着手した。調査の対象となる水処理施設は、南北180m、東西90m、面積16,200㎡を測る長方形で、調査面積が広大なため、調査区全体を三分割した。

平成13年6月に南側3分の1（A調査区）、平成14年5に北側3分の1（C調査区）に着手した。A調査区の調査は平成15年3月に完了し、引き続きB調査区の調査に着手する予定である。

2．A調査区の調査成果の概要

調査が完了したA調査区（約5,700㎡）では、TP+3.5mから調査を開始し、近世初頭から平安時代にかけての水田遺構（畦畔）が第1～第10の各遺構面で検出された。この内、最下層の水田面では、讃良郡条里の条里方向と異なる畦畔が検出され、当該地での条里施行が平安時代前期には遡らないことが判明した。

第10遺構面下で検出した古墳時代後期の遺構面は、直上の水田開発や耕作による削平が著しく、溝・ピット等が部分的に残存していたのみである。

古墳時代後期遺構面下のTP+1.0m前後の高さから古墳時代中期の遺構面が検出され、区画溝を有する集落跡が検出された。

古墳時代中期遺構面のベース層を形成する青灰色シルト層は厚さ1m以上を測り、僅かに古墳時代前期の土器を包含している。これ以下の遺構、遺物、層序を知るため、調査区内にトレンチを設定し確認作業を行った。TP-0.8m付近に堆積する黒色粘土層上面では弥生時代前期新段階の甕や石鏃が出土し、下面以下の層位において縄文時代後期の土器が少量出土したが、溝状に窪んだ自然地形が見られたのみで、遺構は検出されなかった。

3．古墳時代中期の遺構と遺物

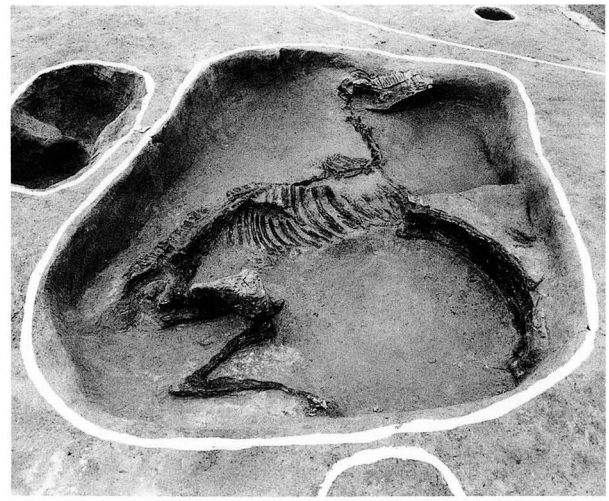
TP+1.0m前後を測るこの遺構面では、東西2ヶ所に分かれて竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸など集落を構成する遺構群が検出された。東側遺構群では、大型竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟、井戸6基が検出され、西側の遺構群では調査区の北西部に集中して、竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟、井戸3基が検出された。

両遺構群の間には、幅20～30mを測る区画溝が検出され、その西岸に接して馬の全身骨を納めた埋葬土坑が検出された。この土坑から南側では溝、土坑が多く検出されるが、住居関連の遺構は検出されなかった。

当調査区で検出された遺構・遺物は、遺物の出土量が極端に少ない大規模な区画溝を中心に、東西2ヶ所の居住区、準構造船を井戸枠に転用した井戸、複数個体のU字形土製品、朝鮮半島産の須恵器壺、いくつかの韓式系土器、椀形滓、各遺構から出土する解体した馬の歯・骨などが特徴として挙げられる。

また馬を丁寧に埋葬した複数の土坑、総重量100kgを上回る製塩土器の出土などを併せると、当遺跡は5世紀後半に営まれた馬飼いにかかわる集団の集落と考えることができる。

第15図　井戸枠転用準構造船



第16図　馬埋葬土坑

中畑遺跡（０２０１０）

（１）高槻市大字中畑
（２）府営農地還元資源利活用事業樫田地区
（３）奥　和之

はじめに　調査を実施した高槻市大字中畑地区は、大阪府の北東端部に位置し、北を亀岡市、東を京都市西京区と接している。中畑地区内の遺跡については、今回の遺跡確認調査で新たに遺跡が発見される以前には、全く遺跡が確認されていなかった。しかし中畑地区は、小盆地ではあるが、遺跡が存在する可能性が高い地形を呈していたことから、本府環境農林水産部と協議を実施し、圃場整備事業に先立ち遺跡の有無を確認するため、まず遺跡確認調査を実施することとなった。

調査は、圃場整備対象地域全域に試掘トレンチを23ヶ所設定し、地域毎に中畑北地区、中畑西地区、中畑南地区、中畑東地区に区分し実施した。

調査の概要　中畑北地区　当該事業対象地域内の中で最も北の奥まった地区で、北の山塊から南西方向に派生する狭い丘陵の緩やかな斜面上を中心とする。設定したトレンチは１ヶ所のみで、地山相当層上面には遺構が検出されなかったが、掘削土中より遺物が出土した。これらから東西約55ｍ、南北約20ｍの狭い範囲であるが、遺跡が存在するものと判断した。

中畑西地区　中畑地区の西側、北東の山塊から派生する丘陵縁辺部周辺を中心とし、地区内に６箇所にトレンチを設定した。これらの中で遺跡が存在すると推定されるのは２、３、７のトレンチで、これらから地区内での遺跡の範囲は、図に示す範囲内と推定される。しかし、周辺の地形から、遺跡推定範囲の北側、丘陵縁辺部に存在する現集落にまで遺跡の範囲が及ぶものと推測される。

中畑南地区　中畑地区の南側、南の山塊から北に下る丘陵縁辺部を中心とする地区で、地区内の９ヶ所にトレンチを設定した。中畑南地区において遺跡が存在すると考えられるのは、11トレンチ周辺のみで、圃場整備予定地内での遺跡範囲は限られているが、周辺の地形から南西側の集落周辺にまで及ぶものと推定される。

中畑東地区　中畑東地区は、中畑川の東側、東の山塊から西に下る丘陵縁辺部周辺を中心とする地区である。地区内に６ヶ所のトレンチを設定した。これらの中で遺跡が存在すると推定されるのは15、16、17、19のトレンチである。これらから、中畑東地区での遺跡の範囲は、図に示す範囲内と推定される。しかし、周辺の地形から判断すると、遺跡推定範囲の東側、丘陵中段付近のやや急な斜面上に存在する現集落にまで、遺跡の範囲が及ぶものと推測される。

まとめ　中畑地区は、今回の発掘調査を行う以前には、全く遺跡が確認されなかった地域であった。今回の遺跡確認調査によって、予想以上に遺跡が広範囲に広がっていることが明らかとなった。

遺跡の範囲は、中畑北地区を除き、地区内に存在する３ヶ所の丘陵縁辺部を中心とし、４地区に別れている。それ以外の地区は、若干の遺物は出土するものの、遺物量、遺構の有無などにより遺構は存在しないと判断した。出土遺物から遺跡の時期は、中世を中心とするものと推定される。

これらの調査結果に基づき、高槻市教育委員会と協議した結果、遺跡全域を１ヶ所で括り、遺跡名を中畑遺跡とした。

第17図　試掘トレンチ及び遺跡範囲図

馬場ノ下遺跡（０２０１１）

（１）豊能郡能勢町天王地内
（２）府営中山間地域総合整備事業天王地区
（３）奥　和之

はじめに　馬場ノ下遺跡が所在する豊能郡能勢町天王地区は、大阪府の北西端部、北を京都府園部町、西を兵庫県篠山市、南を兵庫県猪名川町と接する、標高490m前後の山間小盆地に立地している。馬場ノ下遺跡は、天王地区の最も西側に位置する遺跡で、今回の発掘調査対象地区は、遺跡の西端付近にあたる。検出した遺構は、建物１棟、土坑１基、溝１本、溝状遺構１本、樹木根痕跡８群などである。

調査の概要　建物１は、調査区の南西側で検出した。今回の調査で検出した唯一の建物跡である。建物は、梁間１間（約2.1m）、桁行１間（約2.1m）以上を測る。建物北西端の柱穴から、根石と推定される扁平な河原石が出土している。

土坑14は、平面形で隅丸長方形を呈し、長辺約1.24m、短辺約8.7m、深さ約0.27mを測る。埋土の最上層で、赤褐色を呈する焼土塊を検出した。焼土塊は、炉壁の一部とも考えられるが、面取りなどの痕跡が認められなかったため、不明な点が多い。また、各埋土層中には、炭および焼土の細片が多量に混在している。これらのことから高温を伴う作業が周辺で行われたものと推定され、これに伴う遺構と考えられるが、用途は不明である。また焼土塊以外に遺物が出土しなかったため、時期の決め手には欠けるが、周辺から出土した遺物から中世と推定される。

樹木根痕跡は、今回の調査で最も多く検出した。遺構といえるものではないが、これらは８群存在する。それらの中には、埋土中に焼土塊が出土するものもある。

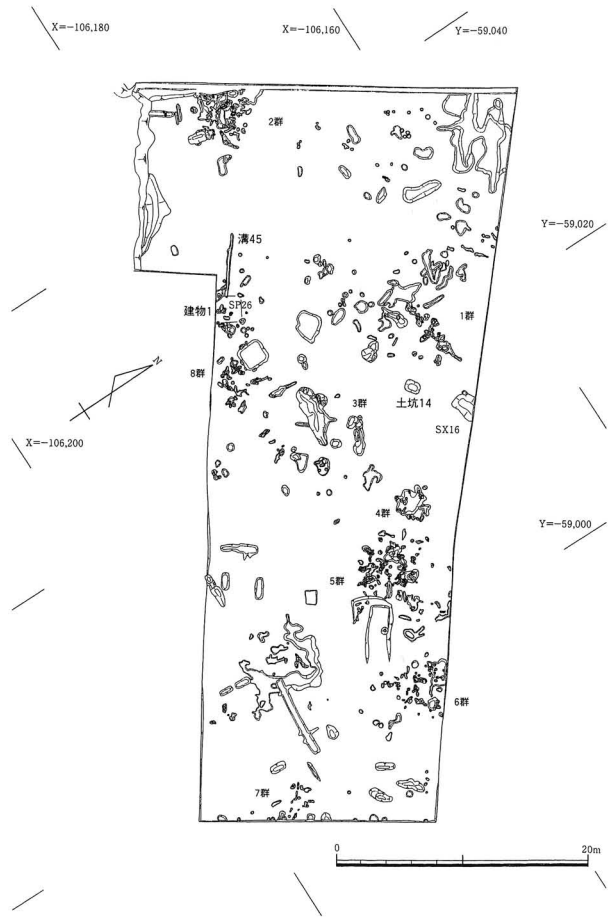
まとめ　今回の馬場ノ下遺跡の発掘調査は、能勢町天王地区内において本格的な調査は初めてである。検出した遺構は、中世と推定される小規模な建物１棟、焼土塊を伴う土坑１基などと極めて少ない。しかし、今回の調査により、標高490m前後と周辺の集落よりも300m前後高い小盆地においてさえも、中世には小規模ながら集落が営まれていたことが明らかとなり、能勢町内での新知見が加わった。

また、焼土塊が樹木根痕跡、土坑内より出土し、その埋土中にも、焼土片、炭片が多量に出土していることから、何らかの高温を伴なう作業が周辺で行われていたものと推察される。

また建物は、周辺から出土した遺物の中に、輸入陶磁器が認めらないこと、小規模であることなどから、零細農民の住居であるか、焼土塊を作り出した作業に伴う小屋であったと考えている。

天王地区の中世の集落は、発掘調査および遺跡確認調査の結果に基づき次のように想定している。遺跡は、北の山塊から派生する丘陵縁辺部に存在する旧街道沿いに立地し、文献、調査成果などから、小規模な屋敷地、建物が点在していたものと推察され、集落というよりも散村という風景を醸し出していたものと考えられる。

これらのことから、今年度の調査成果を合わせて、能勢町における中世の小山間盆地の開発と集落構造が、文献だけからではなく、考古学の視点からもより明らかになるものと考えている。今後の調査、研究に期待したい。



第18図　平面図

平石古墳群（０２０１４）

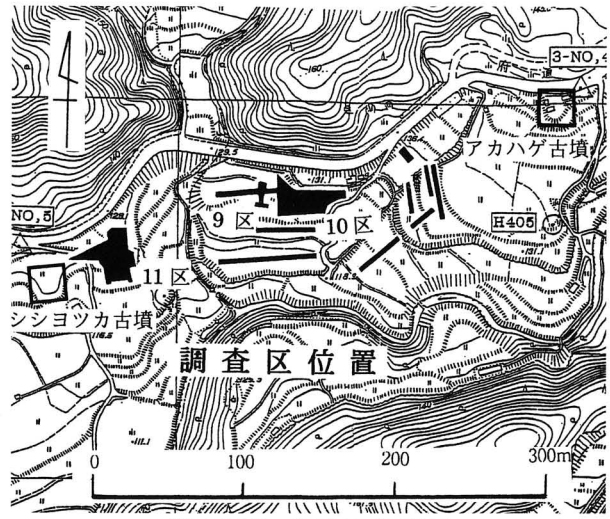
（１）南河内郡美原町平石
（２）府営中山間地域総合整備事業南河内こごせ地区
（３）枡本　哲

加納・平石古墳群は、葛城山西麓を南西に流れる平石谷の右岸段丘上を中心として、６、７世紀代にかけて築かれたことがこれまでの調査によって知られている。本年度の調査は、昨年度調査されたシシヨツカ古墳と、その東350mに所在するアカハゲ古墳との間に、北から南に張り出す丘陵先端部を中心とする一帯を対象として、大小計12箇所の調査区を設定して実施した。

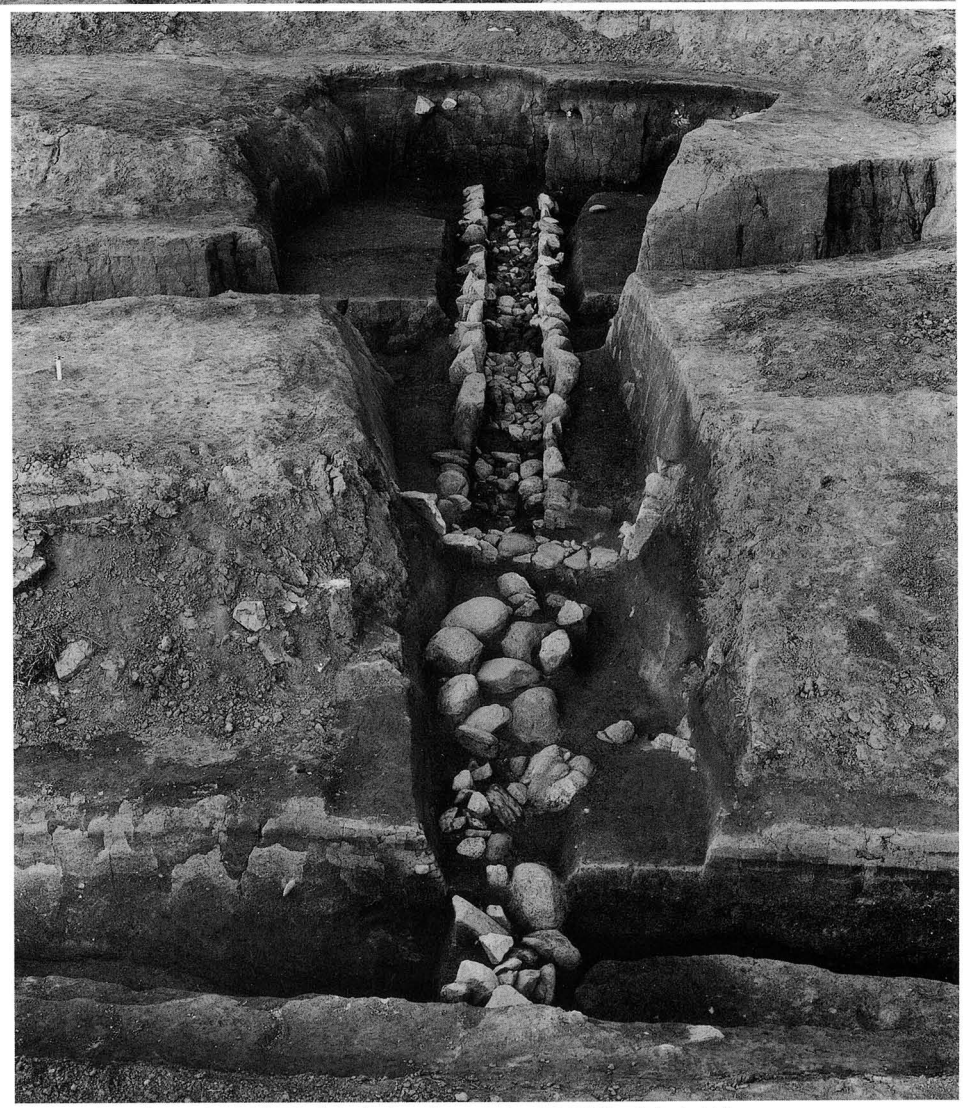
丘陵先端部はその崖面がコンクリート壁で擁護されている民有地にあたり、実際には丘陵下の傾斜面部分（10区）の調査となった。ここでは傾斜面を何度か盛土して現状の狭隘な棚田が築かれた様子が観察されたが、地山面では北側から流れ落ちたような形跡の石溜りが検出された。この石溜りには須恵器・瓦器・磁器など古代～現代の遺物がわずかながら混入していた。注意すべきはここで榛原石の破片見つかったことである。このことから民有地と現在の府道竹内河南線の道路敷きの下に古墳が築かれた可能性は高くなった。この調査区の西側の東西トレンチ（９区）では南北方向の石組溝が検出された。原状をとどめる北半部では、内法幅0.5～0.6m、深さ0.2～0.3mを測り、延長16.0mを検出したが、さらに北側に延びるものと思われる。20～30cm大の石とそれらの間隙に10cm以下の小石を填め込み丁寧に敷き詰められている。側石は長手の大きいもので60～80cmの材を用い、内法面は平坦面を揃えている。溝内堆積土より出土遺物は検出されなかったが、堆積関係よりみて８世紀のものと考えられる。ここでも溝底の石敷きにまぎれる形で榛原石片が確認されている。

シシヨツカ古墳東北の二ツ釜谷の右岸段丘上（11区）では、東西16.0m、南北11.0～12.0m、高さ2.0m以上で、コの字形に取り巻く掘割を伴う方墳に、石室を２基同時に構築した双室墳が新たに発見された。地籍名の「駕田」に因んで駕田古墳と名づけた。確認調査に留めたため石室の内部など詳細は不明であるが、東西両石室とも入　口より南側5.0mまで前面に排水暗渠を伴っている。東側石室は入り口側壁と前方の天井石が失われ、また後方の天井石も左側壁内側に落ち込んでいたが、西石室は入り口に閉塞石が残っていた。ただその一部が割り取られ、その開口部より盗掘が行われた形跡が認められた。東側石室の規模は、内法幅0.9m、高さ0.8mの石槨状をなす。撹乱された堆積土の一部を清掃する過程で、床石上で雁木玉（管玉）１点が出土した。さらにピンにて床面の確認を行ったところ、床石は残存し、側石がその上に載ることが分かった。一部確認された床面には朱彩の痕跡が認められた。西側石室も規模は同様で、奥行は東側が2.3m、西側が3.0m程度とみられる。墳丘は一段で、撹乱された部分での断面では、石室周囲に厚さ２～６cmの細かな版築盛土が観察された。掘割は北側から張り出す丘陵端を東北～南西に切って石室の東西、北側を囲む形に仕上げられ、幅は9.0～11.0mになる。東側は築造当初の地形を残していないが、掘割を含めた東西は40.0m程度と考えられる。丘陵を断ち切った平坦面に石室を構築し、その周囲に墳丘を盛り上げていった様子が断面観察より明らかである。主軸はほぼ磁北に合致する。古墳の位置はシシヨツカ古墳の墳丘第1段から東50mにあたり、軸方向もほとんど等しく、真南に開口し、シシヨツカ古墳を意識して造営されたことは明らかである。古墳の時期を判別できる有効な出土資料は得られなかったが、規模・形態からみて7世紀代としておきたい。

その他の調査区ではアカハゲ古墳に近い東側の舌状丘陵部で、褐色の粘質土が溜まった不定形な落ち込みが検出され、陶邑Ⅲ－２の須恵器坏蓋の破片が出土したことが注目される。



第19図　調査区位置図



第20図　上　駕田古墳前面（東南より）・下　石組溝（南より）

田井中遺跡（０２０１５）

（１）八尾市空港１丁目
（２）一級河川平野川改修工事
（３）宮崎　泰史

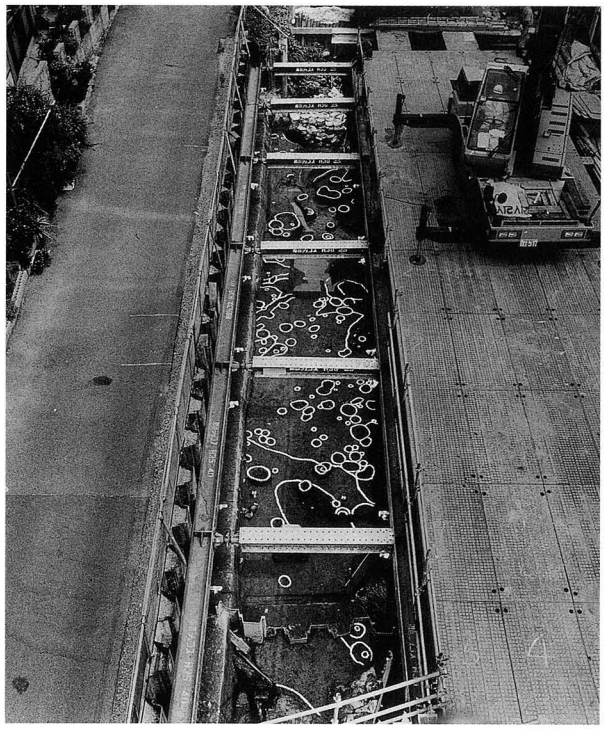
田井中遺跡は1975年、陸上自衛隊八尾駐屯地内の下水道工事によって周知され、1990年度から大阪府教育委員会によって北濠の改修工事（平成２～７年度）を1995年から北濠の改修工事に並行して一級平野川改修工事に伴う調査を実施している。今回の調査は平野川改修工事の最終年度にあたり、1999年度に調査が実施された第７調査区の南東部分に接する（第８調査区）。調査は2002年６月10日～８月10日、９月19日～11月28日にかけて実施し、調査面積は110㎡である。

調査の方法

調査の着手にあたっては、埋没深度が深く、また下水道のはけ口や大量の湧水から保護するため調査区の周囲に鋼矢板をめぐらしている。短辺は簡易矢板で締め切っている。調査の実際に当たっては、現河川の流路確保の必要上から、調査区を現河川の中央で二分して行い、北東側をＡ区、南西側をＢ区とし、Ａ区より調査を開始した。Ａ区の調査終了後、護岸工事の完成をまってＢ区の調査にとりかかった。

調査の概要

調査は、現平野川の底部に堆積したヘドロ層を機械で掘削、それ以下は人力掘削を行っている。層序は大きく７層に分けられる。第４層～第７層上面で遺構を検出した。第５層は２つに分けられ、上位で古墳時代中期の溝、下位で庄内期の溝や弥生時代後期の土坑を検出している。第６層は弥生時代前期の包含層で、層中より大量の土器、石器、動物遺体などを検出している。上面で弥生時代中期前葉から中葉にかけての土坑、ピット、溝を検出した（第21図）。土坑401は径1.5mをはかり、坑中より中期前葉の土器とともに木製広鍬の製品や半製品が出土している（第22図）。また、土坑458からは木製広鍬の未製品が出土しており、一連の製作過程を示す良好な資料といえる。なお、第６層は焼土や炭の間層によって３つに分けら、中層及び下層の上面で、弥生時代前期後半のピット、土坑を検出している。第７層上面（青灰色シルト層）では、溝、土坑、落ち込み、ピットを確認した。落ち込みからは骨角器やイヌ科の犬歯を利用した牙玉も出土している。第８層上面（灰白色砂層）で幅５m以上をはかる大溝を検出している。溝内から弥生時代前期後半の土器とともに、鋤や梯子などの木製品、石器、動物遺体などが出土した。



第21図　A区弥生時代中期遺構面（北西から）

第22図　B区弥生時代中期土坑401（南西から）

陶器南遺跡（０２０１７）

（１）堺市辻之・陶器北地内
（２）府営集落基盤整備事業陶器北地区
（３）杉本　清美

陶器南遺跡は、古代における須恵器の一大生産地である陶邑窯跡群の北側に隣接し、北側の丘陵地には陶器千塚、南側には辻之遺跡が存在する。当遺跡内では、継続して実施されている集落基盤整備事業に伴って広範囲に調査がなされてきた。今回の調査地は、南東から北西に舌状に延びる丘陵の西側先端部に位置し、北側を流れる陶器川と南側の谷部から流れる小河川が合流する地域にあたる。

今回の調査では、約500mにおよぶ水路部（１～３区）と耕地整備によって削平される部分（４区）に調査区を設定した。

調査区の東側に位置する１区・２区では、丘陵部端を概ね南北方向に流れる流路跡（流路１・２・３）を検出した。並存するものではなく、流水と堆積を繰り返していたものと思われる。６世紀後半頃の須恵器を多く含むが、上層からは青磁碗・瓦器椀・瓦質羽釜片なども出土した。

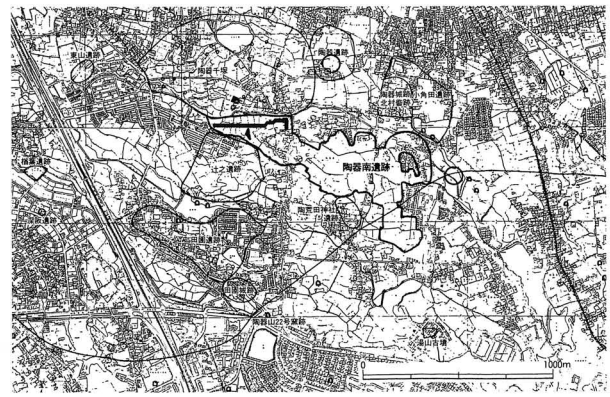
２区西端から３区東端部では、砂層が深く堆積しており沼状地形の様相を示し、顕著な遺構・遺物は検出されなかった。

３区東側から中央部では溝状遺構が多く見られ、北側の陶器川や南側の谷部から流れる小河川の氾濫原の様相を示す。やや微高地となる地域では、建物の柱穴と思われるピットや土坑・井戸などを検出した。出土遺物は、須恵器が主を成すが、黒色土器・瓦器椀片なども見られた。

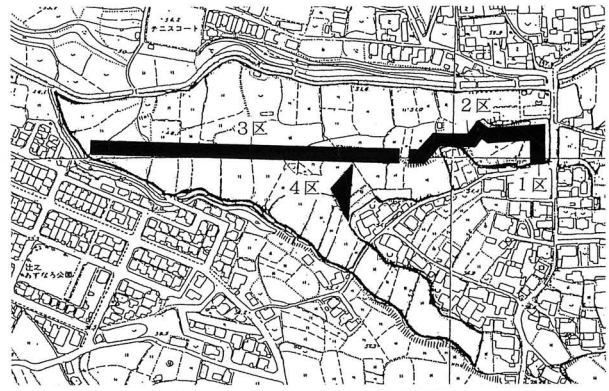
３区西側部では、旧河川跡を検出した。河川内からほぼ完形の須恵器がまとまって出土した。焼き歪みのあるものや土器片が付着したものが多く見られた。おそらく、近在する須恵器窯から河川を利用して搬出する際に、不用品を河川内に投棄したものと思われる。

４区は、丘陵尾根部に位置する。耕土層下から主に東西方向に延びる耕作溝跡を検出し、須恵器片の他、瓦器椀、小皿、土師器片、土師質羽釜などの細片が出土した。下層ではピットや小土坑などが見られ、ピット内から須恵器坏蓋などが出土した。おそらく、中世代に削平を受け耕作地化されたものと考えられる。

今回の調査区では、旧陶器川と谷部から流れる小河川の氾濫原の広がりを確認することができた。また、出土した須恵器の中には、土器片が溶着したもの、焼き歪みのあるものなどが多く見られたことから、須恵器窯が近在する可能性がうかがえる。



第23図　陶器南遺跡と周辺の遺跡



第24図　調査区位置図

第25図　遺物出土状況

堺環濠都市遺跡（０２０１９）

（１）堺市車之町西1～3丁、戎島町1丁地先
（２）府道堺大和高田線電線共同溝整備工事
（３）亀島　重則

すでに実施している車之町東、櫛屋町東地区に続いて工事計画のある西地区で確認調査を実施した。調査坑は主として歩道に設け、大道筋に近い車之町西１丁地先の調査坑（№１）から戎島町１丁地先の調査坑（№６）の６箇所で実施した。

表層（歩道基盤層、アスファルト舗装・砕石）以下、道路敷設時の盛土・整地土や大戦時の焼土を含む層などの近代までの層があり、この下から近世以前の土層になる。

調査坑１　地表下約１ｍ付近から層厚５～10cmの焼土・スミが混じった黄灰色から灰褐色系の砂質土（土層番号８～13）が堆積する。地表下２ｍ付近で検出された焼土層（14）まで、よく締まった土層が続く。都市遺跡に関連する整地土とみられる。以下確認できなかったが、さらに深部に及ぶ可能性が高い。

調査坑２　地表下約1.5mから２ｍ付近まで柿釉小皿、土師器や陶磁器を含む灰色系粘質土（３～５）が堆積する。これより以下は灰色粘土層となる。

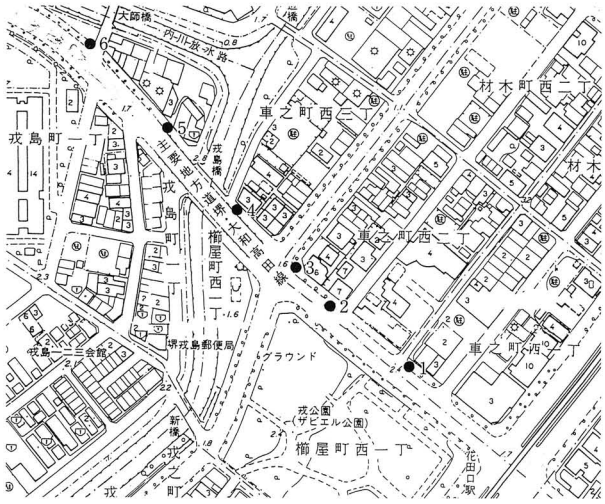
調査坑３　地表下約1.5mまで真砂土が確認された。

調査坑４　地表下約１ｍから砂（３）・緑灰色～黒灰色系粘土（５～７）が堆積する。

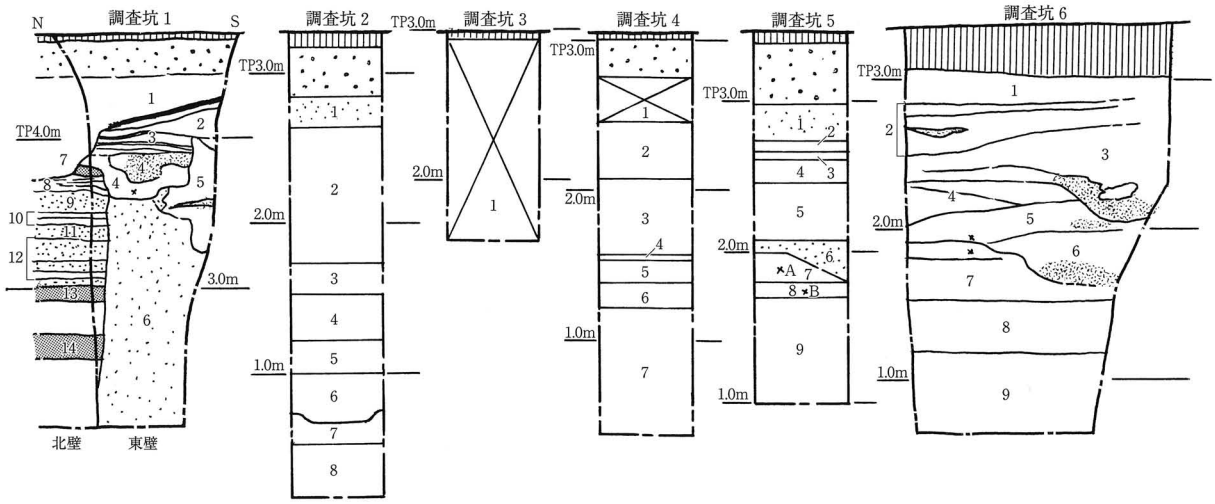
調査坑５　地表下約1.4mまでは盛土層で、以下粗砂層（６）、緑灰色系微砂質粘土～粘土（７～９）が堆積する。微砂質粘土層（７・８）からは土錘・土器片が出土した。

調査坑６　戦災時起源の焼土を含む土層（２）や褐色系砂質土の堆積土の下、地表下約1.5mで、オリーブ灰色粘土（７）、青灰色砂（８）・砂レキ（９）が堆積する。

調査坑１を除いて、いずれも泥質状の堆積環境を推測させる。このことから、大道筋から調査坑２付近までは発掘調査が必要であり、さらに先については立会が適当と判断される。



第26図　調査地位置図



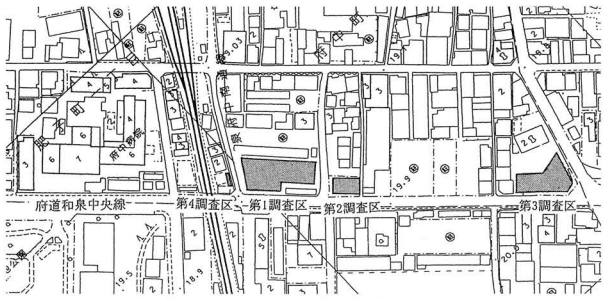
第27図　調査坑断面図（１／５０）

府中遺跡（０２０２０）

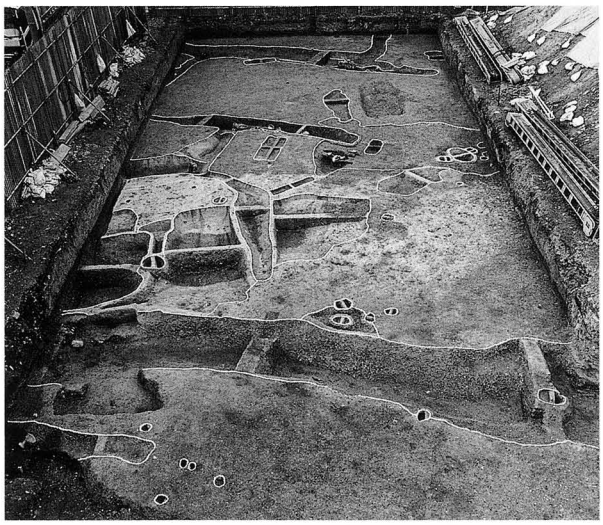
（１）和泉市府中町１丁目
（２）和泉中央線立体交差
（３）亀島　重則

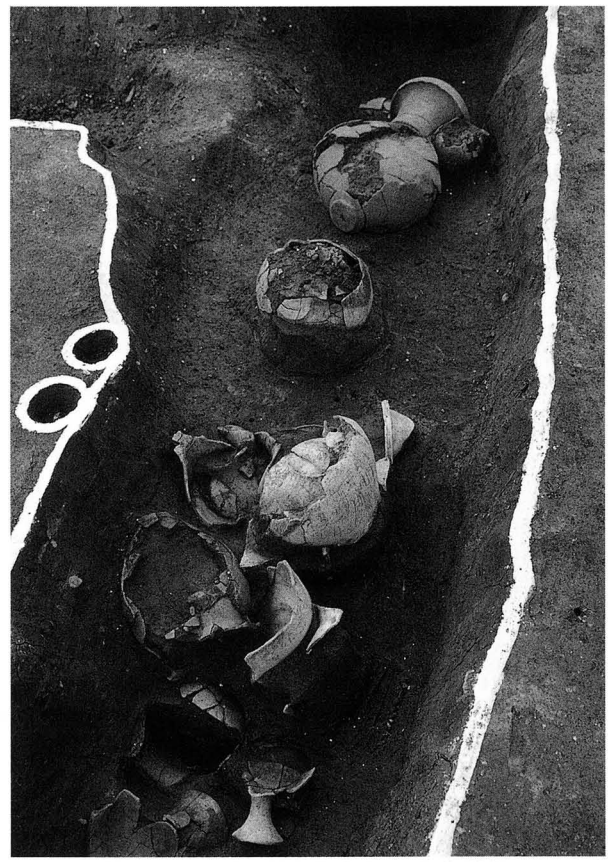
調査は、JR阪和線と交差する地点の東側の第４調査区を始め、東に隣接する第１調査区･第２調査区、東端部の第３調査区で行った。

第１・２・４調査区では、上位面で弥生時代後期～古墳時代前期の河川やその周辺に土坑・小穴を検出した。住居などの居住に直接関わる遺構がなく遺物も少ないことから居住域から外れた空間と推定される。第２調査区で検出した北側への落込みから、河川の周辺に形成された湿地状の地形も予想される。幅１～1.5mの溝などは水路としての機能を果たしていたとも考えられ、付近に水田の検出される可能性もある。また、人の足跡も検出されていて、その可能性を暗示させる。下位面では第１・４調査区で縄文後期土器を包含する土層と土坑などが検出された。土層中の土器は全体に遺存状態が悪いものが多いことから、原位置を離れていると考えられる。遺構内の遺物は第１・４調査区で少量出土した例を除いてほとんどないことから、居住区から離れた地域と考えられる。第３調査区では、縄文時代晩期と弥生時代中期の遺構が検出された。縄文時代晩期の遺構としては、土坑から土器を中心に石皿や石棒・サヌカイト片が出土した。直接住居などの遺構は検出できなかったが、近くに居住地が存在すると推定される。本地点の東でも同時期の遺物が多く出土した地点があり、少し離れて居住地が点在していたものと考えられる。弥生時代中期の遺構として、方形周溝墓を検出している。現状で確実なのは２基で、両方の１辺が重複し、共有していた時期もあると考えられる。全体の形状が分かる1号周溝墓は長方形に溝を廻らせたもので、短辺の１箇所が切れている。２基とも溝埋土中から土器が出土していて、いくつかは供献土器の可能性をもつ。とくに１号周溝墓の東側溝内の土器群は、明確にその様相を示している。この周溝墓群の東には幅約２ｍの大溝が走る。この溝から東では一旦遺構が希薄になり、中期から後期の集落中心部に接する。このことから弥生中期にはこの大溝は居住地から離れた墓域を画する意味を持って掘削されたと考えられる。



第28図　調査地位置図


第29図　第３調査区　西部


第30図　方形周溝墓土器出土状況

百済寺遺跡（０２０２１）

（１）枚方市宮之阪３丁目
（２）府立中宮病院再編整備事業
（３）横田　明

調査の経過　試掘調査対象地である府立中宮病院は特別史跡百済寺跡に隣接する。病院の将来計画策定にあたり、遺構・遺物の有無、性格を確認するための試掘調査を事前に実施することになった。第１次試掘調査として、平成12年７月に、病院構内西南部の公園部分を対象として実施した。調査の結果、古墳の周溝などが検出されたこともあり、中宮病院敷地内全域において遺構の有無を確認する必要が生じた。このため、今回、第２次の試掘調査を実施することとなったものである。

試掘調査の方法　調査にあたっては、病院構内西側のグランド部分ととデイケアセンター地域に重点的に調査区を配置し、それ以外の地点についても、適宜、調査区を設定することにした。

試掘調査結果

（グランド・テニスコート部分）　この地域は、比肩差の大きい段丘崖の縁辺に位置する平坦地と思われた。しかし調査の結果、旧地形は谷が深く入り込んだ段丘崖であり、高所の削平と谷の埋め立てで、大規模に造成された地形であることが判明した。地山直上まで造成土や撹乱土で覆われており、遺構・遺物は全く発見できなかった。

（デイケアセンター周辺）　この地域はなだらかに西へ傾斜する斜面となっている。掘削の結果、大規模に盛り土をした造成地形で、その下には谷状地形が埋没していた。谷底からは平安時代の遺物（緑釉陶器、須恵器、土師器、平瓦など）が若干発見された。しかし出土層は二次堆積土であり、谷を埋め立てる際に流入したものと思われる。

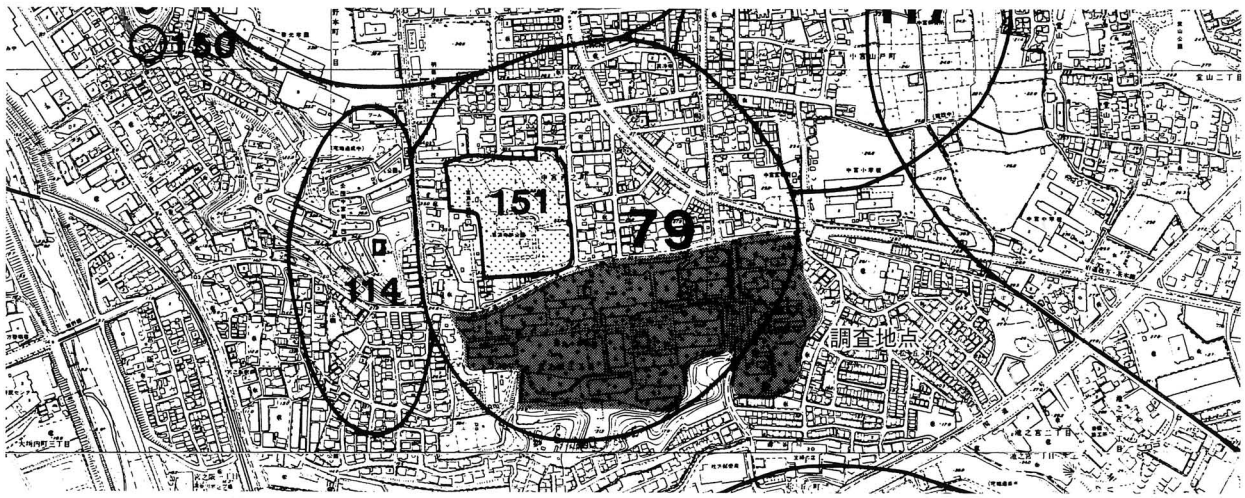
（駐車場北側）　病院北縁の植え込み内に設定した調査区である。地表下１ｍで地山を検出したが、完全に削平されていた。

（病棟周辺）　病棟の東端付近で東側の丘陵崖を検出した。しかしこの地域も削平を受けており、遺構・遺物は発見されなかった。

（松心園地区）　病院より東側の地域である。北側で谷状に落ち込む地形を検出した。南部地域では平坦面を検出したが、全て削平されていた。

まとめ　中宮病院一帯は特別史跡百済寺跡の南側に隣接する重要地点であり、百済寺跡関連遺構の検出が期待されたところであるが、今回の調査では顕著な遺構・遺物は確認されなかった。一帯の地形をみると、枚方台地の段丘崖の縁辺部は20～30ｍの幅で帯状に周囲より高くなっている。しかし、当該地の現状は全く平坦化しており、史跡指定地と比較してもかなり低いレベルでおさまっている。この状況は、病院建設などによる造成・整地の結果であり、本来存在したであろう遺構・遺物などは、このときに削平されたものと推測される。平成12年度の調査では病院構内の西南部分で、遺構・遺物が発見されている。ここは以前から公園として整備されているが、削平の程度が浅かったために、古墳の周溝などの深度の深い遺構については遺存したものと思われる。

また病院の西北隅、、デイケアセンター北側の調査区で検出された遺物については、谷状地形を埋める際に流入したものと考えられ、周辺にこれらの遺物を包含していた土層の存在を推定させる。



第31図　百済寺遺跡位置図（79：百済寺遺跡・151：百済寺跡）

はざみ山遺跡（０２０２２）

（１）藤井寺市公団１丁目
（２）都市基盤整備公団藤井寺団地建て替え
（３）西川　寿勝

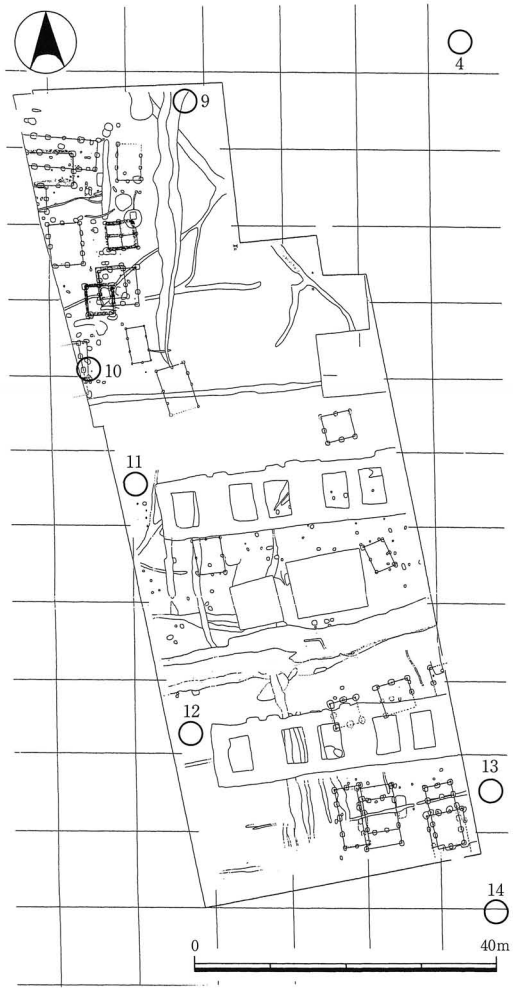
はざみ山遺跡は羽曳野丘陵の北端、低位段丘上に位置する。西側を古市大溝、東側を石川で画され、北東に緩やかに下る地形である。

この遺跡は昭和40年代に飛鳥・奈良時代の土器・瓦などの散布が確認され、調査の結果、掘立柱建物が発見されたことに端を発する。その後、外環状線建設に先立って大規模に発掘調査が行われ、官衙施設と考えられる大規模建物群が発見された。それ以降にも、宅地開発などに先立って数多くの調査が実施され、古墳時代と飛鳥・奈良時代、中世の遺構・遺物が発見されている。

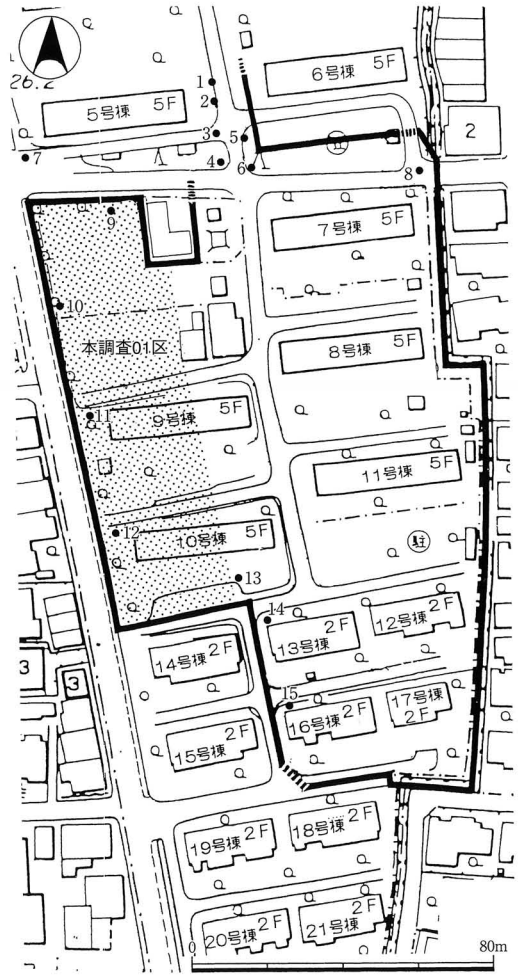
今回調査は遺跡の北端に位置し、北東に土師の里遺跡と接する府営住宅地内で建物の立て替えに伴って実施した埋管の切り替え工事立会調査である。調査対象地は大阪府文化財センターによって本調査が継続的に行われる予定である。

立会調査の結果、調査対象地の西側ではかく乱のない部分では遺物包含層が良好に残っており、地山黄褐粘土を切り込んで柱穴・溝・焼土遺構などが確認された。調査予定地内の東側は府営住宅造成時に削平を受けた部分が多く、遺構・遺物は認められなかった（第33図）。

発見された遺構は後に本調査が予定されていたため、破壊されない部分は掘削しなかった。遺物は古墳時代後期の須恵器と奈良時代頃と考えられる須恵器・瓦などがある。本調査は西側部分が現地説明会によって公開され、古墳時代後期の須恵器を含む溝群や飛鳥・奈良時代の掘立柱建物群24棟が三時期にわたって展開することが検討されている。また、埴輪円筒棺や円筒埴輪を転用した井戸などが発見され、土師氏との関連も想定される（第32図）。



第32図　本調査01区（大阪府文化財センター調査）



第33図　立会地点位置図

国道３０９号線試掘（０２０２３）

（１）南河内郡河南町大字中・千早赤坂村大字森屋
（２）国道３０９号線建設
（３）西川　寿勝

河南町神山から馬谷に向って、段丘をほぼ東西に貫く形で府道309号線河南千早バイパ スの道路建設が予定され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施した。付近は条里制区画が明瞭に残る水田地帯で、石器、平安時代の土器の散布が認められ、土地開発の一端がうかがえる。また、東の丘陵辺縁には古墳時代後期の金山古墳があり、二基の大型家形石棺が発掘調査で発見され、この地を拠点とした有力者の存在が知られる。

そして、東には下・上赤坂城と千早城・国見山城があり、西には龍泉寺城・金胎寺城など南北朝期の南朝拠点としての中世城郭が点在する。この地域では楠木正成らが反鎌倉幕府の兵を挙げ(1331)、100日以上にも及ぶ籠城戦を展開したことで有名である。その後も足利軍を相手に攻防をくり返し、調査地近辺も戦場となっていたことが予想される。

以上を踏まえ、道路予定地の買収部分に平成14年７月より13か所のトレンチを設定して試掘調査した（第34図）。

試掘調査の結果、トレンチ１～４部分では自然河川に伴う流路と堆積物が地表から１ｍ以上発達して見られ、それに伴う遺構・遺物はなかった。表層に少量の中世の土器散布が見られたものの、小片で摩滅が激しく南方丘陵部からの流れ込みと考える。

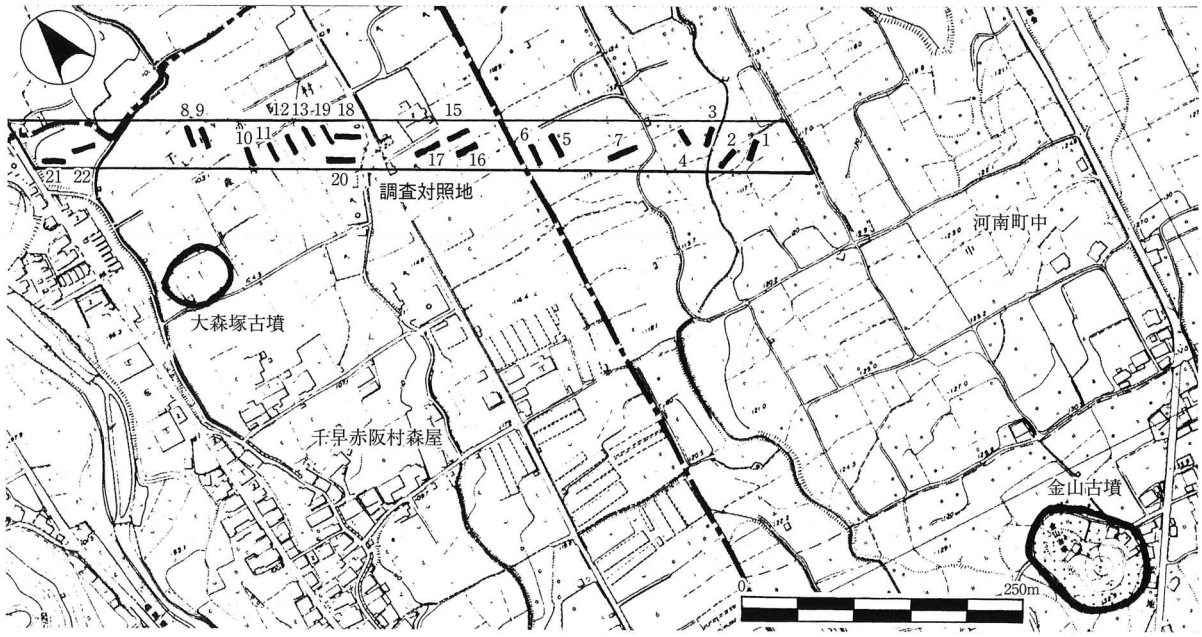
トレンチ５～７部分はなだらかな丘陵のもっとも高い位置であるが、堆積物は氾濫に伴う南方上方からの土砂堆積で遺構・遺物はなかった。

トレンチ８～13は東から西へ、千早川の渓谷にくだる急峻な斜面をひな壇に水田開発した部分である。各トレンチの地山は人頭大の円礫を大量に含む洪積層で遺構・遺物はほとんどなかった。

ただし、トレンチ13から直径30cm、深さ10cm程度のピット（小穴）が発見され堆積物中に平安時代の土師器碗があった。該当時期のピットと考えるが遺構の性格はわからない。

以上より、試掘調査ではトレンチ13以外に顕著な遺構・遺物は発見されず、本調査の必要はないと判断した。しかし、表層にわずかではあるが石器や中世土器などの散布が認められ、土地改変が古くにさかのぼる可能性が高いことなどから、さらに平成15年２月より、引き続きトレンチ６とトレンチ13の間に、試掘区トレンチ15～22を設定して調査を行った。

その結果、トレンチ20で自然流路を確認、少量の中世の土器などを確認した以外、各トレンチでは顕著な遺構・遺物は認められなかった。したがって、開発範囲内で本調査の必要はないと判断した。



第34図　試掘調査区位置図

陶器遺跡・陶器千塚（０２０２４）

（１）堺市陶器北
（２）府営集落基盤整備事業陶器北地区
（３）西川　寿勝

堺市陶器北地内の府営集落基盤整備事業八田地区ほかに先立って、遺構・遺物の有無とその深度を確認する目的で試掘調査を実施した。試掘場所は休耕田や荒れ地に２×４ｍの試掘孔を14か所を設置して実施した（試３区のみ２×８ｍ）。

調査対象地は西半分が陶器千塚、東半分が陶器遺跡に含まれる。これまでの調査では南に広がる陶器南遺跡が継続的に調査されている。南東の小角田遺跡では６世紀の集落と５世紀後半の須恵器窯跡がみつかっている。その一方、西に接する地域は戦前まで100基近くの小古墳群が存在していた。６世紀後半の副葬品などが知られる他、内部主体が須恵器工人の影響を強く受けたカマド塚と呼ばれる構造をもつものなどが発見されている。

また、調査地の東に接して、陶器藩陣屋跡が遺存する。この城は秀吉恩顧の家臣、小出秀政の三男、三尹に拝領されたものだったが江戸時代になって家系は有重、重興の三代で断絶した。十年後の宝永二年（1705）、有重の弟、尹仍が5000石の旗本として城を継ぎ、この地に陣屋を再興して以後、八代続いて明治に至っている。調査対象地は陶器城を東に望むひらけた地形で、かつては藩の家臣団の居住区などが存在した可能性もある。

さて、試１区・試２区は調査対象地の西端に位置し、91年度の試掘区19トレンチに近接する。19トレンチでは６世紀後半の古墳主体部残欠が確認されており、その周溝が予想されたが、遺構は確認することができなかった。

試３区は調査対象地の西南端に位置する。２×４ｍの試掘区を設定、調査区中央で南北溝３－１を確認、溝の幅などを確定するため、西に２×４ｍ分拡張した。その結果、南北溝は幅3.5ｍ深さ約0.4ｍあることがわかり、更に調査区の西端で埋め土のよく似た並行する南北溝の東肩を確認した。南北溝やその上面からは古墳時代後期の20片以上の須恵器が発見された。この溝の時期を示すものかどうかはわからない。

試４区は試３区の東、同一水田面に設定した。真南約10ｍに本瓦葺きの民家の母屋がある。調査の結果、四つの土坑を確認した。土坑４－１からは17世紀頃の湊焼大甕、信楽焼擂り鉢などがまとまって発見された。他の土坑にも同一個体の土器片が包含されており、遺構群は同時期と考える。陶器藩に関連する時期のものである（第35図）。

試５区・試７区・試９区は地山面が削平されており、遺構はなく遺物も確認されなかった。

試６区・試８区は試５区・試７区の東、ひな壇に造成された水田の高所に位置する。試６区では幅0.3ｍ程の浅い東西溝６－１が発見された。試８区では遺構が確認されなかったものの、６世紀後半と８世紀の須恵器片、合わせて約190片が確認されており、付近に遺構が存在すると考える。

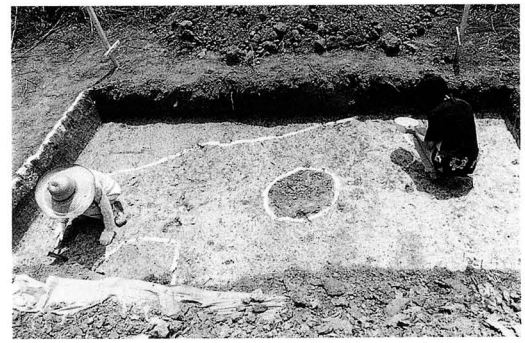
試10区・試11区・試12区・試14区は調査対象地の南の中央のひな壇造成された水田群に対し一段ずつ、試掘区を設定した。試12区で幅約0.5ｍの浅い東西溝12－１を確認した他、遺構は見つからなかった。各試掘区から古墳時代後期の須恵器片が多数発見されている。

試13区は調査対象地の南東端のもっとも高い水田面に設定、３か所で不定形な土坑を確認した。

その他、調査対象地の休耕田などで土器片の表面分布を観察した。概して、調査対象地内ではいたるところ須恵器が採集でき、その量はコンテナ１箱に及んだ。

今回の試掘調査は面積が小さく、遺構が確認できなかったところもあるが、遺物包含層のひろがりと地表面に散乱する遺物の広がりからみて、付近に古墳・住居跡などの遺構があると思われる。したがって、対象地域の開発においては事前に本調査が必要と判断した。ただし、近年の水田造成で部分的に遺構面が削平されているところもあり今回の調査ではその範囲を確定できなかった。

詳細については本府教育委員会刊行の『陶器南遺跡発掘調査概要』Ⅸ．2004を参照されたい。



第35図　試４区遺構検出状況

陶邑窯跡群（０２０２５）

（１）堺市陶器北
（２）府営集落基盤整備事業陶器北地区
（３）西川　寿勝

調査区は陶器南遺跡の南東に接し、陶器川を北に眺める段丘斜面に位置する。陶器川によって形成された開析谷の北側段丘上には小角田遺跡と窯跡群（ＭＴ250・251）、調査区からの下流約1500ｍの北側段丘上に陶器千塚が広がる。

その一方、上流部の北側斜面には老ノ池１号窯（ＭＴ19）・２号窯（ＭＴ20）、中池１～３号窯（ＭＴ302～304）、阿弥陀池１～５号窯（ＭＴ305～308）がある。以上の窯跡に伴う遺物として、古墳時代後期・飛鳥時代の須恵器が採集されている。

調査区は以前に行った試掘調査、試１区（長さ40ｍ、幅1.5ｍ）・試２ａ区（長さ20ｍ、幅1.5ｍ）・試２ｂ区（長さ10ｍ、幅1.5ｍ）・試３ａ区（長さ30ｍ、幅1.5ｍ）・試３ｂ区（長さ24ｍ、幅1.5ｍ）の段丘上部に位置し、５か所に及ぶ。下流側の１区ともっとも上流の５区では比高差が約10ｍある。

１区は開析谷南斜面を中腹に位置する三日月形の373㎡で、表層（水田耕作土）を除去すると約0.3ｍの遺物包含層（水田床土）が堆積しており、古墳時代後期と中世の遺物が含まれていた。堆積状況から南上方より流出した土が起源と考える。表土下には部分的に上方の地山を客土した整地土層もみられた。整地の時期はわからないが、中世以降の水田開発によって、地形が大きく改変されている可能性が高い。表土下約0.5ｍのところで地山黄褐粘土に達した。地山は南から北に緩やかな傾斜が認められる（第36図）。

１区の遺物包含層からはコンテナ５箱分の古墳時代後期と中世の遺物が発見されたものの、該当期の遺構はなかった。北西隅で水田の区画を示す段差と溝を確認した。また、調査区北側は水田畦畔が盛り土されており、畦畔造営時に含まれる遺物に17世紀前半の陶磁器が含まれることから、現在の形に水田が形成された時期をうかがうことができる。17世紀前半は調査区の北に陶器藩陣屋が形成され、新たな年貢徴収体制になった時期であり、前章に示した水田開発の記録と対応でき、注目される。

２区は陶器川の南岸の開析谷の斜面中央、試掘３ａ・３ｂ区の南方に位置する32㎡である。表土直下に約0.4ｍの遺物包含層があり、古墳時代後期の須恵器が少量みつかった。しかし、遺構は残されておらず、水田化に伴って作成されたか、遺物が上方から流れ込んだ可能性がある。

３・４・５区は老ノ池の南岸斜面のテラス部に位置する。老ノ池をはさんで北斜面にＭＴ19とＭＴ20を望むことができる。ＭＴ20は現在老ノ池の堤になっており、窯の様子を確認することができないものの、ＭＴ19は崩落した窯体部が老ノ池北岸に露出している。

３～５区はそれぞれ東西に長い２ｍ×7.5ｍのトレンチで、表土を除去すると地山粘土層が露出し、遺物包含層は残されていなかった。地山にも遺構は残されておらず、遺構面ごと流出、あるいは整地されてしまったと考える。ただし、調査地周辺には須恵器・土師器が散布しており、上方の段丘上に古墳時代後期、あるいは中世の集落が存在したのだろう。

試掘調査成果とＭＴ19・20については本府教育委員会刊行『陶器南遺跡発掘調査概要』Ⅷ．2001に、本調査については『陶器南遺跡発掘調査概要』Ⅸ．2004に詳しい。参照されたい。

第36図　１区調査状況

招提中町遺跡（０２０２６）

（１）枚方市東牧野町
（２）府営枚方牧野東住宅建て替え
（３）井西　貴子

はじめに

本遺跡は、周知の遺跡の範囲であるが、平成８年度に住宅整備課との府営住宅建て替え協議が実施されたおり、既往の調査例が少ないことから、試掘調査が実施された。その成果を踏まえ、平成10年８月～平成12年３月まで、第１期建て替え工事に伴う発掘調査が実施され、調査成果ならびに整理結果が、本府教育委員会　2002年『招提中町遺跡』として、刊行されている。

調査成果

府営住宅建設以前の当該地は水田として利用されていた。調査着手以前は木造府営住宅が建ち並んでいた。標高は約21mを測り、調査区４区では、北から南に向かい若干下がり、南約100mに位置する穂谷川が北西流し、調査区との間に天井川を形成している。２区の地形は、北側に谷が存在し、標高は北側に向かい、やや下がっている。

調査区は道路部分・埋設管部分・住棟部分２棟の４ヶ所に別れているため、１～４区とした。(第37図)

①　１区

南北の調査区である。府営住宅建設時の盛り土を除去すると、すぐに地山面となり、遺構面であり、遺構面は１面である。調査区全体に小穴・土坑などの遺構が広がっていたが、明確に建物を構成する小穴は確認できなかった。南側は府営住宅建設以前の水田面造成の際に削平されていた。

②　２区

東西に長い調査区である。東端と西端は、盛り土を除去するとすぐに地山面となり、遺構面である。中央部分は北側に向かう東西幅約20mの谷が確認された。谷の底は急激に下がるため確認できなかった。谷が埋まった段階で、幾筋かの流路が残り、最終的にこの流路が埋没するのは、奈良時代以降である。谷の上面には、府営住宅建設以前の旧耕作土・床土（標高約21m）。耕作土（層厚約10～20cm）は灰色土層を基本とし、床土（層厚約５～10cm）は橙褐色・黄白灰色土を呈する。

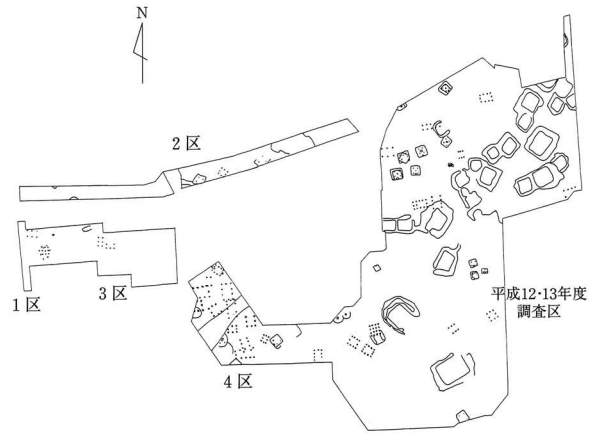
包含層は２層確認した。上層は、中世以降の包含層で、白灰色砂混じり土層。層厚５～10cm。下層は平安時代までの遺物を含み、暗褐色土層。層厚５～15cm。上面にはMn粒が堆積する。遺構は庄内期の方形竪穴住居と平安時代の掘立柱建物他、土坑・小穴を検出した。

③ ３区

全体が府営住宅の解体での削平を受けていた。盛り土を除去するとすぐに地山面となり、遺構面である。遺構は、弥生時代の土坑・小穴、平安時代の掘立柱建物などを検出した。

④ ４区

北と東では、盛り土を除去するとすぐに地山面となり、遺構面である。中央部分は南に向かう谷が検出され、上面は２区の谷の堆積同様、包含層が確認された。谷の埋没は平安時代と考えられ、掘立柱建物は谷が埋没した上面からの切り込みである。遺構は、掘立柱建物、庄内期の方形竪穴住居、弥生時代中期の円形竪穴住居、他に小穴・土坑などを検出した。



第 37 図　調査区位置図

高安古墳群87号墳（０２０２７）

（１）八尾市大窪
（２）府営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業八尾地区
（３）岩崎　二郎・小林　義孝

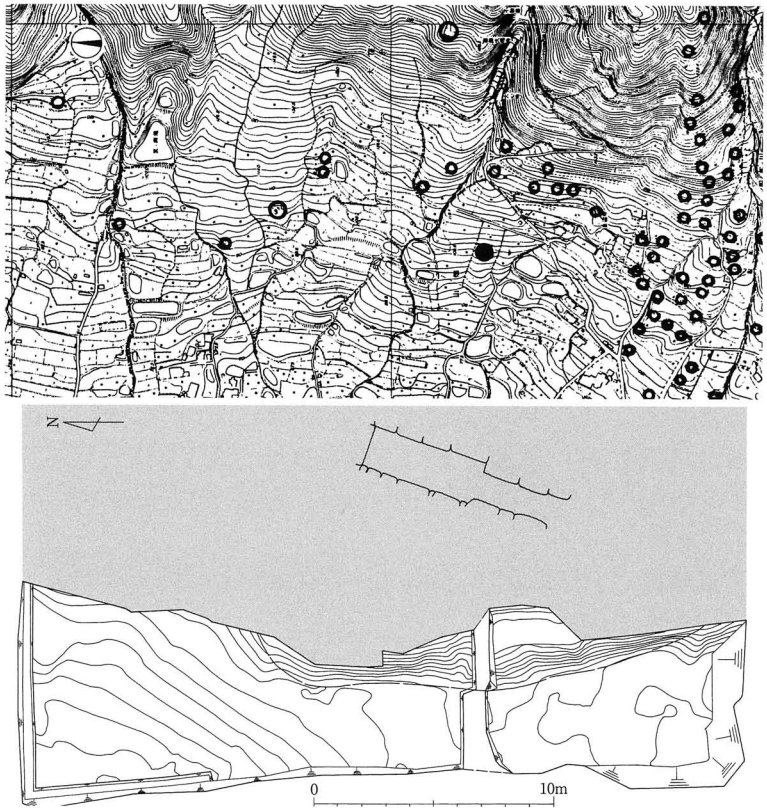
はじめに　八尾市高安古墳範囲内において、農道建設に先立ち高安古墳群87号墳の発掘調査を実施した。農道の路線は標高100m前後の等高線に平行して生駒山地の中腹を南北に縦断するように設定されている。この策定にあたっては墳丘や横穴式石室など地上に明確な痕跡が残る古墳を回避して経路を決定するよう配慮されている。87号墳は、開口した横穴式石室を中心に墳丘の一部が遺存しており、農道はこれらを避けて当該古墳の西側（平野側）を通過するように計画された。しかし2001年度に実施した試掘調査の結果、農道予定地内に墳丘の裾部が及んでいることが確認されたため本年度当該部分の発掘調査を実施した。

調査の結果　墳丘の西部に長さ約30m、幅約６mの南北に細長い調査区を設置した。調査区の東部で、墳丘の裾部が約20mの長さで緩やかな弧を描いて検出された。墳丘は表土を除去すると直ちに地山である砂礫層が出現する。墳丘は地山を削りだして造営されたものと考えられる。裾部は標高約97m、調査区東側に遺存する横穴式石室に開口部付近は標高100m前後を測る。墳丘の直径は、石室の墳丘における位置と発掘調査で検出された裾部との関係などを勘案して15～16m前後と想定する。

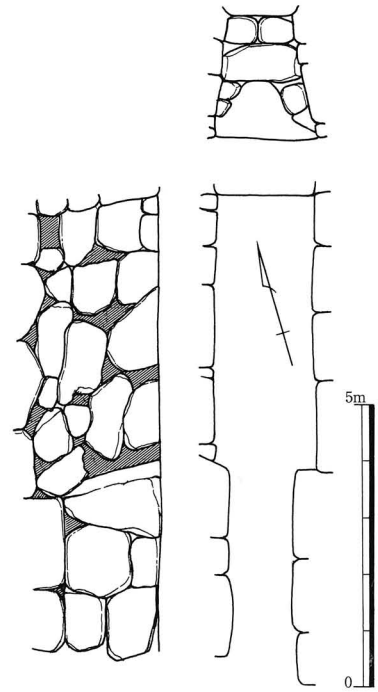
横穴式石室　高安古墳群87号墳は、全長8.1m前後、玄室高約3.2mを測る南に開口する両袖式横穴式石室を主体部とする。主軸は南北にもちながらも、やや東に振る。玄室の側壁は比較的大形の転石によりおおむね三段に積むみ、奥壁も大形の石材の隙間に小形の石材をはめ込みながらも基本的に三段に積んでいる。袖部は石材を立てて据え一石により構成する。羨道は二段に石材によっている。この石室は高安古墳群において一般的な規模と構造をもつものである。

おわりに　当該古墳は、著名な高安古墳群の中でも比較的分布濃度の薄い地域に所在しており、この発見も土地所有者による開墾作業によって発見されたと聞き及んでいる。今回の調査は墳丘に一部に及んだに過ぎないが、この古墳の存在とその意義を周知する意味はもったものと考える。

なお、横穴式石室の略測図は八尾市教育委員会文化財課に提供を受けた。



第38図　調査区位置図及び平面図



第39図　横穴式石室略測図

寺田遺跡（０２０２９）

（１）和泉市寺田町
（２）府営和泉寺田住宅建て替え
（３）大樂　康宏

１．はじめに

寺田遺跡は、今回実施した府営和泉寺田住宅建て替え計画に先立つ埋蔵文化財試掘調査で初めて発見された遺跡である。

遺跡は松尾川が開析した段丘の緩斜面上方に立地する。観音寺山遺跡や寺門古墳群が所在する和泉丘陵の端部・観音寺山丘陵が遺跡のすぐ北東側に迫る。一帯は条里型地割りをよく残している。

２．調査の概要

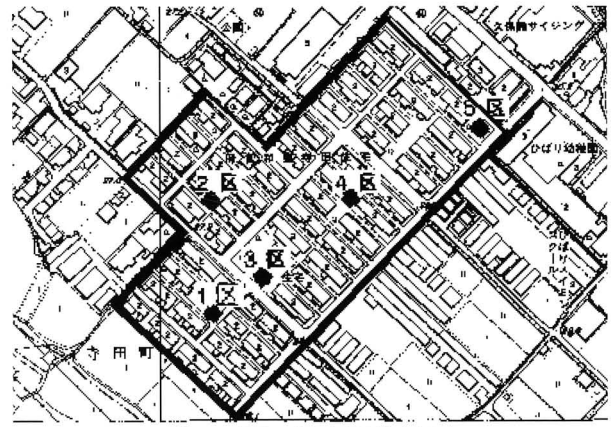
府営住宅地内の公園等に５ヶ所（１区～５区）の試掘調査区（２×２ｍ）を設定し、遺構・遺物の有無の確認に努めた。

調査地は現府営住宅建設以前は水田で、全体を盛土して住宅地を造成している。比較的厚い盛土のため旧水田時の地形がよく残されていた。

５ヶ所の調査区のうち３区を除くすべての調査区で遺物包含層を確認した。この包含層は須恵器・土師器・瓦器・瓦等が比較的多く含まれている。中世の整地土と考えられ、遺跡全体に拡がるものと思われる。

４区では東西方向の溝を確認した。規模等は確認できなかったが中世の遺構と思われる。

５区では流路の最終埋没層と思われる砂礫混じりの土層から６世紀前半に時期が限定される須恵器が多量に出土した。

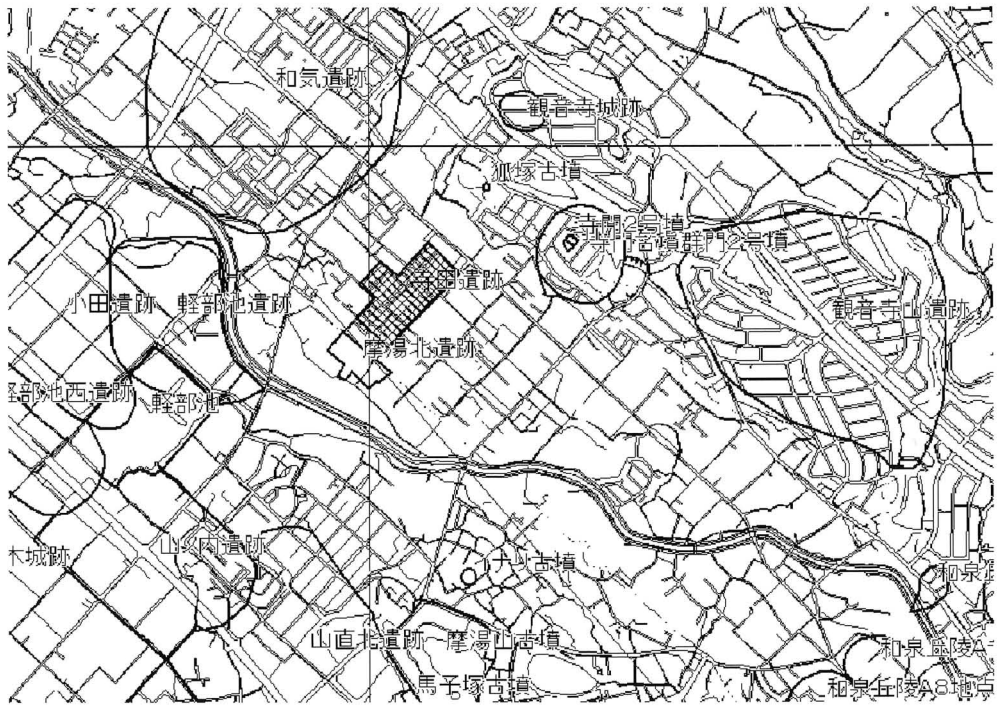


第40図　調査区位置図

３．まとめ

以上の成果から、和泉市教育委員会とも協議の結果、府営住宅地全域を古墳時代から中世の新規発見の埋蔵文化財包蔵地「寺田遺跡」とした。

調査区が限られまた狭小なため、今回の試掘調査では本遺跡の詳しい性格・内容の把握にまで至らなかった。府営住宅の建て替え時には発掘調査を実施することで協議がなっており、やがて遺跡の様相が明らかになるものと思われる。



第41図　寺田遺跡とその周辺

平尾（ひらお）遺跡（０２０３１・０２０５３）

（１）南河内郡美原町平尾
（２）府道堺富田林線舟渡バイパス
（３）大樂　康宏

１．はじめに

調査地は美原町のほぼ中央に位置し東除川右岸の中位段丘面上に立地する。現地目は水田で、標高50m前後を測る。北接する美原高校の建設に伴う調査では大型掘立柱建物群が検出されている。

２．調査の概要

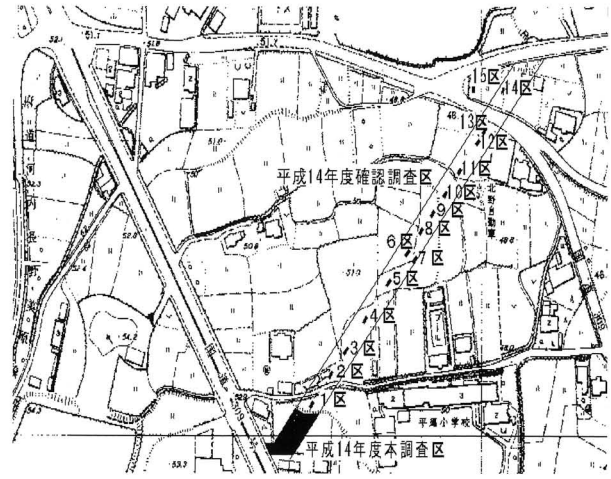
事業用地のうち、前年度に実施した一部買収地の確認調査の結果を受けて、本調査を平成14年10月～12月に実施した。また、その後取得が進んだ事業用地では確認調査を順次実施した。

【本調査の成果】

調査区全体を覆う中世以降の整地土を除去すると地山面である。調査区北端で幅１ｍ・深さ0.5mの奈良時代のほぼ直線の東西溝を検出、他にも中世の溝・土坑・ピット・落ち込みを検出した。

【確認調査の成果】

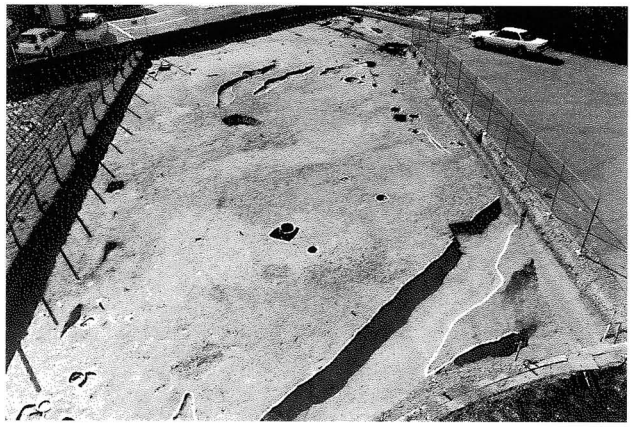
事業用地内15ヶ所に調査区を設定した。１～４区では奈良時代と思われる柱穴・溝などを検出した。５～８区は削平により近世以降の遺構のみ検出した。９～15区でも柱穴・溝・流路等を検出した。奈良時代を中心とした遺構面と思われる。

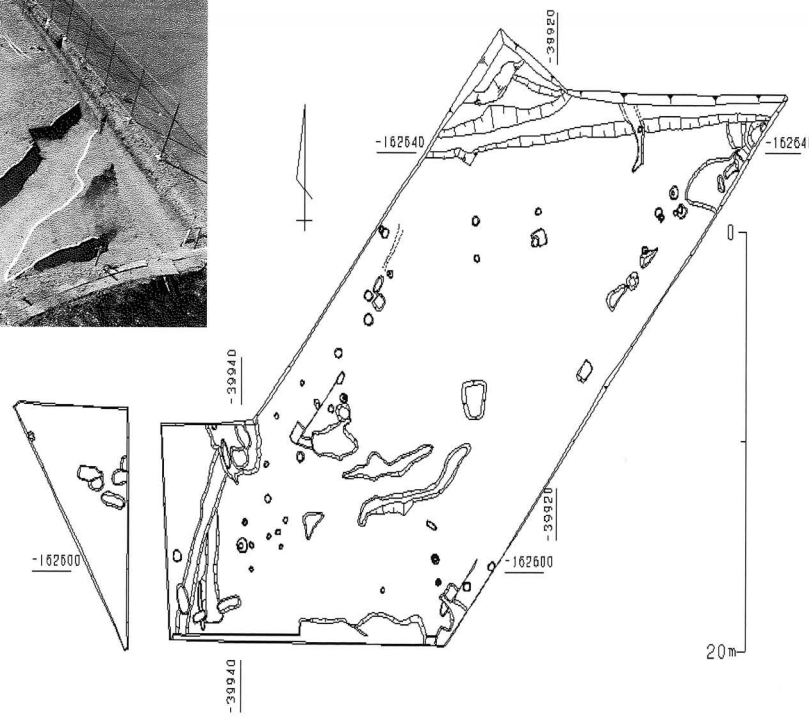


第42図　調査区位置図

３．まとめ

調査の結果、道路用地内は一部に後世の削平を受けているものの遺構面はほぼ全域に拡がっている。事業地一帯は奈良時代から中世の集落跡にあたると思われる。美原高校内の７世紀の遺構群との関連も注目される。





第43図　本調査区全景及び平面図

深井清水町C遺跡（０２０３２）

（１）堺市深井沢町
（２）都市計画道路下石津泉ヶ丘線立体交差事業
（３）藤澤　眞依

堺市深井沢町に所在する遺跡で、今回の試掘調査により新たに遺跡として確認されたものである。調査は、泉北高速鉄道深井駅前の通称泉北１号線の中央分離帯部分に6箇所の調査区を設定して行った。

第１調査区　道路建設時の盛り土が3.0mあり、黄白色粘土の地山となる。建設時に上部を削平したようで、遺構・遺物・遺物包含層はまったく確認できなかった。

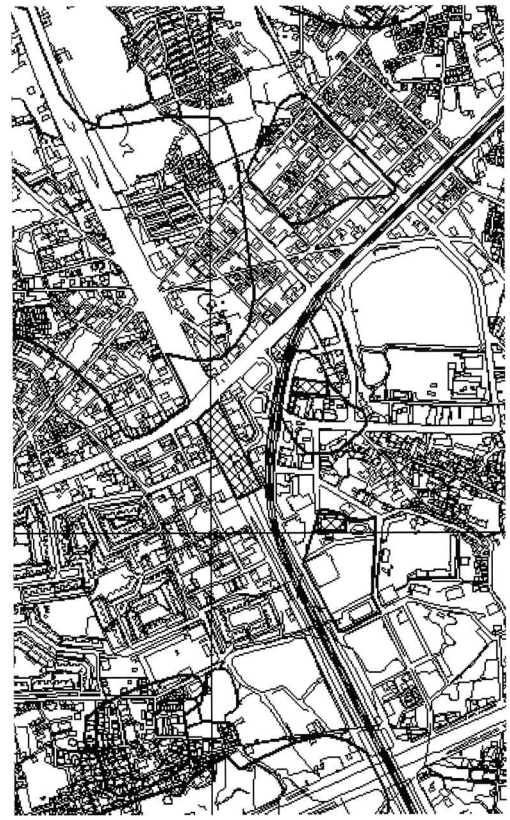
第２調査区　道路建設時の仮設道路跡らしく、0.4m掘削しところで非常に固くしまった路床が検出された。大型機械でも掘削が不可能だったので、調査を断念したため、まったく確認できなかった。

第３調査区　道路建設時の盛り土が1.3mあり、黄白色粘土の地山となる。建設時に上部を削平したようで、遺構・遺物・遺物包含層はまったく確認できなかった。北半分は池か谷であったらしく、極端に深くなり、底は確認できなかった。

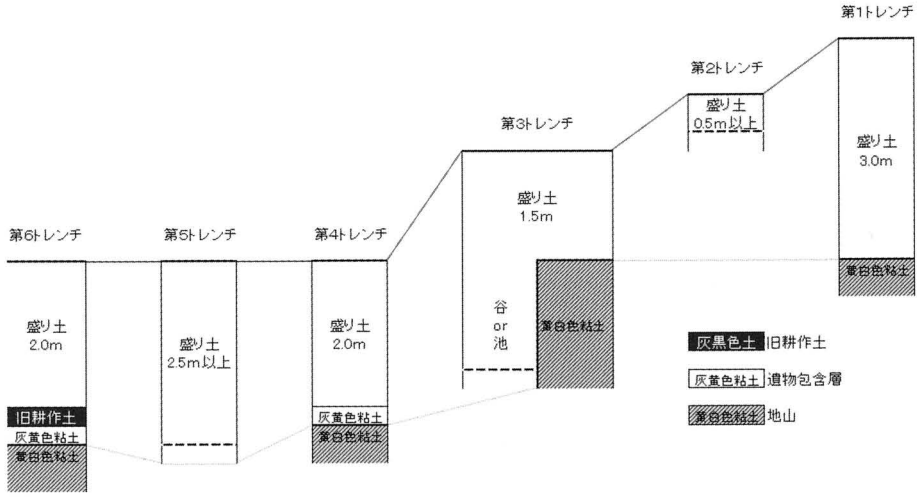
第４調査区　道路建設時の盛り土が2.0m、灰黄色粘土が0.3m堆積しており、黄白色粘土の地山となる。灰黄色粘土からは土師器破片が出土した。遺構は確認できなかった。

第５調査区　道路建設時の盛り土が2.5m以上堆積しており、掘削不可能であったため、遺構・遺物はともに確認できなかった。

第６調査区　道路建設時の盛り土が2.0m、旧耕作土が0.25m、灰黄色粘土が0.25m堆積しており、黄白色粘土の地山となる。灰黄色粘土からは須恵器・土師器破片が出土した。遺構は確認できなかった。



第44図　遺跡位置図



第45図　土層柱状図

福井遺跡（０２０３４）

（１）茨木市室山
（２）第２警察病院建替え工事
（３）阪田　育功

佐保川が北摂山地から平地に流れ下ったあたり、西岸の山地の先端とそれに続く丘陵上には紫金山古墳・青松塚古墳・南塚古墳・海北塚古墳が分布する。

調査地は南塚古墳が築かれた山地の先端が南に向かって急斜面をなして平地に続く地形変換点に位置する。すぐ南に接した平地に立地する福井遺跡では、弥生時代後期の遺構・古墳時代中期の住居址、平安時代後期の掘立柱建物などが検出されている。

試掘調査は、病院敷地の南端の東西道路に面した駐車場敷地に３箇所・看護士寮南庭に１箇所、北に離れた本棟中庭に１箇所、試掘坑を設けて実施した。

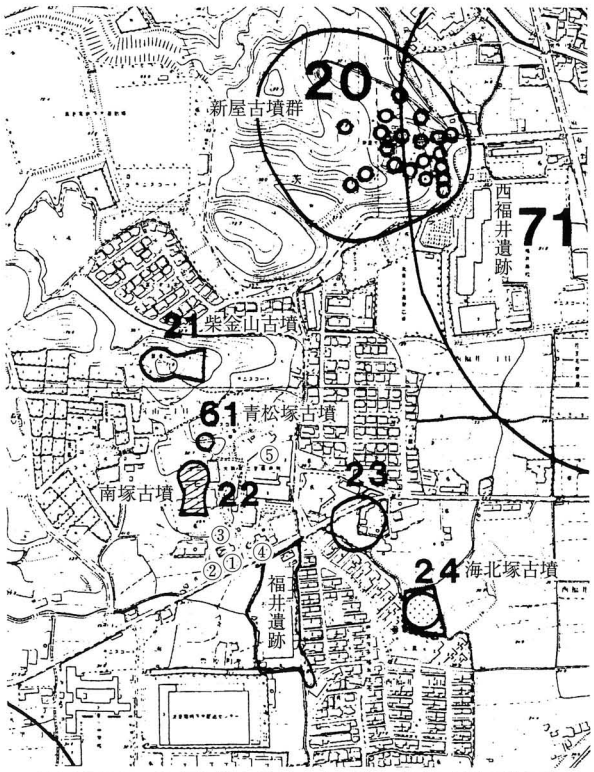
中庭部分では、病院建設時の地形改変により削平を受け、遺構・遺物は遺存していなかった。

道路に面した４箇所では、いずれも２～３ｍの厚さで盛土されていた。盛土下からは病院建設前の耕作土が検出された。

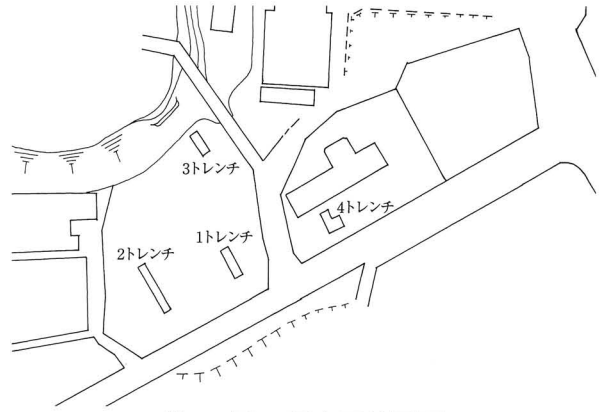
最も高い位置の３トレンチでは、耕作土の上面で、T.P.35m程度。厚さ10cm程度の灰色粘土を除去した地山上面で、深さ20cm程度の溝を検出した。溝は丘陵縁辺に沿うような方向に掘られており、用水路の機能を持ったものと推定される。溝内から、円筒埴輪片１点が出土した。

道路に面した西よりの１・２トレンチでは、水田面が段状に下がる状況が検出された。地山面も同様に段をなしていることから、水田造成時に地山も整形されていることがわかる。

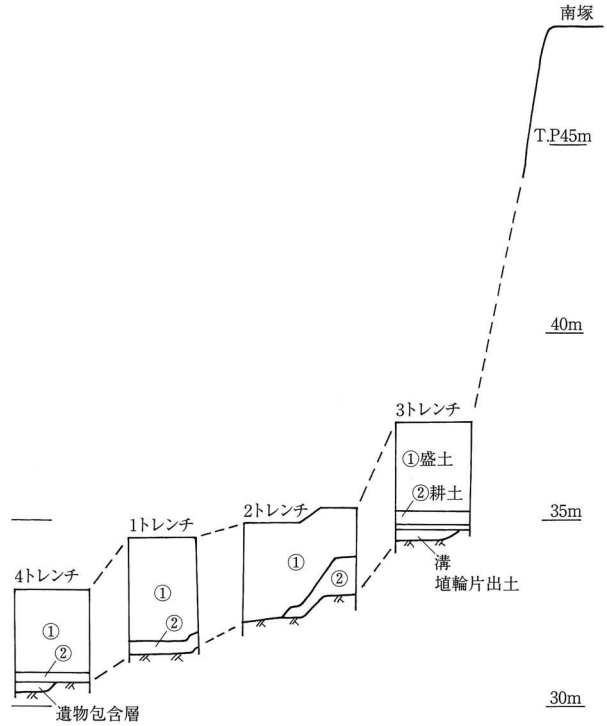
道路に面した東側よりの４トレンチでは、耕土下に、中世の遺物包含層が堆積しており、南に接する福井遺跡の堆積状況と共通している。瓦器椀底部片が出土した。



第46図　周辺遺跡分布図（①～④は試掘位置）



第47図　調査区位置図



第48図　土層柱状図

寛弘寺古墳群（０２０４２）

（１）南河内郡河南町寛弘寺
（２）ツギノキ山支群保存整備事業
（３）阿部　幸一

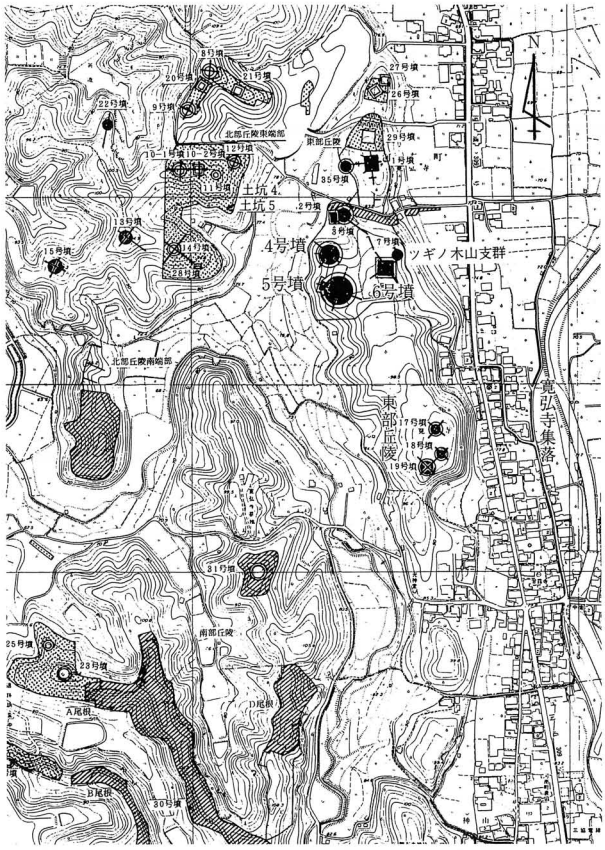
寛弘寺遺跡（古墳群）はほ場整備のため調査後ほとんど消滅した。しかし、古くから知られていたツギノキ山支群の４～６号墳は地元の協力をえて保存され、農村公園として整備・活用されることになった（３基から約200m北に位置する寛弘寺１号墳も保存されている。）。その整備事業のひとつとして、農と緑の整備室が西側農道から公園墳丘部に通じる道路工事を発注したが、請負業者が不注意で保存地区を掘削したため、工事を中止させ、断面観察を実施した。

掘削坑は西側農道から東に斜面を上がり、墳丘部へ向かって南に曲がる地点の東北側にあった。掘削坑の北側は東西に通る切り通しの農道となっており、現場は農道から約2.5m高い。掘削坑の大きさは約2.5m×２m、深さは地表から約１mである。掘削坑の北側と西側（斜面の裾側）は地山が露出していたので、東側と南側の断面図を作成した。

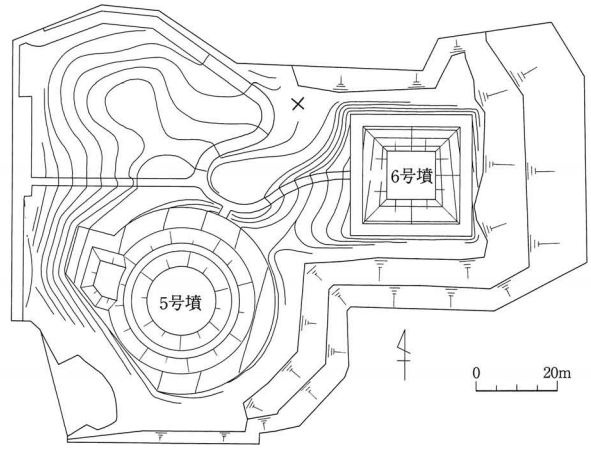
南側断面は地表面に約20cmの腐葉土が被る。その下は地山の粘質の赤褐色土と淡黒褐色土がわずかに混ざった層で東端で厚さ約50cm、西端で20cmを測り、人頭大の礫が含まれる。この下は、地山の赤褐色土と灰黄褐色土の混ざった土が水平に堆積する。厚さは約20cmを測る。土師器と須恵器の小片を検出した。時期は特定できない。この下は灰黄褐色粘質土で10～20cmを測る。地山は赤褐色粘質土で風化花崗岩の砕石を含んでいる。
地山の上の灰黄褐色土は、過去の調査から弥生後期の包含層と考えられる。

掘削坑は地図で確認したところ、６号墳から北西に延びる尾根から谷の斜面付近にあたっており、上層の地山の赤褐色土と淡黒褐色土の混ざった土層はその上の土は尾根上部からの流出土と考えられる。

なお、現場は断面観察後に掘削土及び購入土で埋め戻された。



第49図　ツギノキ山支群　S=1／10,000



第50図　調査位置図

新井ノ池遺跡（０２０４６）

（１）貝塚市半田
（２）府営ため池等整備事業貝塚地区
（３）藤澤　眞依

貝塚市半田に所在する弥生時代以降の集落跡である。冬場水の少ない時期に池の中を歩くと多量の須恵器が採集できたので、整備事業に先立ち、池の東南部に４箇所の調査区を設定し、確認調査を行った。拡張策は池の堤帯側から池の中央に向かって細長く設定した。

第１調査区では４層を確認した。第１層は茶灰色砂礫で、層厚0.15m、調査区堤帯側0.8mから内側に斜めに堆積。第２層は灰色粘土で、層厚0.15mで、外側端から内側に斜めに堆積。第３層は暗灰色粗砂・灰色細砂互層で、層厚は0.3mで、外側から第２層にカットされたように堆積している。第４層は暗灰色砂礫で、拳大の礫を含む水平堆積。

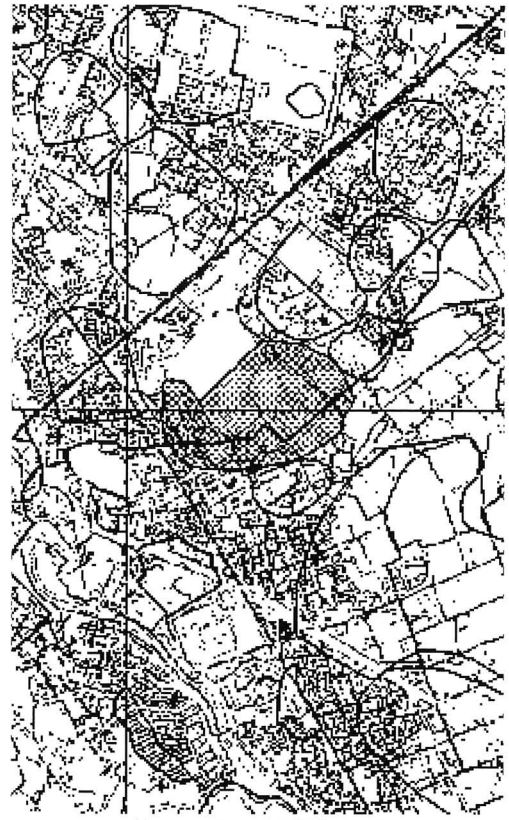
第２調査区では３層を確認した。第１層は茶灰色砂礫で、層厚は0.7mで、外側からの水平堆積。第２層は茶灰色砂で、層厚は0.5mで、内側がやや高くなっており、だ１層堆積時に外側が削られたようである。第３層は灰色砂礫で、拳大の礫を含む水平堆積。

第３調査区では３層を確認した。第１層は灰色細砂・茶灰色粗砂薄互層で、層厚は0.8mで、やや内側に傾斜した堆積。内側で0.6m外側で0.8m。第２層は暗灰色粘土で、層厚は0.2mで、内側が高く外側に下がっている。第３層は灰色砂礫で、拳大の礫を含む水平堆積。

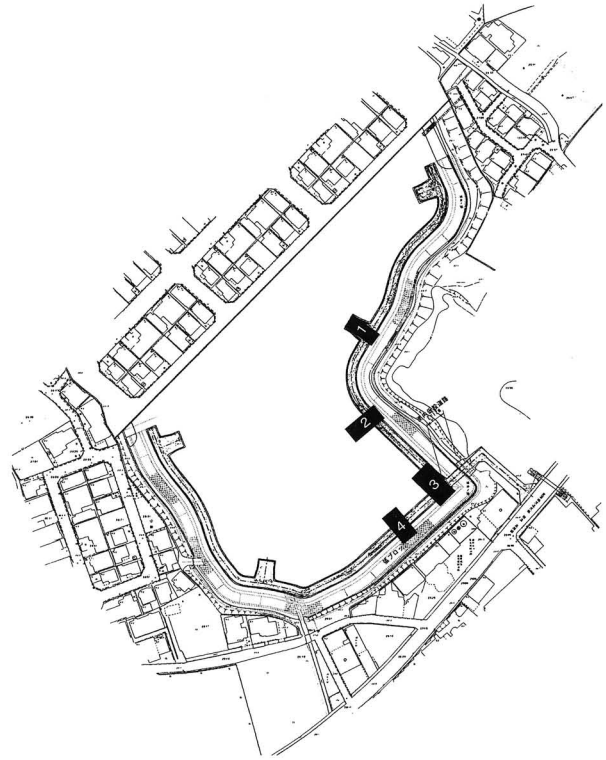
第４調査区では３層を確認した。第１層は暗灰色粗砂で、層厚は0.5mで、やや内側に傾斜した堆積。内側で0.3m外側で0.5m。第２層は暗灰色粘土で、層厚は0.1mで、内側が高く外側に下がっている。第３層は灰色砂礫で、拳大の礫を含む水平堆積。

現在の堤帯築造時に池の内側を削ってしまったようであり、遺物包含層・遺構は検出しなかった。

池の北半部も平成10年度に確認調査を行ったが、遺構・遺物を検出しなかったため、遺跡範囲から除外した。平成15年度に池の南西部を確認するが、池の中には遺跡は残っていない可能性が高く、池の南側に広がっていると考えられる。



第51図　遺跡位置図



第52図　調査区配置図

余部（あまべ）遺跡（０２０４７・０２０５９）

（１）美原町南余部・北余部
（２）府営美原南余部住宅道路整備・主要地方道大阪狭山線道路改良
（３）西口　陽一

《大阪狭山線》　事業対象区域に調査区（トレンチ）を８箇所設定し（216㎡）、機械・人力を使って、確認調査を実施した。

No.１～No.３・No.７・No.８トレンチでは、厚さ10～45cmの中世遺物包含層を検出した。No.２・No.３・No.７・No.８トレンチでは、中世の柱穴・溝・土坑・轍などの遺構を検出した。No.４～No.６トレンチでは、遺構・遺物は、検出されなかった。No.５・No.６トレンチは、中ノ池埋立地内であることが、確認された。

措置として、事業者に、Ａ区（No.１～No.３）およびＤ区（No.７・No.８）については、事前に本発掘調査を実施する必要がある、Ｂ区（No.４）については、その西側にある未買収地をさらに追加試掘する必要がある、Ｃ区（No.５・No.６）については、池内であることが確認されたために慎重に工事を実施し、遺構・遺物が発見された場合には、速やかに大阪府教育委員会文化財保護課まで連絡されたいと回答した。

出土遺物には、弥生時代中期のサヌカイト製石鏃、古墳時代中期～後期の円筒埴輪・須恵器、鎌倉時代の瓦器・土師器・東播ねり鉢・白磁・フイゴ羽口・焼土などがあった（300点）。

《府営住宅》　事業対象区域に調査区を６箇所設定し（875㎡）、機械・人力を使って、発掘調査を実施した。

基本層序は、府営住宅建設時の盛土の下に、近世～近代の染付茶碗片などを含む水田耕土層がある。その下に、厚さ20～35cmの遺物包含層があり、鎌倉時代の瓦器・土師器などの細片が含まれていた。中世遺物包含層は、数枚の水田耕土層から成っており、各々、鋤溝などが検出された。

地山面上で検出された遺構には、古墳時代中期の井戸、鎌倉時代の轍・牛の足跡、時期不明の土坑・溝・ピット・柱穴などがあった。轍・牛の足跡は、調査区各所で検出され、南北方向のものが多かった。轍の幅は、1.4mと1.5mのものがあり、重量物を頻繁に運んだらしく、深さ30cmに達するものもあった。

出土遺物には、古墳時代中期～後期の円筒埴輪・須恵器、奈良時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の瓦器・土師器・青磁・白磁などがあった（コンテナ２箱）。

今回の調査で検出された轍と牛の足跡は、近辺に良好に残存している条里遺構と関係するものと推定された。牛車で土を運んだ痕跡と考えている。

第53図　No.７トレンチ調査状況

第54図　５区轍検出状況

田能北遺跡（０２０４８）

（１）高槻市大字田能
（２）府営農地還元資源利活用事業樫田地区
（３）奥　和之

はじめに　田能北遺跡が存在する高槻市大字田能地区は、大阪府の北東部、北摂山地の穏やかな山々に囲まれた小規模な山間盆地に立地する。

当該事業に伴う盆地内の発掘調査は、平成11年度から開始し３年間継続して行い、数々の調査成果を得ている。

調査の概要　田能北遺跡は、基本的に盆地北側の田能川左岸の丘陵縁辺部に広がる。今年度は、７調査区について実施した。これらの中で主に遺構を検出したのは、Ｌ、Ｎ、Ｏ区で、遺構は屋敷地１区画、建物５棟、土壙墓１基、土坑２基、炉跡３基、屋敷地を囲む溝、柱穴などである。

屋敷地を検出したＬ区は、東の山塊から西の田能川に向って下る丘陵縁辺部端付近に存在する。屋敷地は、屋敷地を囲む溝と建物３棟、屋敷墓と推定される土壙墓１基からなる。

屋敷地は、東側を丘陵山側に３本の溝と、北と西側を狭い流路によって区画されている。規模は、平成13年度に調査を実施したＣ地区と合わせて、東西約９ｍ、南北約39ｍの範囲に広がる。

屋敷地内で検出した建物は３棟で、建物１は、梁間２間（約4.6ｍ）×桁行２間以上（4.3ｍ以上）の総柱建物、建物２は、梁間１間（約2.4ｍ）×桁行２間（約4.6ｍ）、建物３は、梁間２間（約3.7ｍ）×桁行２間（約5.4ｍ）の総柱建物で、西側に庇が付く。

屋敷墓と推定される土壙墓は、屋敷地中央よりより東南へ約５ｍ離れた地点で検出した。掘方は、隅丸長方形に近い形を呈し、最大長1.25ｍ、最大幅1.0ｍ、深さ約0.45ｍを測る。棺は木棺と推定され、土壙低部に一部木質が確認された。釘が出土していないため組合式木棺と推定される。

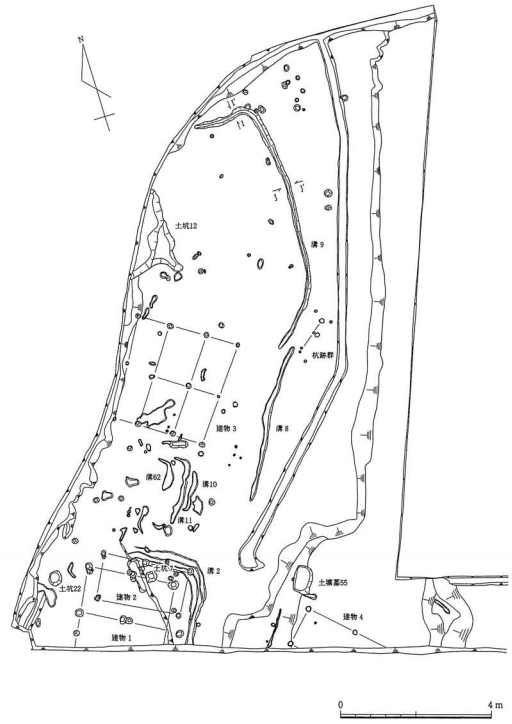
遺物は、北辺中央周辺の土壙底部に集中して検出された。出土した遺物は、烏帽子１個、刀子１本、土師器皿４個、瓦器１個である。

これらから土壙墓の被葬者は、烏帽子を持っていることから男性で、配置状況から北枕で、頭が西を向くように葬られていたものと推定される。

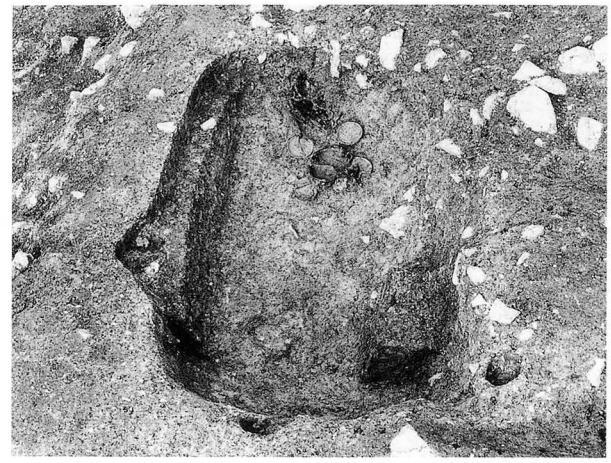
屋敷地に伴う遺構の時期は、出土遺物から中世（13世紀前半）と推定される。

まとめ　今年度までの田能盆地内の発掘調査により奈良時代末から中世に至るまで、連綿と人々が居住していたことが明らかとなった。しかしこれらの遺構は、丘陵縁辺部を中心として拡がっているが、密度としては薄く、存在しない地区もある。これらのことから、時代を通じてこの小盆地内に居住している人々が少なく、散村という風景を醸し出していたものと推定される。

以上のように、調査成果と文献史料とのすり合わせが以前より可能となり、古代から中世に至る集落構造が今後明らかになるものと考えている。今後の調査成果に期待したい。



第55図　Ｌ区平面図



第56図　土壙墓遺物出土状況

宇保遺跡（０２０５０）

（１）池田市宇保
（２）都市計画道路神田池田線
（３）阪田　育功

猪名川東岸、北摂山地にとりつく低位段丘の先端の緩扇状地（宇保段丘）上、標高24m程度に位置する。

第１面　現代耕作土・床土を除去した面で検出。砂礫で埋まった坪境水路と、溝状・方形土坑状の粘土取り跡が検出された。近世末から近代。

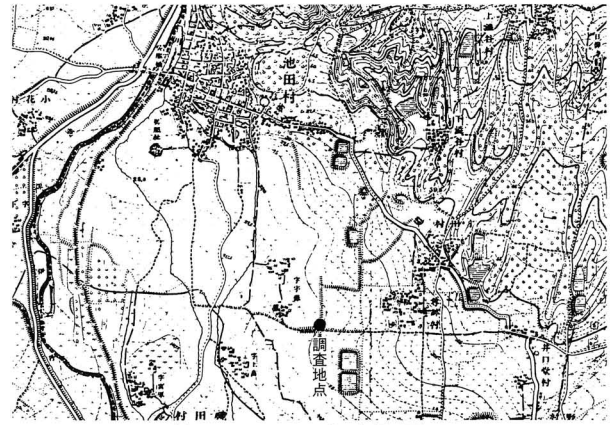
第２面　第１面と同位置に坪境水路が検出される。同溝の埋土下層が対応する。近世

第３面　灰色粘土上面で検出。耕作に伴う遺構面。井戸を検出。近世か。

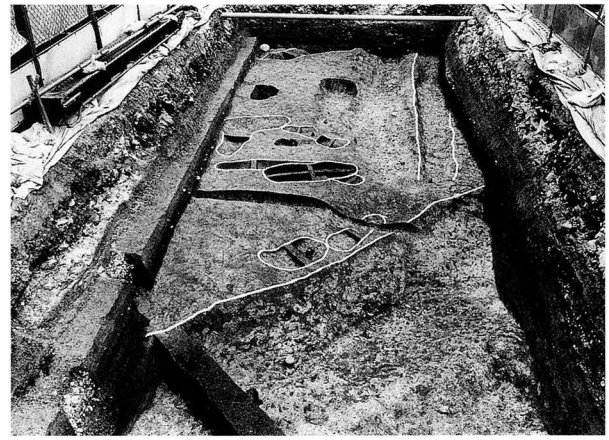
第４面　暗褐色粘土上面、暗褐色粘土の堆積のない部分では地山黄色粘土上面で検出。坪境溝は上層と比較して蛇行している。中世の掘削と考えられる。

第５面　地山黄色粘土上面で検出。黒褐色粘土で埋まった溝・谷と、灰褐色粘土で埋まった土坑などを検出。谷埋土下層から縄文時代晩期土器が出土。灰色粘土で埋まった土坑15からナイフ形石器出土。

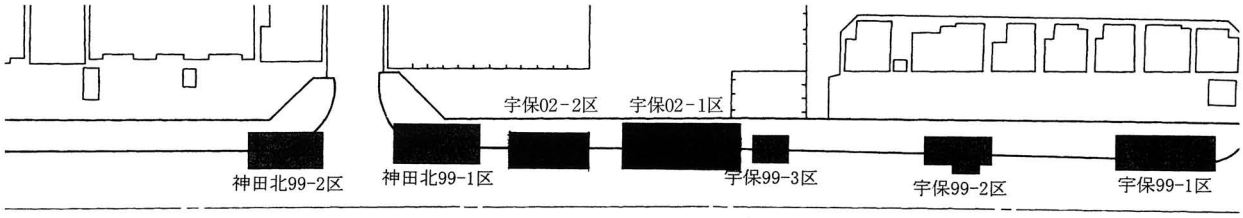
１面から４面の水路は明治17年仮製２の１地形図に示された堤を伴う水路に該当する基幹水路と思われる。地山上面検出の遺構からの旧石器の出土は、当時の生活域であったことを示している。



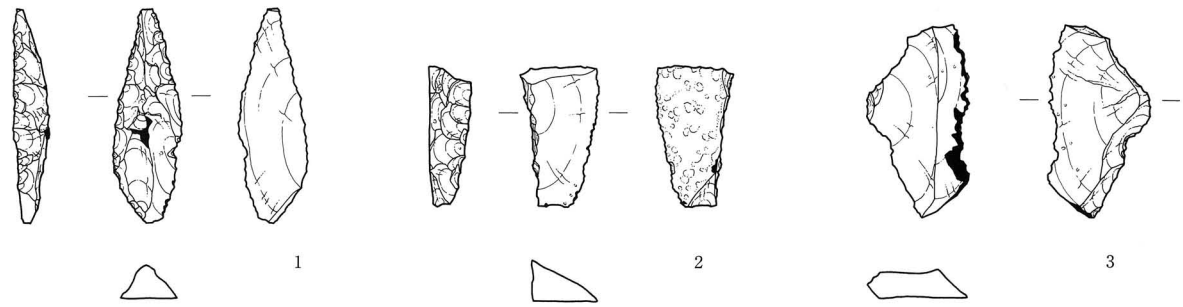
第57図　調査地位置図



第58図　02－1区地山上面遺構面



第59図　調査区位置図



第60図　宇保遺跡出土旧石器　１、２土坑出土　３遺物包含層出土

太井遺跡・大保遺跡（０２０５４）

（１）南河内郡美原町黒山　地内
（２）一般府道西藤井寺線他道路改良事業
（３）杉本　清美

はじめに

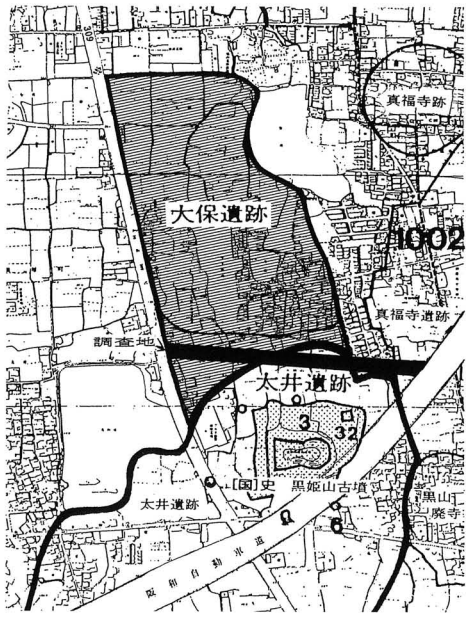
一般府道西藤井寺線外道路改良事業に先立つ埋蔵文化財の試掘調査を行った。道路予定地の東側は、奈良～中世の掘立柱建物や鋳造遺構を検出した大井遺跡内に含まれるが、西側は周知の遺跡範囲外にあたるため、埋蔵文化財の確認調査を実施した。

調査は、道路予定地内に、12ヶ所のトレンチを設定し、耕土・盛土等は重機で除去した後、人力によって遺構・遺物の確認につとめた。

調査の概要

調査では、周知の遺跡範囲外にあたる①～⑤・⑦トレンチで遺物および遺構を確認した。①・⑤トレンチでは、耕土層（25cm）下で径20cmの円径ピットおよび１辺約30cmの方形ピット等を検出した。埋土は、暗褐色・黒褐色粘質シルトで、土師質羽釜、黒色土器Ａ類椀、土師器甕、須恵質甕の細片のほか、焼土塊、焼けた石など鋳造関連遺物とみられる遺物が若干出土した。また、②・③・⑦トレンチでは時期が不明であるが土師器、須恵器細片等の遺物を、②・③・④・⑦トレンチではピット状の遺構を確認した。⑥トレンチは谷部にあたり、遺構および遺物は確認されなかった。

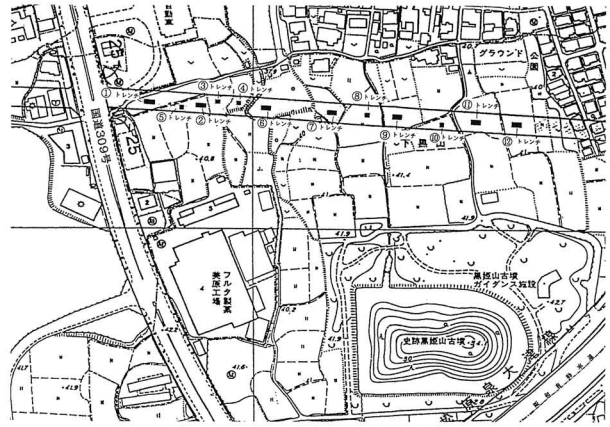
太井遺跡内に含まれる⑧～⑫トレンチでは、遺物および遺構を確認した。概ね、耕土層（約25cm）下で焼土坑・ピット・溝状遺構等を検出した。埋土は、黒褐色ないしにぶい黄橙色粘質シルトで、土師質羽釜、甕、瓦器椀、皿、瓦質羽釜、須恵器甕片、瓦片のほか、炉壁、焼土塊、鉄滓、焼けた石、炭化物など鋳造関連遺物とみられる遺物が多く出土した。



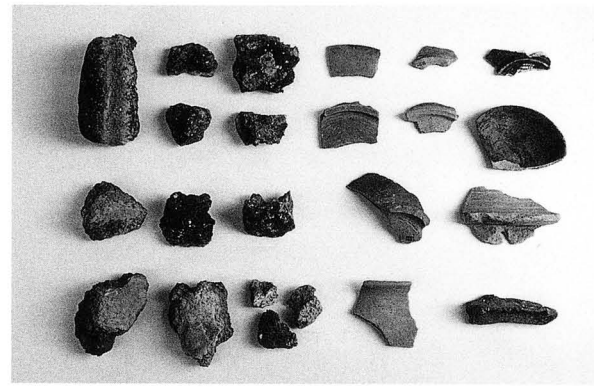
第61図　大保遺跡・太井遺跡位置図

まとめ

調査の結果、調査区内で遺構・遺物が確認されたため、道路改良事業前に発掘調査が必要であると判断した。また、周知の遺跡範囲外にあたる道路予定地の西側トレンチで遺物および遺構を確認したため、美原町教育委員会と協議した結果、北側に位置する大保遺跡の範囲を拡大することとした。



第62図　調査地位置図


第63図　出土遺物

安威（あい）遺跡（０２０５７）

（１）茨木市十日市町
（２）主要地方道茨木亀岡線
（３）奥　和之

はじめに　安威遺跡は、茨木市安威１丁目、南安威１丁目、十日市町に所在し、北摂丘陵を源とする安威川の中流域右岸側の段丘上に存在する。本遺跡は、弥生時代後期から古墳時代中期・後期に至る遺跡として知られている。特に平成９年度から10年度にわたって本府教育委員会によって実施した当該事業に伴う発掘調査により、古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡35棟、掘建柱建物11棟とそれに伴う遺構などを検出している。今回の調査区は、前回の調査地区の東南側に位置する。

発掘調査は、前回の調査区より東へ約3.5mの地点に当該事業に伴い現道下に沿って、幅約1.5m、深さ約1.5mの地点に道路排水管を敷設するにあたり事前に実施したものである。

調査は、埋管敷設に伴い遺構が破壊される地区の延長約32mにわたって行った。当初調査地点周辺は、既設の埋設管により遺構面が破壊されている箇所が多いと予測されたが、遺構面まで達しているものが少なかった。

今回の調査で検出した遺構は、住居跡ないしは住居跡の可能性が高い落込み３棟などである。

調査の成果　調査区内の層序は、上層から道路に伴う盛土層（約0.9m）、耕土層（約0.05m）、床土である赤褐色砂質土層（約0.1m）、暗褐色砂質土層（約0.15m）と遺物包含層である黄灰色砂質土層（0.1m）の順となる。

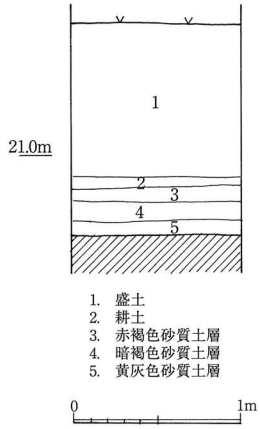
検出した遺構は、住居跡ないしは住居跡の可能性が高い落ち込み４棟であるが、ここでは、比較的遺存状態が良い住居４について記述する。

住居４は、調査区の南端付近で検出した。住居は、西側の約５分の１が調査区内、残りの５分の４は東側の調査区外にある。住居は１辺約5.1m、平面形で隅丸方形を呈するものと推定される。検出面からの深さ約0.25mを測る。住居は消失家屋と推定され、埋土中に多量の炭片が混入している。遺物は、南辺部の西端から東に向かって、土師器小型丸底壷１個体、土師器高杯２個体が、現位置をとどめて出土した。時期は、出土遺物から５世紀中頃前後と推定される。

まとめ　今回の調査は狭い範囲にも拘わらず多大な成果を挙げることが出来た。前回の調査とあわせて古墳時代中期から後期にかけての住居跡は、38棟に達し、これらの数は、北摂地域では同時期の遺跡としては群を抜いている。また、調査地区が遺跡の東辺部であることから、東西に広がり、集落の規模は大きかったものと推察される。

これらのことから、北摂地域における古墳時代中期から後期初頭にかけての一大集落跡であった可能性が高い。

安威遺跡の古墳時代の集落跡は、同時期と推定される太田茶臼山古墳、総持寺古墳群などの周辺の古墳との成立過程およびあり方を考えるうえで、重要な資料となるものと考えられる。今後の調査成果、研究成果に期待したい。



第64図　調査区基本断面図

第65図　住居３遺物出土状況

男里（おのさと）遺跡（０２０６１）

（１）泉南市男里
（２）府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）
（３）泉南市教育委員会　河田　泰之・大阪府教育委員会　藤澤　眞依

本調査は、双子上池における堤体改修工事に伴うものであり、平成７年度より過去６度行われており、今回の調査は、双子上池東側堤体において発掘調査が必要と判断された範囲のうち、南端から北へ80ｍの区間、400㎡を対象としたものである。

基本層序は、次の通りに大別できる。堤体盛土及び池底のヘドロ、旧耕作土、流路、地山（河床）である。以下、上記の区分をもとに層序の概要を記す。

Ⅰ層　堤体盛土及び池底のヘドロである。

Ⅱ層　黄灰色系のシルトで、堤体構築前の旧耕作土である。焼成不良の瓦器の可能性も考えられる皿、黒色土器Ａ類碗、土師質土器の細片が少量出土した。耕作痕を検出した。

Ⅲ層　褐灰～黒褐色の細砂やシルトで礫が混じり、流路埋土である。

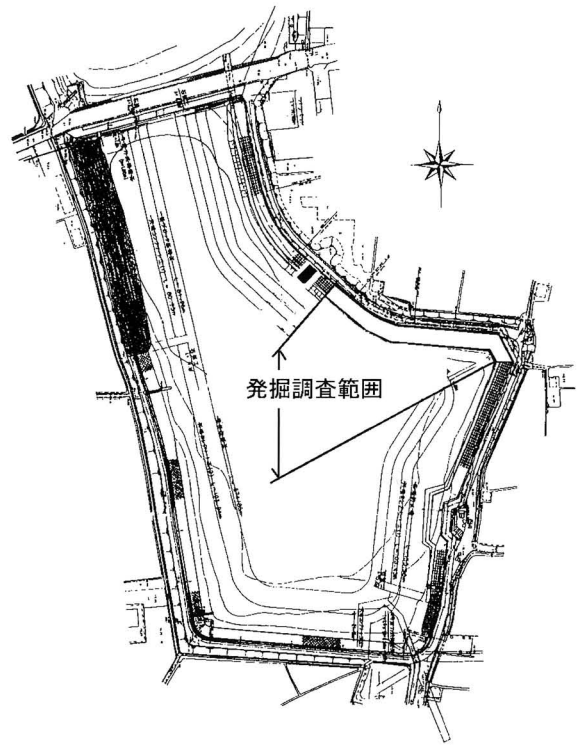
Ⅳ層（第５図38層）　明青灰色粘土混じり礫層の地山である

遺構は、弥生時代中期、弥生時代後期、奈良時代初頭の流路と、奈良時代初頭の遺物を含む不明土坑、14世紀代以降の耕作痕、２本の木を並列設置した溝状遺構等を検出した。

流路は基本的に南東から北西に流下するが、わずかに方向を変えた２条がある。流路２からは弥生時代中期の土器が含まれており、この頃に埋没したようである。流路1は上下２層に大別でき、下層からは弥生時代後期、上層からは飛鳥・奈良時代の遺物が出土している。弥生時代後期から奈良時代初頭まで機能していたが、その後完全に埋没する。

溝状遺構（SD01）は幅約1.2ｍ、深さ0.5ｍで、底部に礫を敷きつめ、その上面に径約20㎝の２本の木を並列設置している。河川改修における護岸工事の工法を紹介した『河川改修の実際』に「（ｄ）ノリ止（基礎）　急流部、準急流部では河床は砂礫で構成されており、くいの打ち込み困難かまたは不可能に近いので、基礎はコンクリートまたははしご土台とする。基礎下端は根固の底面以下として、基礎の受ける外力の合力が根固に作用しない用にする（第6.7（1）（2）参照）。」とあり、また、　「はしご土台」とは、生木を組んではしご状にし・・・ノリ面に直交するかたちで設置したもの・・」とあることから、双子上池堤体盛土に伴う「はしご土台」状の構造をもつ「ノリ止（基礎）」である可能性が高い。

第66図　男里遺跡位置図



第67図　発掘調査範囲

＜普及啓発・広報事業＞

●研究会・検討会等

A　研究会

・平成15年９月21日
第45回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ「自然科学的方法を用いた近年の発掘調査成果－大阪府内の事例から－」

・平成15年３月１日
第46回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ「古墳時代前期における墳墓の発掘調査－最近の事例から－」

B　調査等スライド検討会

・平成14年６月12日
今村道雄・枡本　哲「河南町シシヨツカ古墳の調査成果の報告」
山本　彰（近つ飛鳥博物館学芸課長）「河南町シシヨツカ古墳の調査で考えたこと
－横口式石槨の出現と被葬者－」

・平成14年７月10日
小浜　成「余部遺跡の整理事業の成果について」

・平成14年９月11日
阪田育功「淀川について」

・平成14年10月９日
大野　薫「近畿地方の縄文時代集落」

・平成14年11月13日
西口陽一「西口が考えた大阪・石器石材クイズ」

・平成14年12月11日
堀江門也「国郡(評)里(郷)駅家　山城は？」

・平成15年１月８日
宮崎泰史「茨木市福井遺跡」

・平成15年２月12日
松岡良憲「大阪平野北部の古地形（第二京阪の確認調査から）」

・平成15年３月12日
山田隆一「仕事中にわかったこと、考えたこと」

●発掘調査の現地説明会

・平成14年５月25日
崇禅寺遺跡（大阪市）　参加者　約300人
（同24日には、啓発小学校と中島中学校の生徒を対象に現地説明会と発掘体験を実施）

・平成14年９月７日
蔀屋北遺跡（四条畷市）　参加者　約300人

・平成15年２月22日
招提中町遺跡（枚方市）　参加者　約100人

●職場体験学習

・平成14年６月６日・７日
四條畷市立田原中学校　２年生　４人
蔀屋北遺跡において、発掘調査および出土遺物の整理作業をおこなう。

●速報展の開催

本府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く公開するため、大阪府立泉北考古資料館において、９回の速報展を開催した。

・第14回速報展「梶遺跡（守口市）－埋もれた古墳と中世の屋敷跡－」
期　間：平成14年３月26日～平成14年５月26日
展示品：須恵器(堤瓶、杯蓋、子持壺)、滑石製紡錘車、瓦質小皿、土師皿、白磁椀、瓦器椀、土師鍋、計20点

・第15回速報展「唐櫃山古墳（藤井寺市）－古市古墳群の中の小古墳－」
期　間：平成14年５月28日～８月４日
展示品：円筒埴輪、形象埴輪（朝顔形埴輪・蓋形埴輪など)、計23点

・第16回速報展「雁屋遺跡（四条畷市）－土器にしるされた記号を読む－」
期　間：平成14年８月６日～９月29日
展示品：弥生土器（甕形土器、壺形土器、コップ形土器、記号土器片、赤彩文壺形土器)、陶邑窯跡群出土記号文須恵器、計68点

・第17回速報展「蔀屋北遺跡（四條畷市）－溝で画された古墳時代の大集落－」
期　間：平成14年10月１日～11月24日
展示品：須恵器（甕・瓶・高杯・蓋)、土師器（甕・高杯・杯（椀))、陶質土器壺、韓式系軟質土器甕、滑石製品、滑石製未製品、砥石、鉄鎌、馬骨、計48点

・第18回速報展「寛弘寺１号墳（河南町）－未盗掘古墳出土の鉄器－」
期　間：平成14年11月26日～平成15年１月19日
展示品：鉄製品（剣、鏃、手鎌、直刃鎌、鍬（鋤）先、蕨手刀子、袋状斧、棒状品、ヤリガンナ、ノミ状品、計39点

・第19回速報展「亀井・城山遺跡(八尾市・大阪市)－方形周溝墓出土の弥生土器－」
期　間：平成15年１月21日～３月16日
展示品：弥生土器（壺形土器、高杯形土器、土器棺)、計７点

・第20回速報展「崇禅寺遺跡（大阪市)」
期　間：平成15年３月18日～５月18日（予定）
展示品：須恵器（甕・壺・杯身・高杯・蓋・瓶）、円筒埴輪、軒丸瓦、軒平瓦、

瓦器椀、土師質小皿、計25点

●優品展の開催

本府教育委員会が所蔵する重要な考古資料を大阪府立泉北考古資料館において展示した。

・第２回優品展「豊臣大坂城を掘る」

期　間：平成14年４月２日～９月29日

展示品：京枡（太閤枡）、鋸、錐、鉋、物差、鎌、柄杓、箸、包丁、しゃもじ、漆器椀、匙、羽子板、櫛、紅皿、はさみ、毛抜き、鈴、下駄、将棋の駒、そろばん玉、灯明皿の受台部分、傘の部品、刀の鍔、鉄鏃、小柄、錠前、計31点

・第３回優品展「池上曽根・四ツ池遺跡の木製品」

期　間：平成15年３月25日～９月28日（予定）

展示品：木柱、台付鉢、盾、舟形容器、楕円形容器、高杯、用途不明円盤、櫂、計13点

●里帰り展の開催

独立行政法人国立博物館提唱による「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」に基づいて、東京国立博物館から府内出土考古資料を借用し、大阪府立泉北考古資料館において「里帰り展」を開催した。

・第４回里帰り展「船橋遺跡（柏原市・藤井寺市）」

期　間：平成14年10月１日～15年３月16日

展示品：古式土師器（複合口縁壺１点、小型丸底壺２点、甕８点、小型器台１点）、計12点

本府より下記の資料を、東京国立博物館に貸し出した。

深田遺跡（堺市）出土古式須恵器（杯身、杯蓋、高杯、高杯蓋、瑳、樽形瑳、把手杯鉢、甕、甑）、計14点

●府庁別館における考古資料の展示

府庁別館１階および８階の展示ケースに、考古資料の展示をおこなった。

・平成13年10月16日～14年７月12日

（１階）「府立大手前高等学校出土の韓式系土器」陶質土器（高杯・椀・甑）軟質土器高杯、計６点

（８階）「特別史跡百済寺跡出土の古瓦」

軒丸瓦５点、軒平瓦　１点、磚２点、計８点

・平成14年７月12日から15年７月まで（予定）

（１階）「豊臣大坂城を掘る」

織部向付１点、小柄１点、羽子板１点、人形１点、笄２点、鋸（(ﾚﾌﾟﾘｶ)　２点、木櫛１点、将棋の駒２点、錐１点、庖丁１点、計15点

（８階）「招提中町遺跡（枚方市）－枚方台地最古の弥生集落－」

弥生土器７点（壺形土器４点、甕形土器１点、鉢形土器１点、皮袋形土器１点）、石鏃５点、石錐２点、石庖丁３点、石剣１点　、太型蛤刃石斧３点、扁平片刃石斧２点、叩き石１点、計24点

＜資料数一覧＞

●出土遺物（コンテナ数）（平成15年3月31日現在）

・泉北考古資料館内第１収蔵庫 堺市若松台	10,559箱
・泉北収蔵庫 高石市綾園４丁目	33,315箱
・大井収蔵庫 藤井寺市西大井	12,661箱
・外環高架下収蔵庫 藤井寺市西古室	7,592箱
・志紀収蔵庫 八尾市志紀町西	2,634箱
・北部収蔵庫 摂津市鳥飼中	2,863箱
・東大阪文化財収蔵庫 東大阪市長田東	65,821箱
・文化財調査事務所 堺市竹城台	7,155箱
合計	142,600箱

●民俗資料

・文化財調査事務所	
谷口家資料	221点
上辻家資料	132点
守田コレクション	約200点
上平家資料	150点
畑野家資料	68点
三宅家資料	
大恩寺資料	
前西家資料	22件

●その他の資料（平成15年３月末現在）

・文化財調査事務所	
図面資料	4,774ケース（注１）
写真資料	6,758ケース
台帳	2,511冊（注２）
パネル	651点（注３）
図書	28,384冊

（注１）平成14年３月末4697ケース

（注２）平成14年３月末2655冊（再整理等で、昨年度より減少）

（注３）平成14年３月末626冊

平成14年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行出版物

大阪府文化財調査報告

２００２－１『余部遺跡Ⅱ』―河内鋳物師関連集落の調査―

２００２－２『西大井遺跡』―縄文時代・後期旧石器時代石器群の調査―

２００２－３『中田遺跡他発掘調査報告』―寝屋川流域下水道事業に伴う―

２００２－４『崇禅寺遺跡』―府営崇禅寺鉄筋住宅建て替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告―

２００２－５『福井遺跡』―茨木市豊原町所在―

概要報告

『馬場ノ下遺跡発掘調査概要』―府営中山間地域総合整備事業「天王地区」の調査・Ⅱ―

『田能遺跡群発掘調査概要・Ⅳ』―府営農地還元資源利活用事業「樫田地区」の調査―

『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅱ』

―中山間地域総合整備事業（南河内こごせ地区）に伴う―

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報　6

資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

貸出・展示先	貸出品	出土遺跡
能勢町歴史資料館	弥生土器9点・土師器7点・須恵器5点	大里遺跡
	石包丁4点・石斧3点・石鏃6点・他2点	
	須恵器1点	上樁遺跡
	円面硯など4点	尾道遺跡
	黒色土器2点・土師器小皿3点	九ノ坪遺跡
	瓦器碗7点・土師器皿4点・須恵器破片等	余野城遺跡
藤井寺市立図書館展示室	小型修羅	三ツ塚古墳
太子町立竹ノ内街道歴史資料館	須恵器等一括資料	一須賀古墳群Q1支群
	銀製帯金具（複製）	伽山古墓
国立歴史民俗博物館	石包丁3点	池上・曽根遺跡
大阪府立ドーンセンター	陶磁器・金属器等	大坂城跡
吹田市立博物館	軒瓦・緑釉瓦・窯道具など	吉志部瓦窯
吉志部神社	複弁八葉蓮華文軒丸他瓦3点・とちん2点	吉志部瓦窯
大阪府立玉川高等学校	弥生土器5点	稲葉遺跡
大阪府立大手前高等学校	陶磁器・瓦・金属器等14点	大坂城跡
東京国立博物館	須恵器14点	深田遺跡
帝塚山学院大学	須恵器32点	陶邑窯跡群
豊能町立郷土資料館	砥石1点・瓦器椀7点・土器皿4点・須恵器3点	余野城遺跡
	瓦器20点	
和泉市いずみの国歴史館	弥生土器10点・蛸壺1点	府中遺跡
	軒丸瓦5点・軒平瓦5点	坂本寺遺跡
	尖頭器2点・勾玉3点・紡錘車1点	大園遺跡
	弥生土器15点・木製品24点・石錘2点	池上・曽根遺跡
	石包丁2点・石斧11点・石槍5点・投弾3点	
	翡翠製勾玉1点・管玉5点・ガラス片3点	
	イノシシ下顎骨1点・鹿角1点・骨製品7点	
	銅鏃2点・鏡1点・文字瓦1点	
大阪府立茨田高等学校	弥生土器2点・須恵器14点・中世須恵器1点	茨田安田遺跡
	土師器14点・瓦器34点・磁器2点・砥石1点	
	木製品5点・土錘1点・キセル1点・加工骨1点	
	展示パネル16点	
池上曽根弥生学習館	炭化米1ケース	池上・曽根遺跡
泉佐野市教育委員会	1,852コンテナ	上町・上町東・大西・中開・植田池・日根野・長滝遺跡他
高石市教育委員会	埴輪100コンテナ	大園古墳
サイエンス・サテライト	縄文土器	三軒屋遺跡
	弥生土器	池上曽根遺跡
大阪府立三国丘高等学校	軒丸瓦10点・軒平瓦8点・鬼瓦3点・雁振瓦1点	向泉寺跡
	瓦器7点・土師皿11点・摺鉢1点・土師質羽釜1点	
	陶磁器5点・硯1点	
美原町立みはら歴史博物館	瓦器碗27点・瓦器皿6点・瓦質羽釜1点	余部遺跡
	土師質皿1点・鋳型片29点・鞴羽口片18点	
	砥石7点・鉄製刀子1点・青銅製品2点	
	鉄塊系遺物7点	

短期貸出・掲載許可資料

依頼者	貸出・掲載	写真・遺物	種類・点数		内容
吹田市立博物館	貸出・掲載	遺物	土器22	河合遺跡	土師器（杯11・甕3・壺4・甑2・高杯2）
			木製品12	河合遺跡	人形5・下駄2・横槌1・鉄斧柄1・挽物1・櫛1
			土器17	樂禅寺遺跡	庄内式土器（壺2・甕14・鉢1）
			埴輪4	樂禅寺遺跡	埴輪4
（財）大阪府文化財調査研究センター	貸出・掲載	図面・写真	石器35	八尾南遺跡第6地点	旧石器接合資料35
個人	貸出・掲載	写真	カラー写真5	岸和田城跡	発掘調査状況2・出土遺物集合写真3
（株）新人物往来社	貸出・掲載	写真	カラー写真3	シシヨツカ古墳	石室・金銅製馬具・副葬品
（株）東京堂出版	貸出・掲載	写真	モノクロ写真1	名古山古墳	出土土器集合写真
初芝高等学校	貸出	遺物	石器2	四ツ池遺跡	石庖丁1・石鏃1
			土製品2	四ツ池遺跡	土錘2
			土器2	雁屋遺跡	弥生土器2
			土器1	陶器南遺跡	須恵器
初芝中学校	貸出	遺物	土器1	谷山池12号窯	須恵器
			土器1	陶器南遺跡	須恵器
			埴輪1	応神陵古墳外堤	円筒埴輪
			瓦1	新堂廃寺	軒丸瓦
堺市立埋蔵文化財センター	転載	写真	モノクロ写真1	土塔	土塔採土状況写真
藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
			カラーポジ1	国府遺跡	出土人骨
			カラーポジ3	善上山古墳	人物埴輪
			カラーポジ1	青山4号墳	猪形埴輪
大阪府立弥生文化博物館	貸出・掲載	写真	カラーポジ15	池上曽根遺跡	遺構写真15
			カラースライド2	池上曽根遺跡	遺構写真2
初芝中学校	貸出	遺物	土器1	谷山池12号窯	須恵器
			土器2	新堂廃寺	須恵器1・土師器1
			瓦1	新堂廃寺	軒丸瓦
奈良大学文化財学科	貸出		土器13	陶邑窯跡群	須恵器13
個人	実測・掲載		瓦1	お亀石古墳	平瓦
堺市立桃山台小学校	貸出	遺物	土器5	牛石7号墳	須恵器5
			土器4	美木多第3地点	須恵器4
			土器1	野々井遺跡	須恵器
			土器2	檜尾塚原9号墳	須恵器2
			埴輪1	野々井南遺跡	円筒埴輪

		写真	カラースライド10	陶邑窯跡群	発掘調査状況
大阪市立大学	実測・掲載	遺物	瓦19	坂本寺跡	軒丸瓦19
東京国立博物館	貸出・掲載	写真	モノクロ写真13	鳥坂寺跡(高井田廃寺)	鴟尾
(財)元興寺文化財研究所	掲載	遺物	木製品7	高柳遺跡	建築材7
個人	掲載	遺物	土器3	川北遺跡	弥生土器3
京都文化博物館	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
石川県立歴史博物館	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
宮崎県総合博物館	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
香川県歴史博物館	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
横浜市歴史博物館	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
朝日新聞社	貸出	遺物	須恵器1	陶邑KM234号窯	「伊飛寅」銘陶棺
			須恵器1	野々井遺跡	「門出」銘須恵器
藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真	モノクロ写真1	津堂城山古墳	長持形石棺出土状況
藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーネガ1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
(株)小学館	貸出・掲載	写真	石器1	石曳遺跡	扁平片刃石斧
			石器1	稲葉遺跡	柱状片刃石斧
			石器18	東山遺跡	石鏃6・石匙1・石錐1・石庖丁1・磨石1・叩石1・石冠1・丸石2・石槌1・石皿1
			鏡1	北玉山古墳	捩文鏡
			鏡1	寛弘寺10号墳	半円方格帯二神二獣鏡
			鏡1	寛弘寺27号墳	珠文鏡
			鏡19	壷井御旅山古墳	三角縁神獣鏡4・内行花文鏡14・八獣形鏡1
(有)阿南写真工房	貸出・掲載	写真	カラー写真1	一須賀古墳群	土器集合
			カラー写真1	一須賀古墳群	0―5号墳石室全景
			カラー写真1	寛弘寺遺跡	有舌尖頭器
			カラー写真2	寛弘寺古墳群	75号墳遺物出土状況・12号墳出土玉類
			カラー写真1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
			カラー写真1	八尾南遺跡	縄文土器
			モノクロ写真1	北岡遺跡	土師器集合
			モノクロ写真1	讃良郡条里遺跡	木器集合
			モノクロ写真1	中筋遺跡	土師器小皿
			モノクロ写真2	堂山古墳群	須恵器高杯・同拡大
			カラー写真	堂山古墳群	甲冑
			モノクロ写真1	成法寺遺跡	墨書人面土器
			モノクロ写真1	大庭北遺跡	木筒
			モノクロ写真1	西ノ辻遺跡	瓦器椀
			カラー写真1	青山遺跡	須恵器器台
			カラー写真1	古室遺跡	冑形埴輪
			カラー写真1	池尻城跡	太刀柄頭
			カラー写真1	加納古墳群	石室内
			カラー写真1	安威遺跡	鍬形石
			カラー写真1	総持寺遺跡	「調」須恵器
			カラー写真1	余部遺跡	鋳型
			カラー写真1	国府遺跡	石器
			カラー写真1	土師の里遺跡	線刻円筒埴輪
			カラー写真1	田井中遺跡	弥生土器集合
			カラー写真1	誉田白鳥遺跡	舟底形石器
			カラー写真1	池島・福万寺遺跡	石包丁
			カラー写真1	甲田南遺跡	石槍
			カラー写真1	中野遺跡	鳥形木製品
個人	実測・掲載	遺物	土製品4	砂遺跡	土偶4
個人	貸出・掲載	写真	鏡1	堺環濠都市遺跡	柄鏡
			鏡1	大坂城跡	柄鏡
神戸市埋蔵文化財センター	貸出・掲載	遺物	埴輪1	野々井遺跡	人物埴輪
		写真2	カラーポジ1	野々井遺跡	人物埴輪
			モノクロ写真1	野々井遺跡	人物埴輪
東大阪市立郷土博物館	貸出・掲載	遺物	土器3	西ノ辻遺跡	瓦器椀3
			骨3	西ノ辻遺跡	獣骨3
		写真	モノクロネガ	西ノ辻遺跡	獣骨出土状況
藤井寺教育委員会	貸出	遺物	埴輪3	萱振1号墳	円筒埴輪片
富田林市教育委員会	貸出	図面一式	遺構	新堂廃寺	遺跡平面図
(株)同成社	貸出・掲載	遺物	埴輪1	善上山古墳	人物埴輪
八尾市立歴史民俗資料館	貸出	遺物	土器	東郷遺跡	特殊器台片
		写真	土器	東郷遺跡	特殊器台片
吉野ヶ里公園管理センター	転載	写真1	木製品1	安満遺跡	簪
香芝市二上山博物館	貸出・掲載	遺物	瓦1	お亀石古墳	平瓦
		写真	モノクロ写真1	お亀石古墳	平瓦出土状況
		遺物	磚8	初田1号墳	磚8
			金属製品1	初田2号墳	耳環
			ガラス製品3	初田2号墳	ガラス玉3
			銅製品4	初田2号墳	漆棺付銅釘4
			棺材1	初田2号墳	漆棺破片
		写真	カラー写真1	初田2号墳	漆棺破片
		遺物	磚3	牛石14号墳	磚3
			須恵器2	牛石14号墳	杯蓋2
美原町教育委員会	貸出・掲載	写真	カラー写真1	余部遺跡	青銅製品・鉄板材・鉄鍋片
(株)碧水社	貸出・掲載	写真1	モノクロ写真1	萱振1号墳	釵形埴輪
		写真1	モノクロ写真1	赤堀茶臼山古墳	復元家形埴輪
藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真2	モノクロ写真2	津堂城山古墳	古墳遠景・石棺出土状況

		写真1	カラー写真1	津堂城山古墳	葺石検出状況
朝日新聞社	転載	写真1	カラー写真1	三ツ塚古墳	修羅
		写真1	カラー写真1	南花田遺跡	墨書土器
(株)渓水社	転載	図面1	遺構	田井中遺跡	土壙407遺物出土状況
四条畷市立歴史民俗資料館	貸出・掲載	遺物	土器13	堂山1号墳	須恵器高杯9・壺1・瓦はそう1・取手付椀1・器台1
			埴輪1	堂山1号墳	円筒埴輪
		写真	カラーポジ1	堂山1号墳	甲冑
個人	貸出・掲載	写真	カラー写真2	堺環濠都市遺跡	柄鏡2
			カラー写真1	大坂城西町奉行所跡	柄鏡1
大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出	写真	カラースライド5	城山遺跡	検出遺構
日本芸術文化振興会	転載	写真	木製品	三ツ塚古墳	修羅
泉佐野市立歴史館いずみさの	貸出・掲載	遺物	瓦14	秦廃寺	軒丸瓦8・軒平瓦6
			瓦17	信太寺	軒丸瓦11・軒平瓦5・文字瓦1
		写真	瓦4	秦廃寺	軒丸瓦4
			モノクロ写真2	秦廃寺	航空写真・全景写真
			モノクロ写真2	禅寂寺	遺構写真
(株)碧水社	転載	写真	カラー写真3	池上曽根遺跡	石斧3
嵐山町教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
泉大津市織編館	貸出・掲載	写真	カラー写真2	古池遺跡	遺構写真
			カラー写真2	要池遺跡	遺構写真
泉大津市織編館	貸出・掲載	写真	カラー写真3	豊中遺跡	手斧1・鎌柄2
大阪芸術大学	貸出	遺物	土器12	陶邑窯跡群	須恵器12
大阪府立近つ飛鳥博物館	転載	文		紫金山古墳	『大阪府の文化財』
編集工房ふしみや	貸出・掲載	写真	モノクロ写真2	余部遺跡	和泉型瓦器椀2
大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出	写真	カラースライド6	寛弘寺1号墳	調査状況
田辺市史編さん室	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	はざみ山遺跡	旧石器住居址
八尾市教育委員会	転載	写真	カラー写真1	萱振1号墳	靫形埴輪
個人	貸出・掲載	写真	カラー写真2	新堂廃寺	瓦集合・鴟尾
大阪府立弥生文化博物館	貸出・掲載	遺物	土製品73	田井中遺跡	紡錘車5・土錘67・土偶1
			石製品14	田井中遺跡	紡錘車3・石棒3・石斧5・石庖丁3
			石器15	田井中遺跡	サヌカイト片15
			土器14	田井中遺跡	弥生土器14
			骨1	田井中遺跡	猪下顎骨
			木製品9	田井中遺跡	農工具9
			土器2	讃良郡条里遺跡	縄文土器2
日本経済新聞社	貸出・掲載	写真	カラーポジ2	蔀屋北遺跡	遺跡全景・馬の顎
個人	実測・掲載	遺物	鉄器	藤の森古墳	鉄鏃
舞洲陶芸館	転載	写真	カラー写真2	陶邑窯跡群	須恵器
	撮影・掲載	遺物	土器4	陶邑窯跡群	須恵器
徳島市立考古資料館	貸出・掲載	遺物	玉1	池上曽根遺跡	翡翠製勾玉
		写真	カラーポジ1	池上曽根遺跡	翡翠製勾玉
(株)小学館	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
(財)21世紀協会	転載	写真	カラー写真1	津堂遺跡	和泉型瓦器椀
大阪府立弥生文化博物館	貸出・掲載	写真	カラースライド8	田井中遺跡	遺跡全景・各遺構
			カラーポジ7	田井中遺跡	土器・石器・木器集合、猪下顎・土錘・サヌカイト片・石棒・土偶
			カラーポジ1	讃良郡条里遺跡	土器2点集合
美原町教育委員会	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	余部遺跡	鋳造土壙
			モノクロ写真5	余部遺跡	瓦器椀2・瓦器皿1・鋳型2
			カラー写真	余部遺跡	井戸・青銅製品・鉄板材・鉄鍋片
個人	撮影・掲載	写真	カラー写真1	東奈良遺跡	かしら
			カラー写真1	茨田安田遺跡	かしら(レプリカ)
橿原考古学研究所附属博物館	貸出・掲載	遺物	木製品2	蔀屋北遺跡	輪鐙2
		写真	カラーポジ1	蔀屋北遺跡	輪鐙
			モノクロネガ1	蔀屋北遺跡	輪鐙
		遺物	金属製品	愛宕塚古墳	f字形杏葉1・剣菱形杏葉2・金銅製垂飾2
(財)大阪府文化財センター	貸出	遺物	瓦13	新堂廃寺	軒丸瓦8・軒平瓦3・鬼瓦1
サイエンス・サテライト	貸出・掲載	遺物	土器1	三軒屋遺跡	縄文土器
			土器1	池上曽根遺跡	弥生土器
栃木県立博物館	貸出・掲載	写真	カラーポジ1	はざみ山遺跡	旧石器時代住居跡
(有)ワイズクリエイト	貸出・掲載	写真	カラーポジ2	蔀屋北遺跡	調査地全景
泉大津市教育委員会	転載	写真	モノクロ写真4	板原遺跡	検出遺構
大阪市学芸員等共同研究実行委員会	貸出	遺物	石器	南花田遺跡	旧石器
			石器14	誉田白鳥遺跡	旧石器14
			石器69	はざみ山遺跡	旧石器69
			石器95	国府遺跡第3地点	旧石器95
			石器16	国府遺跡第6地点	旧石器16
			石器88	八尾南遺跡第3地点	旧石器88
			石器一式	八尾南遺跡第6地点	旧石器一式
発掘された日本列島展実行委員会	貸出・掲載	遺物	鴟尾	新堂廃寺	鴟尾
		写真	カラーポジ6	新堂廃寺	鴟尾・各遺構・遺物
大阪府立弥生文化博物館	転載	写真	カラー写真1	池上曽根遺跡	方形周溝墓検出状況
八尾市立歴史民俗資料館	貸出・掲載・転載	遺物	土器10	郡川16号墳	須恵器
		写真	モノクロ写真10	郡川16号墳	須恵器
		写真	カラーポジ1	三ツ塚古墳	修羅出土状況
		図面	実測図	高安古墳群	遺構
大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	カラーポジ2	シシヨツカ古墳	ガラス製玉類1・金銅製指輪1

資料閲覧

所属	資料内容	遺跡
堺市立埋蔵文化財センター	土器	シシヨ塚古墳
堺刃物協同組合連合会	包丁	大坂城跡
堺市立埋蔵文化財センター	文字瓦	陶邑窯跡群
寝屋川市教育委員会	埴輪・土器	更良岡山3号墳

富田林市教育委員会	平瓦	お亀石古墳
(財)大阪市文化財協会	韓式系土器他	蔀屋北遺跡
熊本大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
立命館大学	土師器	崇禅寺遺跡
熊本大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
熊本大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
熊本大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
泉大津市教育委員会	図面	大園遺跡
大阪市立大学	瓦	秦廃寺・麻生中下代遺跡
香芝市二上山博物館	瓦他	お亀石古墳・初田2号墳・南坪池古墳
香芝市二上山博物館	陶棺他	牛石13・14号墳・檜尾塚原2号墳・初田1号墳
立命館大学	土師器	崇禅寺遺跡
大阪市立大学	瓦	禅寂寺跡
大阪大学	石器	東山遺跡・寛弘寺遺跡
大阪大学	石器	寛弘寺遺跡
富田林市教育委員会	図面	新堂廃寺
豊中市教育委員会	土師器	萱振遺跡
立命館大学	土師器	中田遺跡
(財)滋賀県文化財保護協会	須恵器	陶邑窯跡群
花園大学	須恵器	陶邑窯跡群
鹿児島大学	須恵器	陶邑窯跡群
藤井寺市教育委員会	埴輪	萱振遺跡
河内長野市教育委員会	土器	野々上遺跡
大阪大学	石器	木の本遺跡
釜山大学校	須恵器	陶邑窯跡群
大山崎町教育委員会	瓦	岸部瓦窯・百済寺跡
美原町教育委員会	土器他	平尾遺跡
大阪市立大学	瓦	観音寺遺跡
九州大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
九州大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
大阪市立大学	瓦	観音寺遺跡
立命館大学	土師器	成法寺遺跡
大阪市立大学	瓦	観音寺遺跡
全南大学校博物館	U字形土製品他	蔀屋北遺跡
立命館大学	土師器	萱振遺跡
大山崎町教育委員会	瓦	百済寺跡
精華町教育委員会	瓦	百済寺跡
大野城市教育委員会	須恵器	陶邑窯跡群
愛知県埋蔵文化財センター	巴形銅器	国府遺跡
立命館大学	土師器	萱振遺跡
浜松市博物館	鉄器	藤の森古墳
奈良大学	埴輪	総持寺遺跡・ツゲノ遺跡・更良岡山遺跡
立命館大学大学院	埴輪	御旅山古墳
大山崎町教育委員会	瓦	百済寺跡
精華町教育委員会	瓦	百済寺跡
立命館大学大学院	埴輪	御旅山古墳
堺市立埋蔵文化財センター	文字瓦	土塔
大阪市教育委員会	須恵器	陶邑窯跡群
大手前大学	埴輪	応神陵古墳・西小山古墳・仲津媛陵古墳
国立歴史民俗博物館	須恵器	シシヨ塚古墳
大手前大学	縄文土器	更良岡山古墳・土師の里遺跡・唐櫃山古墳
高野山大学	韓式系遺物・須恵器	蔀屋北遺跡・シシヨ塚古墳
(財)大阪市文化財協会	旧石器	八尾南遺跡・国府遺跡・はざみ山遺跡
名古屋大学大学院	縄文土器	淡輪遺跡
京都橘女子大学	鋳造関連遺物	崇禅寺遺跡
香芝市二上山博物館	板状土製品	誉田山15号墳
(財)滋賀県文化財保護協会	須恵器	陶邑窯跡群
東北芸術工科大学	須恵器	陶邑窯跡群
花園大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
静岡大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
奈良大学	石器	池上・曽根遺跡
(財)滋賀県文化財保護協会	須恵器	陶邑窯跡群
東北芸術工科大学	須恵器	陶邑窯跡群
花園大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
静岡大学大学院	須恵器	陶邑窯跡群
立命館大学	埴輪	総持寺遺跡
立命館大学	埴輪	総持寺遺跡
名古屋大学大学院	縄文土器	淡輪遺跡
出土銭貨研究会	備蓄銭	家原寺・文殊山・三田町小倉出土
富沢遺跡保存館	石核	はざみ山遺跡

平成14年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

- 課長 参事
  - 保存管理グループ
  - 指定文化財グループ
- 文化財調査事務所
  - 文化財保護課分室
    - 調査管理グループ　調査管理補佐 堀江門也
      - 資料総括主査　大野　薫
        - 森井貞雄　主査　泉北資料館協力　事務所維持管理等
        - 兼　泰通　主査　積算及び竣工等
        - 松岡良憲　主査　（財）文調センター指導・調整・事業量調査
        - 竹原伸次　技師　年報・調査報告書　写真・保存処理等
        - 山田隆一　技師　遺物整理　資料管理・貸出等
        - 小浜　成　技師　遺物整理　非常勤職員賃金等
    - 調査第一グループ　調査第一補佐 中井貞夫
      - 調査第一総括主査　岩崎二郎
        - 泉本知秀　主査　発掘調査・調整・指導（豊能　三島　北河内）
        - 小林義孝　主査　発掘調査・調整・指導（中河内）
        - 辻本　武　技師　発掘調査
        - 宮崎泰史　技師　発掘調査
        - 奥　和之　技師　発掘調査
        - 山上　弘　技師　発掘調査
        - 横田　明　技師　発掘調査
        - 井西貴子　技師　発掘調査
        - 藤田道子　技師　発掘調査
    - 調査第二グループ　調査第二補佐 高島　徹
      - 調査第二総括主査　広瀬雅信
        - 西口陽一　主査　発掘調査・調整・指導（南河内）
        - 藤沢眞依　主査　発掘調査・調整・指導（泉州）
        - 今村道雄　技師　発掘調査
        - 亀島重則　技師　発掘調査
        - 枡本　哲　技師　発掘調査
        - 大楽康宏　技師　発掘調査
        - 阿部幸一　技師　発掘調査
        - 西川寿勝　技師　発掘調査
        - 杉本清美　技師　発掘調査

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 7
発行日　2004年 3 月31日
発　行　大阪府教育委員会
〒540－8571
大阪市中央区大手前 2 丁目
☎06－6941－0351
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒590－0105
堺市竹城台 3 丁21－ 4
☎072－291－7401
印　刷　中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南 2 － 6 － 8